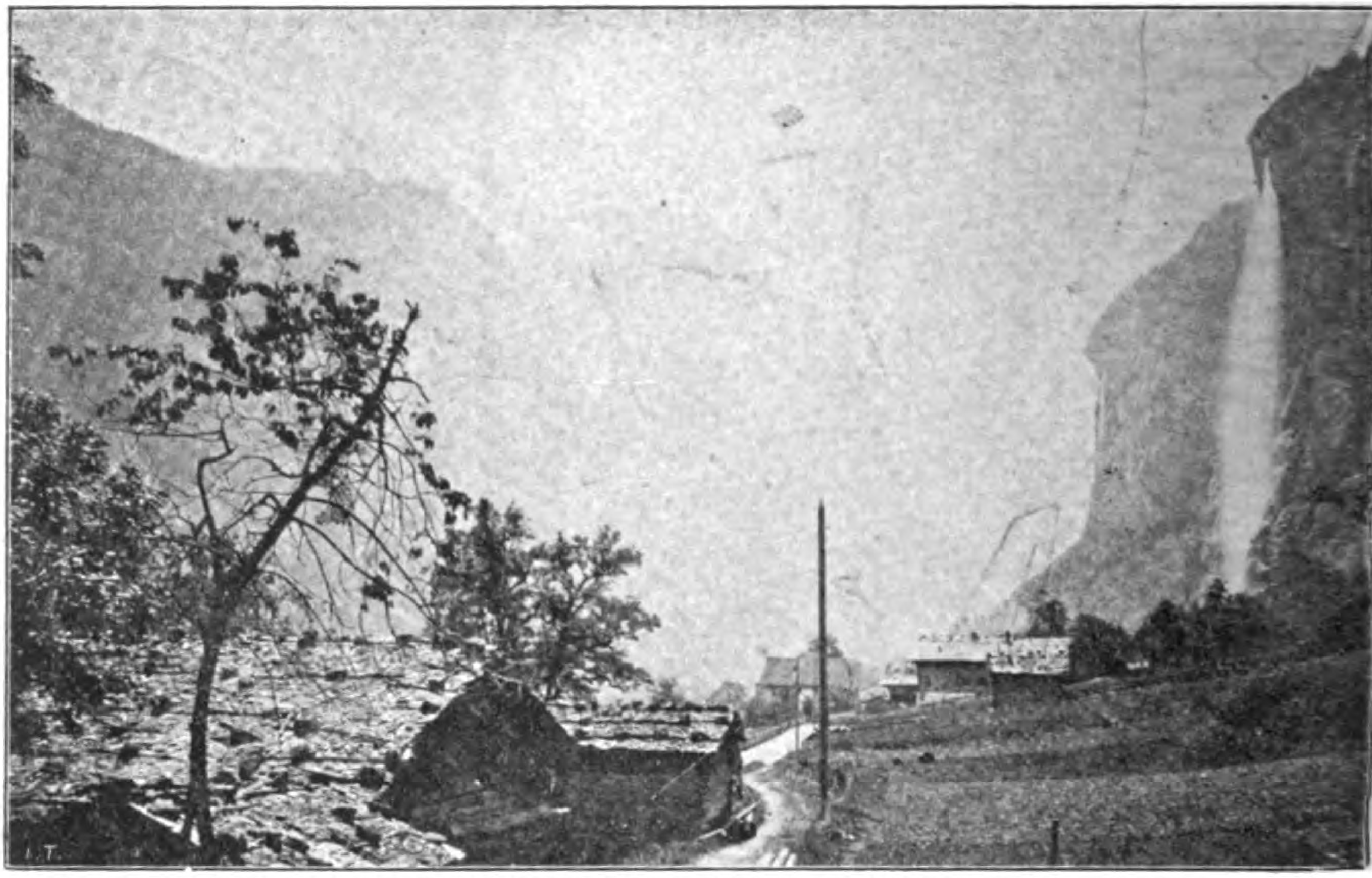
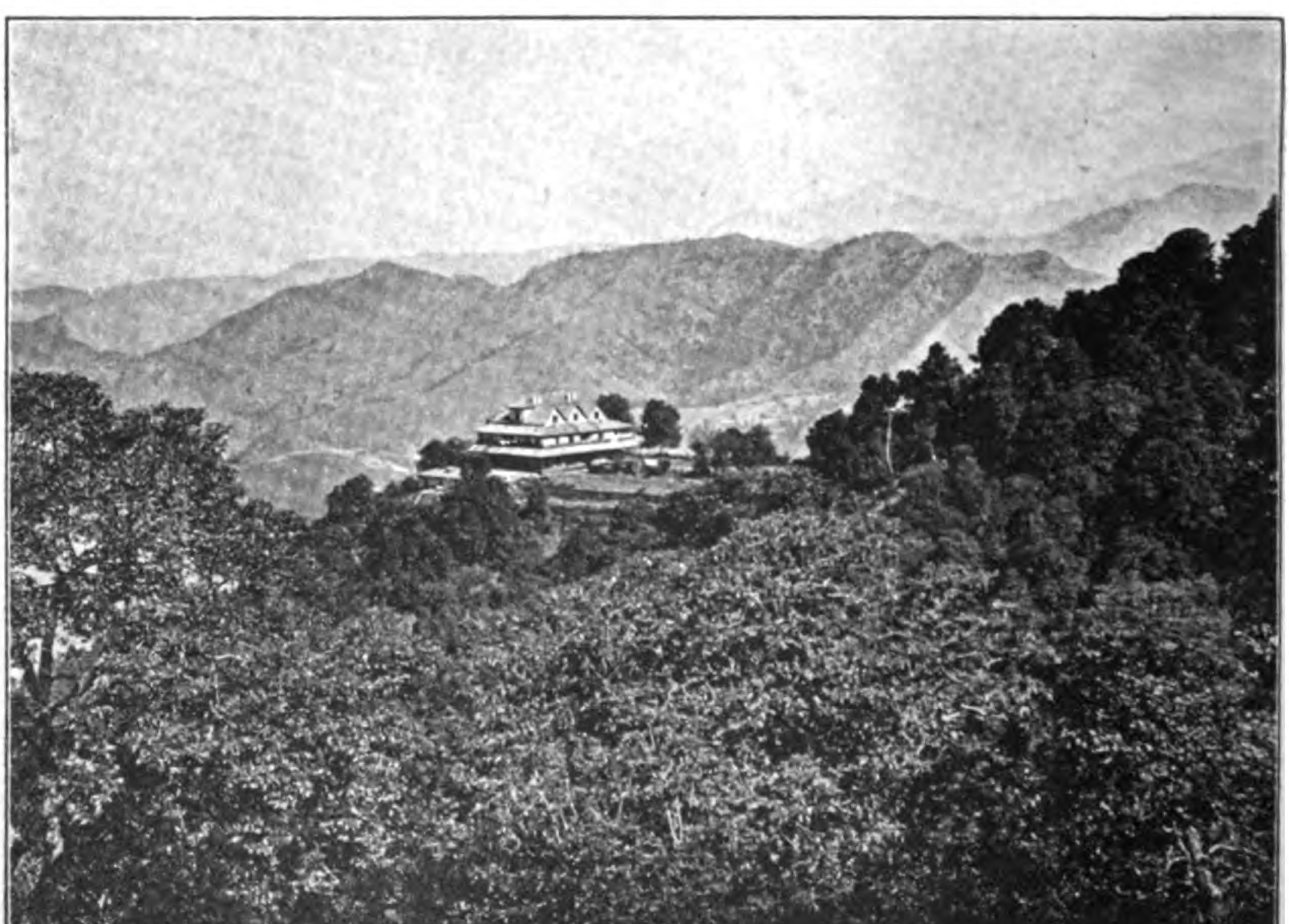
中央公論

本號目次



（瑞西の山光）



（印度シツチム山間）

N:148

中央公論　第十六年第六號

中央公論

病的人民に對する政府の任務

（警察監獄學校を廢すとは信か）

社會組織の下層に沈み、倫理的訓育の恩化に浴せず、罪戻に染み、惡道に進むもの、之を名けて病的人民と云ふ、この憐むべき病民に對し、一々精細なる調査を遂げば、その犯罪の悲境に陷り、刑餘の人間となるに至れるもの、必しも自己一身の責任にのみ歸すべからざるものあり、多くは社會組織の不完全に起因し、若くは國家敎育の不備に歸すべきものなり、斯道に經驗ある人の言に依れば、罪人中、唯その一部分のみ、知覺的に罪惡を犯せるものにして、その大部分は、薄志、弱行、痴鈍、愚昧、不明、無智、貧苦よりして、その悲境に沈みたるものなりと云ふ、是れ明かに國家敎育の不完全と社會組織の不備とに歸すべきものにして、この病民をその病態より救ひ出すは是れ國家至當の任務たるや言を俟たず、

その病根を治去し、再び健全の狀態に復歸せしむるの方法は、その豫戒的たると感化事業たるとを問はず、幾多の方法あるべしと雖、殊に現囚に向つて國家が施すべきの任務は、罪囚訓化に於て直接、間接に關係ある治化、敎化の責任者養成なりとす、何をか治化の責任者と云ふ、典獄、警官等、之が裁配を司る所の官吏是れなり、何をか敎化の責任者と云ふ、是れ僧侶、宣敎師等、罪囚敎誨の事業に從事せるもの是れなり、この兩者の知識を進め、常識を發達せしめ、公德の何たるを解するに至らしめ、私德の更に大切なるを悟らしむるに至らしめ、同情を以て罪人に向ひ、公心を以てその支配を爲さしむるは、是れ實に國家の常に企圖すべきの事項なりと謂ふ可し、

獨逸國の如き、眞正の倫理的敎育は、宗敎と相結托して、始めて完全の能力ありと云へる地盤的思想の上に成立てる社會に於ては、此等の施設最も容易にして、その功果も隨ふて大なるべきも、我國の如き宗敎を一種の厄介物と見做し、何事にも利用すべからざるもの

として敬遠せる國に於ては、國家と宗教と相結托する上に於て困難最大なりとす、如此政教が一致すべき處にまで分離するに至りしは、宗教が實際自己の任務を悟らず、常に政府の厄介たりしに起因すと雖、政府も亦宗教を賤視し、如此退落せしめたる責任なしとせず、されど漸くにして監獄教誨に於て宗教の能力を承認すべきを覺り、今や務めて之を奬勵するの必要を感ずるに至りたり、

明治政府は、社會改善の方面に於ては、一定の方針なく、常に彼此相矛盾し、前後相撞着するの痴態を演せしこと多かりしが、近來に至り、社會の下層に向つて行はるべき文明國の任務を覺知せるに至れるは、實に喜ぶべきの現象なりとす、政府がこの任務を悟りたるより、文明の恩光が社會の下層に及び、一身の自由を得、德義の何物たるを知り、風紀の重んずべきを悟り、自己の責任を知覺するに至りしもの幾何なるを知らず、

政府のこの方面に於ける施設中、社會改善の精神よりして、最讃すべきの事業は、警察監獄學校なりとす、內務省のこの擧は實に近年の一大善事にして、世界の監獄史に特筆すべきものとす、世間は左までその必用を認めず、有無相關せざるものゝ如き狀あるは、是れ我國社會的知見の缺乏に依るものにして、この社會にしてこの好擧ありしは、當局者の功勞の愈々大なるを示す所以なりと云ふべし、その帝國大學の教授にも優る高給を拂ひて、西人を迎へ、之に通辯を附してその教育を托したる如き、邦人教授の撰擇に於ても、その標準稍高尙に過ぎ、その功果意外に僅少なる如く見ゆるも、その社會に及ぼせるの應果決して少々に非ず、その奏功の有無を驗するは寧ろ今日に非ずして將來に在り、その組織方法に於て或は缺ぐる所ありしやも知るべからずと雖、現時組織の如何を以て直ちにその事業全躰の可否を云々する如きは識者の取るところにあらず、

頃日聞く所に依れば、內務省は今學期を以て警監學校を廢止せんとすと云へり、是れ或は說聞に屬すべきも、かゝる說話の世に傳はる實に悲むべきものたり、今その理由の在る所を詳かにせずと雖、一度自己の任務を悟り、而して故なくその任務を忘るゝに至るは、實に是れ無定見の致す所なりと云ふべし、未その功果を確知せずして、之を廢し、その事業意の如くならざるが如く見ゆるは、或はその組織方法の不完全に歸するな

きや、充分に之を討究して、而して後徐ろに之が存廢を議して可なり、殊にこの政府の施設は、宗敎家に對し、一大刺撃を與へ、その罪囚に對する任務を自覺せしむるに至り、東西本願寺の如き、別に監獄敎誨師養成所を設けて、その敎誨進步の道を講ずるに至れり、是れ明かに政府施設の反應にして、宗敎家をしてその任務を自覺せしめたる功能のみにても、その影響の大なるを知るべし、治化責任者の一學校、能く敎化責任者の兩學校を起するに至る、我國宗敎を有用の場所に利用するの道に進みたるものにして、將來の罪囚訓化事業、引ひて感化事業、免囚保護、孤兒院、貧民院、施療院等に於て、その關係する所實に大なりとす、之の一大動機たるべき警監學校を、早計にも廢止して顧みる所なきは、識見ある當局者の爲すべからざる所なり、十萬の經費惜むに足らず、他の新事業を廢するも、この事業は繼續せざるべからざるなり、殊に我國警察官の如きは紳士たるの資格ありて、他の文明國のものとその趣を異にせるは、夙に我國の自慢せる所に非ずや、而して近來著しく警察官品位の墜落を感ずるは實に遺憾とする所に非ずや、我警察業務の特徵を發揮し、その長所を長じ、警察組織の完全を世界に示し得るに至らば、我社會組織の安全を保維するため、公德養成の一大源泉となることをも期し得べきなり、政府は之に仍りて、罪囚治化の上に於て充分の知識ある責任者を得、宗敎は之に仍りて、罪人敎化の上に於て完全の知識ある責任者を得る道に進み、國家宗敎倶にその下層人民殊に病的民衆に對する任務を全ふし、加之將來社會改善の精神を誘導し、秩序ある社會的事業を獎進するに至らば、警察監獄學校の任務も亦盡せりと謂ふべきなり(文學博士　高楠順次郎)

日本財政の將來

日本帝國の財政危機に瀕せりとは、吾人の屢々耳にする所なり、之を内にしては前大藏大臣渡邊子の如き、我か財政の既に破產に迫れるを說くあり、之を外にしては橫濱在勤の米國領事の報告の如き、若くは露國新聞ノオーエ、ウレミヤの如き、其甚しきは日本財政の紊亂を以て東洋平和の爲に祝すべき兆候なりと揚言するあり、然らば我か帝國の財政は果して此くの如く危殆なる乎、吾人は嚴精なる事實に徵して、我か財政の眞相を究め、以て將來を策するの必しも徒勞ならざる

を信ず、
抑々戰後經營なるものは國家大發展の過渡に際し、國運の進捗に伴ふ新施設なり、故に其規模や宏遠なるべく、其經綸や精確ならざるべからず、從て各般事業の爲に要する經費の多大なるは、勢の然らしむる所にして怪むに足らざるなり、當初政府は其財源に關し、經常の費途に屬するものは租税を增徵し、陸海軍備の擴張及製鐵所創立費は、淸國償金の內を使用して之に充て、運輸交通機關等の設備は公債募集金を以て之を支辨するの計畫を立てたり、然り、戰捷の餘響は政府事業の繁多なるのみならず、延て民間事業に大刺擊を與へ、企業熱頓に勃興して會社銀行は雨後の筍子の如く簇生するに至り、其過大無謀の計畫を掩ふに積極主義なるものを以てす、此主義や一面には經費の膨大を意味し、一面には所謂盲從を意味するか如く解せらる、斯の如く朝野相率て事業濫興の結果は、忽ち輸入超過となり、正貨の流出となり、物價賃銀著しく騰貴し、何事も豫算を以て實行すべからざるの勢を呈せり、加之各省大臣は各々其一隅に割據し、多くは其屬僚に擁せられて種々の新事業を企て、爭ふて其經費を要求するの風を馴致し、遂に國庫は莫大の歲入不足を訴ふるに至れり、

政府は戰後經營に伴ふ經常費の增額を支辨する爲め、先づ第九議會に於て三千三百五十七万六千二百九十三圓の增税を決行したるにも拘はらず、第十一議會に提出したる三十一年度豫算に於ては、早くも二千百餘万圓の歲入不足を訴へ、第十二議會に增税案を提出したるも成立に至らす、第十三議會に至り第二回增税案を通過し、國庫は實に四千二百二万二百十九圓を增加せり、是に於て乎、帝國財政の基礎鞏固なるを得たりと稱せり、次て一億圓の外債は三十二年六月倫敦に於て成功を告け、帝國財政の聲價は中外に稱揚せらるゝに至れり、而かも久しからずして又々歲入の不足を訴へ、第十五議會に第三回增税案を提出し、政府と貴族院と所見を異にし遂に　聖詔を累はして二千百餘万圓の增税を通過せり、

熟々既往の實歷に稽ふれは、戰後の財政計畫は遺算百出、昨是今非、甚しきは豫算の公布後、旬日を出てすして其實行し難きを愁訴するものさへあり、然れども吾人の見る所を以てすれは、帝國の財政は毫も悲觀するの必要を認めざるなり、夫れ經常歲入を以て經常歲出を支辨し、臨時の歲出は臨時の歲入を以て支辨すべしと

は財政家の踏むべき常道なり、試に明治三十四年度總豫算に徵すれば二億〇七百万圓の經常歲入に對し、經常歲出一億五千六百万圓、及ひ公債元金償還八百四十七万圓を支辨するも、尙國庫は四千二百八十六万圓の經常歲入を剩し得る計算なり、而して此剩し得たる歲入は年々臨時の財源に充て、三十七年度に至らは北淸事件借入金を償却し悉し、三基金塡補を完了して實に一千七百餘万圓の剩餘金を得べし、吾人は國運の進步社會の發達に伴ひ、種々の新事業を要するを認むるか故に以上の剩餘を現實にし得るやを知らすと雖も、又以て我か財政基礎の牢固なるを證するに餘あり、然らは臨時歲入は如何、是れ實は當今の問題なり、然れとも償金を以て支辨する陸軍擴張は三十六年度に了り、海軍擴張は三十八年度に於て完結する豫定なりしも、當局の銳意努力の結果、今や其事業殆んと成り、殘す所の經費は極て些額なるを以て、既定計畫に屬する軍備の成功は復た多く勞せずして可なり、獨り公債を以て支辨すべき事業は前途遼遠の感なき能はず、豫定の如くんば三十五年度以降募集せさるべからさる公債は、尙一億七千万圓を下らす而して之に三十四年度に募集を要する二千九百八十万圓、及ひ前年度迄の募集殘額一千三百万圓を加ふれば其額決して少なりと言ふべからず、されば前大藏大臣は政府事業の繰延を提議し、更に進んで次年度以降の事業を中止すべしと絶叫せり、然れども是れ角を矯めんと欲して牛を殺すの類にあらざるなき歟、言ふまでもなく現時の狀態より考ふれは內外の經濟市場は募債に便ならすと雖も、未た決して絶望の時にあらさるのみならず、寧ろ一陽來復の兆を呈せるにあらすや、乃ち之を內にしては物價漸く下落し、外國貿易亦漸く順調を呈し、之を外にしては南阿事件及北淸事件も將に局を結はんとす、吾人は曙光を地平線上に認めて尙暗きに就かんとする乎、公債を內外市場に需むるや否やは長者の爲に枝を折るの類のみ、

要するに、日淸戰役後、奇道を踏み、變態に踏りたる帝國の財政を整理して、平正の常道に復さしむるは刻下の急務なると同時に、政府國民にして既に實驗せる最上の敎訓に鑑み、秩序ある進步發達を企圖せば、我が財政の前途は綽々として餘裕を生し、國運日に伸暢し、國威月に發揚するや復た疑を要せさる也、

（石塚剛毅）

我商工業と軍備

麵麭を取れ、バターを棄てよと迄て極端には論ぜざるも、細長狹隘の國土、人口增加の夥しき本邦に於ては、所詮農業を以て立つこと能はず、其氣候上よりするも、果た地位上よりするも、商工業を以て、世界に雄飛す可き天の攝理を有せり。

先づ之を氣候上に就て見よ。我國境は地理學上、熱帶の終る所に起り、寒帶の始まる所に終れり。されば其位置溫帶に在りながらも、尙ほ能く寒熱兩帶の動植物に接し得可く、從て饒多なる天產を有せり。而も其氣候、おしなべて溫帶なるが故に、氣淸く日麗らかに殊に明媚なる山水と秀麗なる風光とは宛然詩の如く畫の如し。於是か西人呼んで世界の樂園と云ひ、吾人の祖先は自ら美國の稱を與へたり。ラマーチン嘗て曰く人は其周圍の自然の如く然りと。斯かる詩的天地に美神を友とするものは誰かまた美術的、工業的思想なきを得んや。

更らに之を地位上に就て見よ、初め英國が歐米兩陸間に介立して、遂に今日の富を得たるが如く、日本も亦亞細亞、亞米利加、濠太剌利亞三大陸間に存し、商業中心點の移動に於ても、亞細亞に在りては、シンガポールより、香港を經、上海に出で、なほ一層北上して、將さに日本に來らんとするの傾あり。全世界に在りては、亦米國より太平洋を渡り、亞細亞を通過して、やがて日本に歸せんとするものに似たり。加ふるに石炭は國の兩端より產出し、綿は支那滿州印度より求め易く、綿毛は濠太剌利亞、其他の地方より輸入するに難からず。英國今日の工業も、其原品は、大抵皆な此等諸地方の、恩惠に外ならずとせば、我國に於ては、原料品の產地及び販賣市場に近きよりするも、同質製品を同價にて仕上ぐるとせば、運賃の點に於ても、なほ我れの勝算ある可き道理なり。即ち其平和的戰爭場裡に於て、正さに最上の地利、最多望の根據地を有せり。唯此上に要す可きは、寧ろ商工業教育の普及に在る而已。

斯かる都合好き國柄なるを以て、美術的思想に於ては、割合に早く其發達を見たり。彼の足利の末、德川の始め、英國文化の大基礎なりと稱する、エリサベス時代（一五五六―一六〇三）に於てすら、手づから肉を裂き、殘餐を食臺下に投じて、僅に每水曜日を以て浚ひ

捨つる程の、粗野なる風習なりしにも係はらず、本邦に於ては、之れより先き既に室町將軍の代に於て、京都美術の模範たる金閣寺は建立せられ、當時我國の美術は、正に其進步の頂點にも、達せしかと思ふ計りなりき。更らに德川氏の世に移つては、ひとしほ其步を進めて、今日、日本美術の手鑑とも仰がるゝ日光廟は、また實に此時代の名譽ある代表物なり。然るに斯かゝる發達は、時運と共に伴ふ能はず、今に於て顧みれば、殆んど早苗にして秀でざるの感あり。疑ふものは、是を外國輸出品に就て見よ。緞通の賣れ行き悪しきは、染色の變じ易きが爲めなり、花莚のさばけざるは、意匠の陳腐なるが爲めなり。漆器陶器の名聞地に墮ちたるは、亦意匠の斬新ならざると粗製品亂出に在りと云ふにあらずや、其他一般の輸出品に就て檢するも、大低は、米、石炭、生糸の如き、日本固有の產物に過ぎずして、新奇の製品としては、眞に瑣細なる增進を見得るに過ぎず。比較的新奇なる貨物の、綿糸、燐寸、硝子器、洋傘の如き、近頃漸く歐米との競爭に於て、幾分の成功を見たるも、既に數十年來、海外より輸入し來り、今なほ陸續輸入せらるゝに於ては、日本工業の發達程度も、亦心細き次第ならずや。千八百九十六年、マルホール氏の掲げたる統計により、各國製造工業品の產額を見るに、一層其優劣を明にし得可し。

	機械品 (百万磅)	器具	其他	合計
北米合衆國	一八八	二九九	一、五六三	一、九八〇
英吉利	一九一	一四二	五四三	九七六
獨乙	一〇八	一〇五	四七七	六九〇
佛蘭西	一一五	四七	四三四	五九六
露西亞	八一	一五	二八四	三八〇
伊太利	三二	四	一五四	一九〇
日本	四二、九	一	一八、七	六二、七

即ち北米合衆國は十九億八千万磅にして、列國中最多額を占め、英、獨、佛、露、漸次之に次げり。今若し前記價格に對し、一割を加へたるものを以て、現今我國に於ける、總工業製品價格と見積るも、猶ほ六千三百磅にして、列國中最少額なるものなり。最も天惠ある國にして、最も少價格なりとは、所謂事足つて物成らざるの類乎、抑も亦我國人の其天職を知らざるに依る乎。

雪國に棲む兎は白く叢間に飛べるバッタは草色なり。氣候に於て地位に於て、自ら商工業國たる可き天祐を有するもの、如何でか其國民の天職を知らじと云ひ得んや。若夫れ商工業の進步遲々たりとせば、それは國民

の罪と云はんよりは寧ろ敎育不振の科に歸せずんばあらず。國にして敎育の擧らざるは、恰も貧家の兒の如し、人性に於て缺ぐなきも、其發達の餘裕なきなり。されば、現今歐米諸國にだても、國權上の爭よりは商權の擴張に勉め、軍備の膨大よりは敎育の振興に其勢力を傾けつゝあり。今各國軍事敎育兩費の人頭平均支出額を對照するに左の如し。

	(軍事費)	(敎育費)	(軍事費一圓に對する敎育費)
合衆國	、三九弗	一、三五	三、四六
佛蘭吉	四、〇〇	、七〇	、一八
英利西	三、七二	、六二	、一七
普魯西	二、〇四	、五〇	、二五
伊太利	一、五二	、三六	、二四
露西亞	二、〇四	、〇三	、〇一、五
日本	三、四八	、三八	、一〇、九

以上の表によれば、英佛兩國は、軍事費六に對する敎育費一なり。露國は軍事費七十に對する、敎育費一なり。米に至つては、之れと反對に、軍事費一に對する、敎育費四なり。而して我が日本に於ては、軍事費に在つては、各國の第三位に居り、敎育費に於ては、第六位に居り、即ち軍事費九に對する、敎育費一を支出し、例外なる露國を取除けば、兩費の權衡上我國の敎育費は、正に列國の最下位に存するものなり。多年商工業の振はざる、亦故なしとせんや。

世間或は曰く、日本國民は、一般に狹量にして、狡猾なり、殊に商人に於て最も然りと。然り吾人は今の日本國民に對つて、廣量なり、沈勇なり、信條ある國民と迄で、自書自贊を述ぶる能はず、縱ひ能く之をなし得たりとするも、目下の狀態は、唯一の猾稽として止まんのみ。仰ひて面に唾するの嫌ひあるのみ。さりながら、吾人は、また之を以て、一概に我國民の特性とし本領として自棄する能はず。顧みて、古封建鎖國の世、如何に我が百性町人の義理堅く、敦厚なりしかを想へ、誰れかまた往時追慕の情に堪えんや。

學問は善き事ながら、百性町人の身を以て、文事風流に淫するは、ゆめ〳〵いらぬものなり。

百性町人が學文すれば、農桒商ひの道をうるさく、賤く思ひ、人を侮り、輕しめ、家を失ふ基となるなり。假令能き形をしたりとて、百性は百性、町人は町人、形は賤しくとも、心正しければ、歷々の學文したる人と同じきなり。

これ當時、百性町人の遵奉したる訓言にして、又實に其理想とせる所なりき。最も卑下せられ、最も文盲視

せられたる百姓町人は、縦ひ智に於てこそ疎けれ、情に於ては、極めて欣慕す可きものありしなり。されば、人事上最も繁雑なる、貸借の如きも、證文の授受を要せず、證人の何たるを問はず「若し期限に至り義務相怠り候様の事あらば人前にて御笑ひ下され度」との簡約なる誓語は、實に百千の捺印、證文にも勝りしなり、（人前にて御笑ひ下され）との數語また以て、當時如何ばかり、彼等商人間に於ける、社會道德の盛なりしかを知り得ん乎。

線の延長が益々二點の距離を遠くる如く、社會の進歩は、稍もすれば、智情兩者をして、相遠けんとせり。維新の更革は、實に斯かる欽慕す可き美風をして、漸く一宵の醉夢たらしめんとせり、而して今や遂に、教育の振興をも忘れしめんとせり。日本商人、豈獨り無信條なるものならんや、罪唯教育の不振に座するのみ、御者の教鞭を忽にせしに依る而已。

事情果して然りとせば、之れが振奬の方法如何、經費支出の途如何。吾人は先づ云はんとす、不生産なる支出を停止す可し、過大なる軍備の縮少を計る可しと。今此に千九百年に於ける統計に依り、各國軍備の狀態を見るに、如何ばかり本邦軍事費の、多大なるかを知り得可し。

獨乙	九一九、一一一、	% 四五、八二一、
佛蘭西	八六七、〇〇六、	三〇、四六八、
英吉利	八〇三、六〇〇、	二八、九六八、
伊太利	三二八、二四七、	二二、八五五、
魯西亞	七八二、八八六、	二四、一五一、
日本	八七、七一六、	三六、八〇〇、

即ち其百分比列に於て、第一は獨、第二は日本なり、幸に日本は、開國日尙ほ淺く、從つて國債割合に少きも、若し諸外國同様に、國債の增加し行かんか、到底今日の儘にて、堪え得可き國力にあらず、殊に昨年の如きは、全歲出三分の一は、即ち陸海軍費なりと云ふにあらずや。貿易振はず、教育擧らず、而して財政の困難なる、遂に事業繰延べの醜態を演じつゝある、日本にして、何か故に斯かる、軍備の多大を要す可きや、吾人は其幾分を以てなりとも、目下の最急要務なる、教育の振興を切望するものなり。公平なる眼を以て見よ、今は實に、學問の恐慌時代にあらずや。

教育は實に、要務中の最要務なり。而して殊に本邦に於て、寸時を忽にすべからざるものは、商工業教育なり、吾人國民が、其天分を全うす可き、要素の培養に

在り。彼の英の如き夙に商工業の忽にす可からざるを感知し、之れが獎勵施設の途に於て、殆んど遺漏なきが如きも、近年獨米の勢力漸く盛に、啻に其商品が、自國の領域内なる、濠洲、印度、及加奈陀地方に於て、侵害さるゝのみならず、獨乙の絹布にして、マンチエスターに賣られ、獨乙の綿布にして、スピターフ井ールドニ賣られ、生鐵石炭の產額も、今や殆んど米の凌駕せんとするに至り、今日の英は、また昔日の英にあらざらんとせり。於是か、頻に其原因を探究したるの結果、遂に商工業教育の、缺乏に存するを推知し、今や盛にこれが獎勵に勉めつゝあり、英の勢力を以て、尚ほ然り、況んや本邦の如き、漸く其進歩の途に上りつゝある時に於をや。現に見よ、高等商業學校の如き、政府の直轄としては、僅に一校のみ、而も年々、入學應募者の餘れるもの、數百人の多きに上れるにあらずや。其他中等以下の校舍に於けるも、公私兩者を合して、僅に屈指に足ざるなり。是れ商工業國として、其道に盡せりと云ひ得可き乎。

要するに教育は、國家永遠の要務なり。戰爭は止むを得ざるの罪惡なり。止むを得ざるの罪惡に備ふる、如此く厚く、國家永遠の要務に備ふる、如此く薄し、主客の轉倒、亦何ぞ甚しきや。況んや世は、益々平和的膨脹に急なるに於てをや、於是か吾人は云ふ、軍備縮少す可し、教育を隆盛にす可し、而して眞商工業國たるの天職を全うせよ。事若し不幸にして成らず、費途のよる可きなくんば、更らに世の資產家に訴へ、盛に私立商工業學校の勃興せん事を望む。聞く獨乙に於ては父兄が其子弟をして、生存競爭の艱苦を免れしめんよりは寧ろ其子弟をして、競爭の準備を爲すに適せしめん事を努むと。これ文明國に於ける父兄の本務なり。噫此の心を以て、本邦父兄に望まん哉。本邦施政家に切望せん哉。(篠原九皐)

西伯利の發達と西伯利鐵道（二）

左は露國政府が西伯利の發達と西伯利鐵道實況に就ての露政府の報告なり。西伯利の地勢沿革より西伯利鐵道の現況殖民政策の方針を說くこと簡にして精確なり。

巖南生。

（中）西伯利鉄道の敷設

西伯利鉄道敷設は平和政略を主とせる歴山三世時代に起せる一大企業にして一千八百九十一年三月十七日を以て當時皇太子たりし露國今帝ニコライアレキサンドロウヰチ殿下に露領太平洋沿岸に於て西伯利横貫鐵道の起工式を擧くへき勅語を下され皇太子は東洋漫遊の途次浦鹽斯德に於て同年五月十九日親しく西伯利鐵道起工式を擧けられたり。

西伯利鐵道敷設事業を總轄し同鐵道の貫通する地方の殖民及び商工業の發達に盡する附帶事業を完成せんが為め西伯利鐵道委員會なる一官署を起し皇太子を以て之が總裁としたりしが先帝崩御して皇太子の即位せられたる後も依然總裁の任務を執らせらる。現に其委員會に關する人々は内務大臣（シヤビヤギン氏）農務及國有財産省大臣（エルモロフ氏）大藏大臣（ヴヰッテ氏）遞信大臣（ヒルコフ侯）陸軍大臣（クロパトキン中將）海軍大臣（ツィルマフ中將）及び會計檢査院長（ローブコ氏）なり。此外勅命に依りて委員に任せられたる人々は勅任秘書官ヅルノウォ侍從武官ワンノウスキー同チハーチヨフ及び勅任秘書官クロームシンの諸氏にして勅任秘書官クロームシン氏は委員會の事務を管掌す。委員會に於て鐵道事務を審議する時は勅任秘書官ソーリスキイの局長たる國議院の經濟局亦其議に與かる。必要あるに於ては宮内大臣（フレデリクス男）司法大臣（ムラヴヰヨーフ）外務大臣（ラムスドルフ）伯及び西伯利の各總督亦招かれて委員會に列することあり。委員會の事務は一切大臣評議事務所に於て之を取扱ひ西伯利の殖民及び其他西伯利鐵道の附帶事業に關する問題の下調査は委員會内に設けたる豫備委員會に一任せられ勅任秘書官クロームシン氏會長と為り利害の關繫ある諸官署の代表者を會して審査するを例とす西伯利鐵道敷設事務を直接管理するが為めには遞信省内に特に事務局を設け又移住事務を管理するが為めには内務省内に特に之が事務局の設けあり。

西伯利鐵道を敷設するに當り一は世界の交通路たる便を圖り一は此大工事の費用を成るべく節減するの目的を以て西伯利の最も豐饒にして人口最も稠密なる方面を經過すべき最短の線路を選びたり。而して鐵道敷設工事は兩極端より起工し其の西端に於ける終最點は「ザマラ」＝「ズラトウスト」鐵道の最終停車場たる「チエリヤビンスク」なり。

一千九百年に至り起工後九年未滿の間に軌條（レール）の敷設したるもの五千六十二露里にして即ち一年平均五百六十

二露里敷設したる割合なり。若し一方には「トムスク」縣「エニセースク」縣の如き交通不便なる地方又は屢々洪水に襲はるゝ「ザバイカル」地方に鐵道敷設するの困難と一方には鐵道敷設の方面に大河多く平均四十五露里以上の橋を架せさるべからさる事情を察せば前記の結果は頗る良好と見做さゞるべからす。工事の迅速なる點に就ては西伯利鐵道は他に其比を見ず大躰に於て類似の點多き加奈多鐵道全線四千三百八十露里すら敷設工事に十年を費したるを以て見れば工事の迅速なる點に於て西伯利鐵道に及ばさること遠しと云ふべし。一千九百年の航海開始と共に歐洲鐵道線と浦鹽斯德との間に一は鐵道に依り一は滊船に依りて蒸氣交通の便開けたり其路順は「チエリヤビンスク」＝「スレーテンスク」間四千百四十三露里は鐵道に依り（此間貝加爾湖は鐵道滊車運搬の爲め特別製造したる碎氷滊船にて渡るなり）「スレーテンスク」＝「ハバロフスク」間二千百六十四露里は「シルカ」河及び黑龍江を滊船にて「ハバロフスク」より浦鹽斯德に至るの間（七百十八露里）は再び鐵道に依りて通過するなり。而して此旅行に費す所約二週間半なり。西伯利鐵道旅行の便を計るが爲め莫斯科及び浦鹽斯德間に特別急行列車の設けあり一週一回の發車とす。此の列車には寢室食堂圖書浴場躰操場等の列車ありて乘客の便を計る點に於ては歐洲の最良滊車に優る所あるも劣る所あらす。現今蘇士運河を經て西歐首府より絕東に至るには六週間の日子を費するも西伯利鐵道に依るときは倫敦若くは巴里より浦鹽斯德に至るの旅行に三週間半を費するに過ぎず。是に依りて之を觀れば現今已に歐洲と東亞諸邦との交通が如何に短縮したるかを知るに足る。若し夫れ一千八百九十九年に起工されたる貝加爾沿岸線（二百三十六露里）落成し一千八百九十七年に起工したる滿洲橫貫の東淸鐵道線（一千四百四十露里）と其の南部枝線（九百八十露里）にして竣工したらんには歐亞の交通は一層迅速と爲るべし。此の東淸鐵道線なるものは最捷徑を以て西伯利鐵道幹線を浦鹽斯德及び露國の淸國政府より租借したる遼東半島の不凍港たる旅順口及び絕東港（大連灣）と連絡するものにして此二大鐵道にして敷設完成したらんには歐亞兩大陸を經て太西洋と太平洋間に連結したる鐵道の交通開くるに至るべし。西伯利大鐵道の總延長即ち西伯利鐵道本線滿洲鐵道線及び其支線の延長は八千三百十三露里なり。（一露里は我が九町四十三間）

太西、太平洋間の最近便利の道筋はガウル＝巴里＝キヨールン＝伯林＝アレキサンドローウオ（露領）＝ワルシヤワ＝莫斯科＝ツーラ＝サマラ＝チエリヤビンスク＝イルクーツスク＝浦鹽港なるべし。此線路の延長は一万千二百露里にして其内九千六百露里即ち全線七分の六は西伯利鐵道幹線（六千百露里）と歐洲露西亞の鐵道線（三千五百露里）の部分にして爾餘の一千六百露里は西歐の佛蘭西（四百五十露里）白耳義（百五十露里）及び獨逸（一千露里）領の鐵道線に屬するものたり。

西伯利鐵道委員會は西伯利物產を海外に輸出するの便を計らんが爲め歐洲露西亞の北東部「ペルミ」市と北ヅウヰナ河の「コトラス」埠頭の間に鐵道（長さ八百十二露里）を敷設して西伯利產の貨物を「アストラハン」港及び白海を經て西歐市塲に輸出するの新路を開きたり。

西伯利鐵道營業開始の結果として乘客幷に貨物の數に表現したるものを看るに初め豫期に超過したり。始て西伯利鐵道の一端の運轉を開始したる一千八百九十五年十月より「チエリヤビンスク」及び「イルクーツスク」間全線の運轉したる一千八百九十九年に至る間西伯利鐵道西部線及び中央線にて運輸したる乘客及び貨物の數は左表の如し。

	乘客數	貨物數（六十プードを一噸とす）
一八九五年（但三月間）	二一一、〇〇〇人	三、五六〇、〇〇〇
一八九六年	四一七、〇〇〇	一一、四三三、〇〇〇
一八九七年	六〇〇、〇〇〇	二七、四八五、〇〇〇
一八九八年	一、〇四九、〇〇〇	四三、三七一、〇〇〇
一八九九年	一、〇七五、〇〇〇	四〇、七五九、〇〇〇
合計	三、三五二、〇〇〇	一二六、六〇八、〇〇〇

西伯利より輸出する貨物中其の第一位を占むるものは穀物にして（輸出總高の四割二分を占む）重に「レウェリ」、「リバワ」、聖彼得堡及び「リーガ」の諸港を經て輸出するものとす。次は家畜及び獸類の產物にして生肉屠禽、油（特別急行氷室附汽車にて重に倫敦市塲に輸送す）脂、獸皮、獸毛、鷄卵等なり。西伯利鐵道にて運送する通過貨物としては目下專ら支那茶あるのみにして年々輸送高增加の傾きあり（一千八百九十七年の輸送高百七十四万プード一千八百九十八年の輸送高二百二十三万プード）又西伯利に輸入せらるゝものは目下重に鐵、鐵製品、砂糖、機械製品、機械及び石油なりとす。

西伯利鐵道の乘客及び貨物の輸送豫想外に多かりしため俄に鐵道の運輸機關を增加し列車の速力を早むるの

必要起りたり。速力の程度は最初客車一時間三十五露里（米國の兩洋貫道鐵道の採用したる速力）貨車一時間二十乃至二十二露里としたりき。此速力を以てせば莫斯科より浦鹽斯德若くは旅順口に至るまで全線落成の曉には日數十晝夜を費し滊車賃露國の現行運賃表の割合に徵し一等列車幾落附にて約百十五留なるべし。又巴里若くは倫敦より上海に至るの間同上の算法に依れば一等列車にて十六晝夜と三百二十留を費すに過ぎさるべし目下海路の旅行に三十四日乃至三十六日と九百留を費すに比して其差の如何を知るべし。西伯利鐵道の運轉速力を增して目下歐洲にて實施する程度に至らば太西、太平兩洋間の陸路交通は十晝夜に短縮するを得べし。

（下）　殖民及貿易の獎勵

初め歷山三世の西伯利大鐵道敷設を計畫するや西伯利の殖民及び商工業の發達に益すへき所謂附帶事業をして之と併行せしめんとしたり。實に西伯利鐵道は西伯利に移住民の滔々たる大波の突入せんとする門戶を開き而して移民事業は西伯利鐵道委員會の施設其宜きを得たるに由りて着々其步を進めたり。

西伯利殖民をして其功を奏せしめんとせば移住民を其の天賦の意嚮及び習慣に應じて新開墾地に配置することと最も緊要なりとす。西伯利の地たる甚た廣く隨て其風土亦相同じからさるを以て已に實驗の示せし如く歐洲各地の移住民は茲に永住の地を卜するを得べし。故に西伯利鐵道委員會は先つ歐露の農民に西伯利の事情に關する確實の報道を傳ふるを切要なりとし移住事務局と謀りて西伯利事情を記したる小冊子を數万部印刷配布したり。殊に移住事業に鴻益を予へたるは移住せんとする一家若くは多人數の團躰より豫め視察人を派して移住適當の場所を選定するに非されば移住するを許さゝるの制規を設けたるとなり。次に西伯利鐵道委員會は移住民の西伯利に旅行するの方法幷に新開墾地に其居を構ふるの方法を簡便にする種々の策を講じたり。先つ第一策として政府の許可を得て移住する者に對し特別運賃割引法（三等運賃の二割五分引）滊車滊船旅行中の衛生監督法を設け遂に西伯利鐵道線幷に其他移民の通行する道路に沿ひ移住民の宿泊所を設立し治療藥價等は無代とし小兒病人及び貧困者等には無代價にて食料を給し其他の者には實費にて食物を販賣するの方法を設けたり斯かる移住民の宿泊所は一千九百年に至りて卅箇所の多きに及び其の最も規模大なる者は

現今移住民の輻湊する西伯利鐵道起點「チツヤビンスク」に在り一時に一千五百人を收容するを得べし。移住民の調査も此所に於て嚴重に實施す宿泊所の管理は移住民事務局管吏の司どる所たり。

西伯利に移住民の其の居を構ふる補助を爲すことに就き西伯利鐵道委員會は首として殖民に適する土地を探知し移住地區を充分に準備することを勉めたり。之が爲め農務及び官有財產省にては測圖技師及び移住地整理委員より成るの一隊を組織したり。

西伯利殖民に就ては西伯利鐵道の利益を謀り烏拉爾と貝加爾の間に縱令人煙稀少なるも鐵道線に沿ひたる方面に移住せしめんとの方針なりしを以て前記組織の一隊は該方面に向て探檢調査したり。農務及官有財產省にては「イシム」曠原の飲料水乏しき地方に疏水工事を起し到る處沼澤のみなる「バラビン」曠野に排水工事を起さんが爲め技師を派して其事に當らしめたりしが一千九百年一月一日の調査にて得たる結果に依れば井を穿つこと一千餘排水運河を開鑿したること約六百五十露里にして從來荒廢に歸したる廣漠の地にして好殖民地と爲りたり。西伯利鐵道に接近する地方に於て直接殖民に適するの地已に移住民の占むる處と爲るに及ひ一方には西伯利の北森林の鬱蒼たる方面に向て移住する者あり又一方には南の方西伯利鐵道を距る割合に遠き曠野諸州の地に殖民する者あるに至れり。一千九百年の調査に依るに同地方の「キルギズ」土人の間に剩餘の地一千万「デシヤチン」ありしに其内一百万「デシヤチン」は已に露國民の殖民する所と爲りたり。一千八百九十三年以降一千八百九十九年に至るの間に官有地の移住地區に編入せられたるもの總計七百万「デシヤチン」の多きに達せしが其中最も多きはトボリスク縣、トムスク縣、「アクモリンスク州」なりとす。此中已に移住民の選定したるもの五百万「デシヤチン」に達せり。又西伯利鐵道委員會は移住民をして其移住地に居を構ふるの補助として毎年西伯利鐵道附帶事業費中より移住民中の困究者に內務省の西伯利移民管理役員の手を經て小屋掛及び播種の爲め金品貸下の方法を設けたり。加之西伯利鐵道委員會は森林絕無の地方に移住する者に木材を供給せんが爲め特別の木材倉庫を設け又農具倉庫を四方に設置し特別の販賣法方を以て之を移住民に拂下くる事としたり。一千八百九十九年の調査に依るに該倉庫の一年の收支運轉額は五十万留を超過したり。木材倉庫農具倉庫とも移住民取扱官吏の管する所

たり。

露國當局者は西伯利移住民の物質的利益及び需要を慮ると共に精神的發達にも意を注ぎ今帝の發議に依り西伯利の移住地に禮拜堂及び學校を建立せんが爲め内閣事務局内に特に先帝歷山三世紀念醵金募集所を設けたりしが官民の醵金續々ありて一千九百年には其額二十万留に達したり。此の醵金にて西伯利内地に建立したる禮拜堂已に百餘箇所學校七十三校の多きに及び目下建造中のもの禮拜堂六十五、學校三十二なりとす。又同趣意に基き移住民慈善醵金なるものを募り西伯利に三箇の孤兒院を建て又一千九百年眼疾治療の一醫員團躰を組織し移住地を巡回して治療に從事せしめ其他移住民の不幸災厄に際して救助等を爲せり。

西伯利鐵道の敷設に由りて西伯利の移住民著しく增加したり。西伯利鐵道委員會設置以來西伯移住民の統計左の如し

一八九三年	六五、〇〇〇人	男女を合せ
一八九四年	七六、〇〇〇人	
一八九五年	一〇九、〇〇〇人	
一八九六年	二〇三、〇〇〇人	
一八九七年	八七、〇〇〇人	
一八九八年	二〇六、〇〇〇人	
一八九九年	二二五、〇〇〇人	
合計	九七一、〇〇〇人	

此外同期間に義勇艦隊滊船にて海路浦鹽港を經烏蘇里地方に移住したるもの二万五千人あり即ち前十年間の移住數に比して多きこと一倍半なり。されば西伯利鐵道委員會設置以來西伯利移住民の數は總計九十九万六千人にして一年平均約十四万二千人の割合なり。

西伯利鐵道委員會が移民事業整理に盡瘁したる結果として歐洲の農民間に移住に關する着實の思想發達し自由移住民(即ち政府の許可を得さる者)及び戻り移住民の數と移住民旅行中の死亡減少し新開墾地及び西伯利に最新良好の農具多く行渡りたり。毎年西伯利鐵道委員會幹事の蒐集する西伯利移住民の經濟情况に關する統計報告に徵するに其の重なる家族の中等生活を爲す移住民團躰に於ては西伯利移住地に於ける生活の情態故鄕に於ける情態に勝り且つ將來漸々其幸福の發達せんとする傾向あるは爭ふべからす。以て西伯利移住の國家一般の發達に益するの至大なるを知るべし。

西伯利鐵道委員會は西伯利移民業を整理しつゝ西伯利の生産力を調査開發し並に同地方に商工業を發達す

ることに多く其力を盡したり。同委員會は首として有益なる鑛物埋伏地を探検する目的を以て地質調査を爲したりしが之に就て最も深く注意したるは木材なき地方を多く通過する西伯利鐵道に供給する石炭探検なりき。農務及び官有財産省の技師の探検は充分の功を奏し一は鐵道線路に沿ひ一は幹線路を離れて石炭坑のあるとを確かめたり。此の發見したる炭坑の今現に個人に貸下げ採掘に從事せしめつゝあるものあり。地質探検隊は鑛物燃料の外諸所に他の有益なる鑛物をも發見したり「ザバイカル」に於ける鐵鑛曠野地方に於ける銅鑛「イルクーツスク」縣に於ける「チフリト」石等是なり。目下毎年一千九百「プード」を採掘する（一千八百九十一年乃至九十七年間の平均高）西伯利の金鑛採掘業を將來益々發達せんが爲め西伯利の金鑛所在地たる「エニセースク」、沿海州、黒龍州「レナ」河邊に精密の探検を施し其他始て「オホーツスク」海の北西沿岸を探検し金鑛の有無を調査したるに同地方河域に金礦脈あるを發見したり。此金鑛は一千九百年來十五箇年の期限にて露國人又は外國人若くは株式會社にして採掘金高に對する最高の「プード」稅を納むる者に貸付採掘せしむる事としたり。斯かる金鑛は遼東半島にも發見されたり。

西伯利の河川就中黒龍江及び貝加爾湖の航路を改修するに就て西伯利鐵道委員會の執りたる方策は西伯利の經濟的生活の發達上至大の功を奏したり。河には官有汽船を泛て航運に便し又西伯利本道の一大水路たる波荒き貝加爾湖の航通を安全にせんが爲め西伯利委員會は一千八百九十七年來海軍省の水路部に托し五年を期して調査探検を爲さしめたるに一千九百年に至り同探検隊は若干の碇繋に便する港を發見して四箇所の重要なる岸上に燈臺を設け且同探検隊は同湖の魚類に富み且鑛脈あるを發見し以て沿岸人民の經濟上の發達に裨益したること少からず。西伯利鐵道委員會は貝加爾湖の外同く海軍省に托して北海々路の西伯利に對する航通の便を開き且つ北氷洋西伯利沿岸に漁業及び獵獸業を發達せんとするの目的を以てオビ河エニセイ河の河口及びカール海の一部分を探検せしめたるに其結果エニセイ河には沙洲なく河口より一千五百露里の間大洋航行汽船を入るべしオビ河は海上より吃水十二呎以下の船舶の入るに適し更に吃水の深き船舶の爲にはオビ灣に「ナホーヅカ」と稱する良好の港を發見されたり。西伯利鐵道委員會は絕東の支那及び日本との貿易を發

遠せんか爲め渤海斯德に商港を作り冬季間は之に有力なる碎氷船を泛べ每年一千万プードの貨物運轉に差支なき規模とし露淸銀行を設立したり。又東淸鐵道會社は同鐵道に建築材料運搬の用に供し且つは露國の東亞に於ける輸出貿易を奬勵せんが爲め太平洋及び松花江に定期航海を開きたり。又黃海の沿岸なる歐亞貫道大鐵道の終極點大連灣頭には今帝の勅命に依りて絕東市と絕東港とを起し之を世界の自由貿易に供すへきことに定られたり。同市の占むる形勝の位置と之に與へられたる特典とは必すや之をして他日新舊兩世界の商業上に於ける一大繁榮の市港たらしめん。

西伯利及び東淸鐵道の敷設費は其枝線及び附帶事業費とを合せて總計七億八千万留を超過すべく其中一千九百年までに支出したるもの已に五億万留に起え一千九百年度の支出高約一億三千万留なり。此金額そのものは假令莫大なるにせよ露國が之れに由りて大西太平兩洋間の最短なる世界の通路營業權を握り併せて此鐵道が廣漠たる西伯利の豐富なる天產力を勃興し露國の東亞諸國に對する貿易の發達に裨補する利益に比せば亦言ふに足らさるのみ。

（完）

海外新潮

海外大勢

露國現下の紛擾

大學生の暴動　トルストイ伯の破門

露國大學生の騷擾は珍らしき事に非ず、然れども今回の紛擾は火の手從前より大にして其結果に依ては他日露國革命の伏線となるべき模樣あり世界各國の大なる注意を以て其成行を觀望するところたり、

去年十二月、キーエフ大學の一生不倫の行爲有り、これに對する制裁に關して學生が講堂に集會を開きたる一事は端無く職員と生徒との衝突となり、警察の干涉となり、コサック兵を以ての强壓手段となり、學生の多數に兵役を課する嚴罰の降下となり、キイエフの全市を擧げて騷擾の中心たらしめたり、次でモスコー大學の學生キーエフ大學生に同情を寄せて騷擾を初め出し、更に續ひて露都聖彼得堡の學生は他の源因にて前二大學よりも大なる紛擾を引き起せり、其源因はキーエフと同じく些細の事にして、ノーボヘウレミヤ新聞の記者が書ける『イスラエルの小供』なる猶太人排斥を骨子とせる演劇に關して集會せるを一種不穩の事件を持ち揚ぐる爲なりと解せられ之を禁じたるに初まり、同時にトルストイ伯を崇拜し、其著書に感動せる一人が文部大臣ボゴリエボフ氏を狙擊し、遂に之を死に至らしめたるに有り、男生女生有爲なる學生の團圖に投せ

るもの數百人に上れり、以上三大學の擾亂を先鋒としオデッサ大學を初め各都府大學專門學校の一揆續出歐羅巴露西亞の全部は一種の内亂に異ならず、

政府の之に對する鎭壓手段は例の酷烈を極め、繫獄流罪死刑、容赦無く執行され、世界の思想界を動かしつゝあるトルストイ伯の如きも露國正教會より破門を宣告され、將に國境を逐はれんとしつゝあり、

强壓の度いよ／＼烈しければ反抗の度ます／＼大なるは免るべからず、初め大學生のみの騷動なりしもの延ひて勞働者の多數に及び、虛無黨の大跋扈となり、貴族、軍人の間にも密々氣脉を通ずるものあり、文部大臣の狙擊を受けしを初めとし正教々務の長官ポベドノスチエフ氏の同じく狙擊されしあり、（幸に免れたれども）宮庭に對する暗殺の威嚇狀となり、恐るべき隱謀の發見となり、皇帝の神經病となり、地方への避難となり、紛々又擾々アレキサンダー二世崩御以來の珍事なりと稱せらる、露西亞帝國の現狀、或は滿洲の問題或は芬蘭土ルーセニアの統御難、曰く何曰く何、面倒の折り重なれる時更に此事あり又厄介なる國柄なる哉

トルストイ伯の破門に關しては輿論反てこれが爲に伯の主義思想を廣むるものとなし、古代各宗教徒の受けたる迫害に擬するものすらあり、今露國正教會主長よりトルストイ破門と同時に全國の教區に回檄を以て其理由を宣言したる文を見るに、中に左の如き言あり

悲むべし、神は今の世に於て人を誤まり世を毒する一人の教師が出生することを許し玉へり、誰ぞやレオ、トルストイ伯其人なり、彼は自己の知識に任せて恐るべき邪道に陷れり、神に對して謀反を計れり、世人を導ひて正教の信仰より分離せしめんと計れり、此世の地盤たり支柱たり、此神聖なる露西亞帝國の保護たり、守護たる正教を傷けんとせり、

と流石はオーソドックスの本家本元たる口吻なり、學生の紛擾其他に就て『ニューヨルクウオルド』は曰く

若し意志の自由を許さば露國學生の一揆は無きなり、若し言論の自由を許さば露帝の危害は無きなり、若し裁判の公平有せば露の無政府黨は生せざるなり、露の專制政治は壓し得べからざるものまでも壓せんとす、制すべからざるものをも制せんとす火藥と火正に相近く、只これ爆發のみ

同「ニヨーヨルクツリビユン」は曰く

今回の暴動は其眞相猶分明ならざれども露國には同國の狀態を秩序的に改革せんとする大學生一派の思想と、只暴擧を以て不平を慰せんとする虛無黨一派の思想と二個の潮流あり、今回の事件は二潮流同時の發作なり、此秩序的革命の思想に對しては世界は悉く同情を



レオ　トルストイ伯

COUNT LEO TOLSTOY.

有す、然れども宮庭の狙撃や爆發を事とする虚無黨の擧動に至つては破壞の外何等の結果をも望む能はず、此亂暴手段を改めて秩序的のものとするは大に必要の事なり云々

露人にして米國に歸化せる社會民主黨の一人、エム、ウインテエプスキなる者直殺に露國黨徒の思想を代表し、公開の席上述べて曰く

茲に人有り理由も無く來て汝を襲ひ汝を殺さんとするものありとせよ、汝が之に抵抗して敵手を殺す誰か之を尤めん、見ずや露帝は臣民の幾百を殺戮しつゝあり、此時に當り其臣民——臣民と云はんよりは寧ろ屠られ殘りの人間——が起て彼を殺す、これ正當の防衞、文明の世界何處にか之を非とするものぞ云々

君主政治の成功

シドニー、ロウ氏「十九世紀」誌上に前世紀世界文明國、君主政の結果を叙して曰く

千八百三十七年、故ビクトリヤ女皇の大英國に君臨せるまでは歐洲各國君主政の歷史多くは失敗に歸し、女皇即位の如きも英國民は決して之を歡迎せず、印度を初め世界各部の英領民は恰も不快なる繼母を迎へたるが如き感想を抱きたり、然るに六十年後の今日は景勢全く一變し、各國民が君主政に對する思想は又昔日の如くならず、其皇帝其皇族に對する感情は大に敬して親むの有樣となれり、是れ蓋し過去六十年間各國皇帝が揃ひも揃ふて統御の才に富ませられし結果に外ならず、六十年前歐洲社會の有樣は人をして若し此儘の情態にして持續せば、各國四分五裂、又收拾すべからざることゝならんと思はしめたるに、之を免れて今日の各國あるを致したるもの悉くこれ君主政の賜なり、近世只西班牙の君主政思はしからざるあるを除ひて、ビクトリア女皇治下の全盛は素より、フランシスジョセフの墺地利匈牙利を一括せる、羽逆伊太利の興起せる、皆睿哲なる君主政治を敷けるの結果に非るはなし、丁抹白耳義は共に渺たる一小國なり、而も此小國が西歐の模範國と呼ばるゝまで組織の完全せるは、白耳義のレオポルド丁抹のクリスチヤン二王の恩惠に非ずや、更に歐洲を離れて遠く絕東の日本を見よ、一大革命を施して文明國に伍したるもの又英聖なるミカドの賜に依る、墨士古は北米の共和國なり、然れども共和は名のみ、大統領は人民に對し他國の君主と同一の關係を有し以て其の安寧を保せり、之を要するに十九世紀末君主政は世界到處に大成功を告げたり、此成功は勢ひ國民が其國の議會に對する有難味を減却し、議會なるものが小黨の分裂爭となり、進退に伴ふ邪黨の防害となり、行政の圓滑を防げ、多數暴論の強行となる等の弊害に終るの傾向を生ぜり、

犯罪國としての伊太利

犯罪と文化の關係は統計上の結論未だ明白ならず、然れども教育が殺人犯の如き重罪を減少するは爭ふべからず、伊太利と云へば世人皆殺人犯を聯想せざるものなし、實に殺人犯は同國の特産物、猶も一國を擧げて此犯人を栽培する溫室の如き觀有り歐米各國人は之を見て伊太利人の性情には此重罪を犯し易き先天的遺傳有り、之を以て人種病となすものあれど、同國の政治家公法學者等は辨解して、同國の社會交通の機關完備し、貿易殖民等の活潑なる地方には統計上殺人犯尠く、特に教育の普及せる地方ロンバルヂー、ピードモント二州の如きは其犯罪少きことを云へり、同國の代議士コラゼヤンニ氏三月の「フヲラム」誌上に論して曰く

伊太利の殺人犯は決して先天的に傳はれる人種問題に非ず、統計上明

に社會狀態の如何に依ることを示せり、則ち最大の源因は教育の欠乏に有り、千八百七十七年社會の各階級悉く其子弟を學校に送るべき發令をなしたるも、國民多數生計の困難は其子弟を驅りて勞働をなさしむるの止む無きに至れり、多數國民の狀態此の如くなるに拘はらず、政府が國民教育に力を盡すこと實に少く、他文明國に比して後へに瞠若たる有樣あり

		入口	教育費 リーア
大英國	千八百九十六年	三九、六九四、五四二、	三一五、四一〇、〇九〇
佛蘭西	仝	仝 三八、五一七、九七五、	仝 一八五、二四〇、〇六〇
露西亞	千八百九十五年	仝 二一、八四九、七九五、	仝 一八九、八三〇、三三五
伊太利	千八百九十六年	仝 三一、二九〇、四九〇、	仝 六〇、八二二、二二一

（一リーアは約我四十錢露西亞の人口は歐羅丈けの數なり）

此外米國の如きは毎年十億リーアを支出し、瑞西の如き小邦伊太利の人口に比して十分の一に過ぎざる國にして其教育費は伊のそれに比して三分二以上なるあり、如何に伊太利の國民教育を忽かせにするかを知るべし、伊太利の教育機關は實に外形の體裁のみ、三千万の人口撰擧權を有するもの僅に一万人へ、すべて政治組織の恩惠はこれら少數富人の受くることろ大多數の國民は小學教育すらも完全に受くる能はずして機械の如く立ち働けり伊太利殺人犯の多きは主として教育制度の不備にあり

海外雜纂

新知識の專賣廛

▲主權者に　取りて最も不幸なる國は墨其古なり、千八百十一年より全九十七年までに、五十五人の主權者代り、其中の四人は死刑に處せられ一人は毒殺に逢ひ四人は兇徒の手に倒れ七人は戰死す

▲土耳古の　主府コンスタンチノープル人口約一百万、其中婦人の讀み書きし得るもの僅に五千人

▲最長の名　を持てる村落は蘇格土蘭土（スコットランド）の西海岸ムル（Mull）島のドリムタイドヴイツクヒリチヤタム村（Drimtaidvickhillichattam）此二十四字の長き名を有せる村、人口僅に十二人、蓋し、これ最長の名を持てる最小の村ならんか

▲盲目者の　多き國は露國と埃及なり、歐羅巴露西亞丈けにて千八百九十六年の統計二十万人の盲目あり、則ち全歐洲盲目者の半數なり、其源因は土地の平坦なると農家の構造法惡きに依る、此全歐半數の盲者に對する露の養育院は僅に二十五個、則ち全歐の盲啞養育院の十分の一に過ぎず

▲盲目保險　は英國に行はる、盲目保險會社に加入するものは十六歲より四十五歲まで毎年三志（一圓五十錢）を收め、若し盲目になりし曉は毎年五十二磅（五百二十圓）を得、鍛冶其他眼に危險多き勞働者には最も必要なり

▲龍動市民　は毎週九百万個の牡蠣を食ふ、其空殼の一半は庭内の舗石代用として用ひらる

▲金剛石の　南阿弗利加に發見し蒐集されたもの過る十八年間に其目方八十噸、其總價格五億六千万圓

▲南阿弗利　加、及び中部阿弗利加の螢は形最も大なり、一疋一室を照すに十分なり、ランプ又はマッチを探すに螢を捕つて手燭の代りにするは全地方一般の習慣なり

▲諸動物中　蝎（スコーピオン）は最も爭鬪好きの奴なり、試みに一箱の裡に二疋を容

れ謂けば五分と立たぬ間に弱き方は殺されて居るなり

▲蝸牛の齒　專門家に非る人間は聞て驚くべし、蝸牛の齒は其數三萬個

▲蟹の脚を　折りて放ては、其仲間の多く來て傷所を嚙り勞はるを見る

▲駱駝の脚　は柔き座褥の如く一種特別の作用あり、爲に石及び砂路を歩むに適合す、サハラの大沙漠を橫斷するに馬は三度蹄鐵を代へざるべからざるに獨り駱駝の脚は微傷だも負はず

▲鴿鳩の速力を實驗せる最近の報に依れば、ニュージーランドとビクトリアの間一千哩を三日間に歸り、一時間十五哩の速力を有することを確められる

▲陸に棲める鳥は晝行し、海に棲める鳥は夜行す

▲廣き頭の　馬は最も才智あり馴練に易し

▲アイスランドにて採集せらるる雁の類の綿毛、毎年一万封度、其中七千封度は各國に輸出す

▲兎の皮を以て、海豹の皮に代ゆるは一般に行はるゝことなり、兎の毛を剃りて放て、毛の長くなれば又剃り、かくすること數回、兎の毛皮と海豹の毛皮は全く素人目に區別出來ざるものとなる

▲泳ぐことの出來ぬ魚は數多し、悉く深き底に棲息し鰭又は尾を足の代りとして岩の上を匍匐するなり

▲牧畜業者は羊を以て天氣を豫報す、羊の毛が縮れを增す時は好晴の證なり

▲亞米利加の鐵道會社には行進中の汽笛を以て其日の天氣豫報を田舍に通ずる仕掛けあり、鐵路より三哩以內は此恩惠を受く

▲眞珠は貝類にのみ生ずるものと思ふ勿れ、熱帶地方の椰子（特に比律賓群島の椰子）及び竹に生ずることあり

▲馬鈴薯を原料として藥品を加へ、石よりも堅くして象牙角及び牛骨細工の模造品を作る、特に釦鈕（ボタン）は多く馬鈴薯を原料とす

▲馬鈴薯は亦痛風を癒す、愛蘭土勞働者の多數は馬鈴薯を常食とするが爲め痛風にかゝるものなし

▲日向葵は曾て何の役にも立たずとせられしもの、今や其實は家畜の食物となり、其油は亞麻仁油よりも貴く、其莖は燃料として重寶なる植物となれり

▲樹木の幹及び枝の不規則に生長せるは狂風を防ぐ第一の要件なり、狂風に對してこれが爲に樹木全林の權衡を取り、風に根拔さるゝを防ぐ

▲佛蘭西の氣候漸次寒くなりし證は古代佛蘭西畫に多き伊太利種の白楊は甚だ稀となり、橙子黎檬（レモン）の木は殆んど絶へんとす

▲巴里市內街上の樹木は植物園の樹木より多くの費用と人とを以て政府より保護せり、巴里市の美觀を增し人目を喜ばすは此保護預つて大に力有り

▲佛蘭西語は電話に最も適す、英語は齒頭音（シビラント）多き爲め聞取り惡きこと多し、佛語の流暢なるは此一例を以て知るべし

▲英吉利人は世界第一牛肉を多く食する國民なり

▲南阿弗利加の東海岸、ズルランド Zololand には奇妙の習慣あり、土人の墓は必ず生前に用ひたる藥瓶を以て飾る、長病にて倒れしや否やは瓶の多少を以て一見分明なり

▲西班牙の田舍には婚禮の前一週間或は少くとも前一日に許嫁の式を舉け、婚禮當日まで新婦は毎日儀式的に泣き悲み、其朋友は代る代る來てこれも形式的に慰むる奇習あり

▲那威人の　新婚夫婦へ贈り物は必ず牛酪(バタ)の小桶を以てす、只冬の季節のみ之に代ゆるに鹽漬けの肉或は凍肉を以てす

▲鹽を多食　する人は味感を痲痺す

▲人は平均　四十歳の時體量最も重し、但し歐米人の身體にて

▲人の心臟　長さ六吋幅四吋一分間の鼓動七十四を通常とす

▲腦髓の活　動は各部同時に働くものに非ず、左右半個づゝ代る／＼活動す

▲理髮人は　人の頬髯にて其人が平生左右孰れの腕を下にして眠れるかを知る、則ち其下方となりし側の髯は他の側より尠し、但しこれも西洋の枕を用ひざれば分らず

▲地球表面　の太洋を悉く乾し了はると假定し、現今諸大陸の河流が現今の水量にて再び此太洋に注ぎ入るものとせば、太洋の今日の如くなるまで四万年を要す

▲北米不思　議の一として數へらるゝは加奈陀のセント、ローレンス河の河床なり、七年間は漸次高くなり次の七年間は漸次低くなり、其差五呎、常に十四年を一期にして一低一高す、未た此原因を説明したるものなし

▲千八百九　十二年北大西洋にて三回まで航海者の發見したる浮島は一時間一哩の速力にて漸次北方に流れ、方八百呎の小島にて、其上に樹木繁生して中には三十呎の高さを有す植物ありたり

▲河流中の　水最も清潔なるは瑞典のロカ河、最も汚濁なるはテームス河の下流

▲世界中の　トンネル、著名なるもの千百四十二、全延長五百四十哩、其中一千は鐵道、十二は水底、九十は運河、四十は地下水道、

▲伊太利は　千八百九十八年一ケ年間新古美術品を國外に出せしこと二万一千個、其價百二十万圓、其半數は獨逸へ

▲象形文字　の起原は少くとも紀元前三千年と考へられしもの、近時アッシリアのニーパル市より掘り出したるものは紀元前七千年のものなり

▲良好なる　顯微鏡を以て白墨(チョーク)を檢せば、無數の殼を見る、fossils を以て製するが故なり

▲英國の兩　院にて用ゆる電燈總計四万個、猶此外に年々二千磅（二万圓）の瓦斯點火料を拂ふ

▲途上大雷　に逢ひ危嶮なるときは、全身衣服のまゝ水に漬すべし、雨の雷鳴に伴ふことなき時は池又は溝渠にて全身を濕ほすべし

▲夏時霧の　かゝることあるは都會の人間に採て健康上必要なり、これが爲に大氣中の煤煙を清淨にす

世界富豪者の格言

紐育の富豪ラッセルセージ氏の致富要訣五個條は載せて前號の本欄にあり、其後メトロポリタン誌上富を得るの道に就て世界一代長者の訣片四五を集めたるを見る、則ち更に左に譯出す

△ノース氏　英國の大佐故ノース氏は一代數千萬の富を積みたる人なり氏の言に云ふ「規律正しくあれ Be punctual 只此一語のみ、此語を實行して後予は初めて富を致せり、必ず一定の時間に朝食に就く、停車場に出るも事務所に出るも時間に遲速無くする、仕事に着手すれば餘所目をふらずに從事する、且つ力の及ぶ限り見事に仕上ることを心懸く、毎日之を操り返へせば富は招かずして來る」と

△バルナート氏　阿弗利加有名の富豪なる仝氏は、晩年致富の秘密

を友人に打ち明かして曰く「他無し、一文の支出も書付けて予の金錢は平生何の爲に何の方面に散じつゝあるかを知るにあり、富と云へる目的地に達する唯一の伴侶は一册のノートブックのみ」と、此言平凡なるが如きも精密に之を實行することは中々に難し、これよりもやゝ容易ならんと思はるゝは次の

△サー、ブランデル、メープル　の方法なり曰く「予は凡ての事を處理するに、二度づゝ考ふる性質あり、如何なる事務をなす人にも此二度づゝ考ふるとを實行せば誰も成功の途に就き得られん」と

△リプトン氏　のは更に奇にしてやゝヅルキ考へなり曰く「只沈默、自ら口を開くこと勿れ、人をして言はしめよ、人の言を聞て其善きところを採れ、予は沈默の性に依て富を得たり」と

△ロックフェラー氏　世界富豪家第一位の一人として「石油の王」と稱せらるゝ氏は曰く「予は幼時より毎朝七時に起く、食事前必ず、室内躰操をなす是に依て富を得たり」と、氏の支配下にある少壯事務員の一人は富を得るの方法を氏に問ひ「毎朝二時間遊戯をなせ」との返辭を得、これを實行したる爲め數年の後巨萬の富を得たりと、此言餘り小供らしきも大に眞理有り

△ロード、アームストロング　我邦軍艦の大部分を製造せるを以て邦人の能く知れる英國アームストロング會社の社長たる氏は曰く「大成功をなすに足る大妙案の出るまでは靜かに考へ續けよ」

△エジソン氏　世界電氣の王たる氏は曰く「何人も自ら目を着けたる事業其如何なる事業たるを問はず、直接か又は間接それに依て富を得ざる事業とては一もあらず、若し富の附隨せざる仕事あらんか、これ仕事の罪にあらず汝が腦髓欠乏の罪なり」と、是れ蓋し千古の鐵案ならんか、此言を聞ては世界到處に運命を盛り返へさんとてあせりもがく失敗家連は、成程と頭を掻ひて合點するところあるべきなり

南極氷中の二千哩（二）

南極冬期の初經驗、最近の南極冒險譚

氷陸の內部に封ぜられたる我ベルヂカ號は、封ぜられたる儘流れ初めぬ、流るゝと云ふも四邊の氷田は少しも形を變ずるに非ず、船は少しも動くにあらず、唯太陽と星、天躰の位置に依て一日五哩以上四十哩以下の速力を以て西南の方に氷の大陸と共に漂ひ行くを知り得るのみ、若し天躰の之を示すなかりせば久しく我々は靜止せるものと思ひ居しならん、（我々は斯くして實に十三個月二十哩を漂ひしなり）

今や一行は運命を天に任する外人力の如何ともすべからざることゝなりたり、地球の底部に於て氷のまに〳〵進み行くなり、果して何れの方面に達すべきか、我も知らず、人も知らず、唯南極の中心にまでかくして運び去らるることかとは全船員の悉く一致して想像するところなりき、

冬の準備

かゝる間も我々の職分は等閑にすべからず、氣象、海洋、生物、其他學術上の觀察試驗は一日も怠らず、併て將に來るべき南極冬期の準備に取りかゝり、五月の一日には冬の用意は全く出來上れり、即ち甲板の上に新に家根を設けて其下に鍛冶場を置き、船房は汽罐の熱と小き暖爐等を應用して出來得る限り溫度を保ち、有りと有ゆる窓も戸も悉く二重張りの堅固なるものとなしぬ、時々降り來る雪の爲に船の兩側は高き堤を生じ、

我々は全く氷の浮島の上、雪の堤防の下に生息せるなり、船を距る百ヤードの處に、海水の溫度を檢し又は測りする爲に三脚臺を建て其下の氷を穿ち、可なり大なる穴を作りたり、其途中には箱の形せる小屋を設て航海學研究の用に供し、ダンコ氏は船尾に同樣の小屋を設てマグ子チックの觀察に供し、夫に近き一氷丘の上には氣象學研究の機械を据へ、左舷二百ヤードの距離には南極より電氣を採る爲めの小屋をも作られぬ、終りに我々は以上の小屋と連續する道路をも開きたれども、こは降る雪の爲に忽ち埋められて無効となりぬ、而とてこれら小距離の間を往復するには恒に那威の雪靴スキ Ski と稱するものを用ひたり

日々流れ行く中、何れの表面か裂け去りて地平線上或は陸地の一角を發見することもあらんかとの覺束無き望みは、言ひ合されど各人齊しく思ふところにして、日々これこそ眞の陸地なりと叫びを聞かざることなし、而れども悉くこれ地平線上の雲の影なり、予（クック氏）は時々檣上に登りて四方を見るを樂みとしたりしが、目に變化を與ふる者は氷田の上に條を引ける多くの裂目が日毎に變更すること、遙に見ゆる氷山の位置が突然其の向きを換ゆること、處々に低きは二呎高きは二十呎の氷丘（ハムモツク）の點綴せること、鵝鳴と海豹の近き來ること、只これのみ、又時には宿營用具と防寒具を携へて遠行を企てしことあり、或時の如きは新に出來たる氷の裂目に依て歸路を絕たれ、絕望死を待つの外無りしも幸にして再び裂け目の合したる爲め還り得たるが如きことありし



南極特産の鵝鳴船に近き來る　（原圖寫眞）

一千七百時間の夜

五月十六日、此日太陽は地平線下に沈みたる儘又昇り來らず、一千七百時七十一日間全く夜の世界となれり、煙の如き水蒸氣は暗澹四邊を蔽ひ、極光は爲に灰色に變じ、北方の天は寂しき黃色を帶びて嵐は絕へず南方より吹き溫度は漸次降下し、零下十度、二十度、三十度、果ては零下四十五度までの寒氣を迎へぬ、永き極地の夜程人の勇氣を阻喪せしむるものはあらず、况んや孤影悄然前途の運命絕望に近き氷の浮島に一身を托し此不快極まる光景に圍繞せらるゝ時に於てをや、予は北グリーンランドに極地の永夜を迎へたる經驗あれども、同地は實際の陸地なり、エスキモ人の棲息せるところなり、決して今回の行に比較とはならず、

仝月十八日、水蒸氣の薄らぎ極紅の最も光輝あるに乘じ、船を出でゝ遠足を試み、提督ジュラシュ副長アマンドセン二氏と粗き氷の表面に橇を驅りて北方に向ひ、一氷丘の最も高きものに登りぬ、南方の天は此日鈍き蒼白の色をなし、北方は例に依て黃色をなし居りぬ、偶ま正午、北方地平線上に太陽其半身を現はし僅に數分にして沒し去りぬ、橙色の空に光り無く、熱無く、不快なる金色の太陽が僅に數分間半身を現はしたるに過ぎざるも、一千七百時間の永夜中に吾人をその心中より喜ばしめたるもの只此一事のみ

永夜中の仕事として提督ジュラシュ氏は航海日記の清書を初め、船長ルカンツ氏は航海製圖に着手し、動植擔任のラコピッツァ氏は生物の地理的分配に關する新著述の材料を纏へ、アークトウイスキ氏は自家專門の海洋學氣象學に關する今回の實驗を記述し、副長アマンドセン氏は眞に工夫せる極地旅行具の製作にかゝり、予も又著述の用意として新材料の整正にとりかゝりぬ、水夫の多くは雪を船外より運び來て融解し水を作ること、船の各部修繕、器具の製造に向て勞働せり、然れども全船員の仕事は少しも捗取らず、日に加はる南極の黑暗と正比例して精力は衰へ、一事に專注して心を働かすこと能はず身も心も倦怠と疲勞に堪へざるこ

といなりぬ、

茲に船内に定めたる日課を紹介せん

午前七時半起床〇八時　珈琲〇九時より十時　室外　運動〇十時より十二時　就業〇十二時より午後二時　食事休息〇二時より四時　就業〇四時より四時半　珈琲〇四時より六時　就業〇六時より七時　食事〇七時より十時　骨牌遊び音樂其他隨意遊戯〇十時　就寢

變化無き氷中の生活を力めて愉快にせんと試みたるも、一日又一日、一週又一週、一月又一月、同じ場所に閉ぢ籠められ、同じ時刻に起き、同じ食物を喰ひ、同じ題目を談話し、同じ事件を心配し、同じ仕事に取りかゝる、心は益す沈み胃は益す消化力を失ひ、强て無事歸國後の愉快や、前途の希望を語りて相慰めんとするも何の益もあらず、

極地衰弱病

永夜を迎へるまで我々の健康は只僂麻窒斯神經痛等の輕微なるものに襲はれし外、先づ甚好なりき、然れども食慾は大に減退し、鑵詰めの食料は見るも不快の念を催するに至れり、人間の胃は七個月又は八個月間は鑵詰めの滋養にて滿足するも、其以上は之を拒絶する傾有り、我々は已に久しく此鑵詰めにて生活し來り最早如何にしても口に上すを欲せざるに至り、生まの肉生まの野菜を思ふの念は堪へ難き迄になれり、せめてはハム、ベーコン、ドライドミーツ、コーンドビーフ、豆類穀物茄子等を用意すべかりしに不幸にして食物庫に其用意乏く、白耳義佛蘭西那威三國の名有る市場に求めたる詰鑵め計り澤山有り、我々の齒と胃は堅き動植物天然の纖緯を食ひ消化せざれば承知せざらんさす此鑵詰食料さ、永き闇、寒氣、嵐、濕氣、寂しさ、と相混じて今や我々の假稱する極地衰弱病Polar Anaemiaなる一種の病氣は全船員を襲ひ皮膚は靑白となり身林各部の器官皆遲鈍となり心臟と腦に對しては恐るべき徵候を現はし來り、心臟の鼓動は甚だ微弱となり且つ不規則となり腦は物を永く考ふることを許さず、水夫の一人は遂に狂亂さなれり（此發狂は他日太陽を拜するさ同時に治癒せり）此極地衰弱病の第一の犧牲さなりしは磁石學擔任のエミル、ダンコ氏にして、太陽の地平線下に沈みし後二日、五月十八日より此病を得、僅かの動作にも非常に呼吸を苦め、予を初め全船員は有ゆる手段を盡して介抱したるも、永夜の闇益深くなるさ同時に病は益重く七月五日遂に不歸の人となりぬ、吁人界遠く隔りし地、僅に十八人（全船十九人先きに暴風の爲に一人の水夫を亡へり）の一行茲處まで辛酸を共にしながら此永訣を見る、其悲痛予は到底之を叙するの筆と墨汁を有せざるなり、かゝる出來事は口に出さざるも更に勇氣を落す種となり、再び太陽を拜し得るは一行中果して幾人ぞやとは誰も心中に考へしところなりき（以下次號）

人生の一半は酒なる歟

亞米利加は只二個の教育所を有す

其一種は人に知德を教ゆる處則ち學校（スクール）なり

其一種は人に罪惡を教ゆる處則ち酒店（サルーン）なり

知德を教ゆる學校の爲に亞米利加は年々一億六千七百万弗を出す

罪惡を教ゆる酒店の爲に亞米利加人は年々十億弗を拂ふ

學校の教師は其數四十万人

酒店の教師（Bar Keepers）は其數百二十万人

更に見よ

亞米利加の教會其全數十七万五千
亞米利加の酒店其全數二十四万
基督教傳道會社は物々しく海外傳道と稱す、其海外に費やすところ一年
五百五十万弗に過ぎず
五百五十万弗を以て海外の邪教徒を改宗せしめ、十億弗を以て國内に邪
教徒を作る、差引奇怪の勘定に非ずや
千九百年（則ち昨年）一年の酒精中毒、其他間接直接酒の犧牲となりて
墓場に送られしもの亞米利加に十万人、誰か云ふ戰爭は慘酷なりと、酒
と戰ふの恐るべきに比し來れば物の數ならざるなり（ゼ、ボイス）

菜食主義

菜食を主張し肉食を排斥するもの近時米國を初め獨英佛其他の各國に陸續として起り、之に關する雜誌有り著書有り團體有り且つ菜食專門の料理店有り、肉食の旺盛なる國柄に於ける一種の反動に過ぎずとするも、兎に角近世一種の流行なり、ブリチッシュメジカル月報三月分誌上博士フエルヂナンド、フエブ氏菜食を論じ、之を排擊せるを見る、其中に曰く

人類は元來肉食動物なりき、肉菜混食は遙か後に起れる事なり、原人の時代人類の生息は北半球に局られ、所謂地質學上第三期の時代には今の亞細亞と歐羅巴は却て水を以て隔てられしも、亞米利加亞弗利加は陸續きなり、或は氷原にマンモスを狩り或は深林に野獸を獲て生食したりしこれら大陸の人類は、種類の蕃殖と取て喰うべき他動物の稀少となりしより、生存上家畜の飼養となり、穀類の播種となり、肉菜混食の時代は來れり、此時代は先づ亞細亞の方に初まり歐羅巴の方は遙か後亞細亞より傳はありて家畜や穀物を作るとなれり、其後火食をなし調理を考へ菜食の人種を生ずるに至る、皆これ肉食欠乏より生存上止むを得ずして起りしものなり、エスキモ人は尙太古肉食時代の狀貌を殘せり、亞剌比亞人の一部は今も猶猿猴と同じく胡桃其他の菓物卵小鳥昆虫を生食して次に起りし時代の雛形を殘せり、

人は元來草食動物と同一の齒腸胃を持ちしものに非ず、牛や馬と同く夏に青草を見て之を喰はんことを欲し、冬に槽中に生豆を嚙まんことを望む天性を有せざるなり、誰か云繁劇なる社會の競爭場に立て獨菜食にて滿足し得と、誰か云菜食に牛乳や卵やチースやバターまでも排して猶十分の體力を保持し得と、牛馬駱駝象は草食動物中最も強きものなり、而も自己の體量と同一の重さに對しては之を自由にする能はず、之に反して肉食の獅子は自己の體と同一の重量を抱ひて六尺の高處を飛び越へ得るなり、混食の人間は其力量比例して亦兩者の中間にあり、肉食は善良の石炭を以て汽罐を熱するが如く菜食は粗惡の燃料を以てするが如し、徒らに分量を多く要して不滿足の結果を得、人有り曰く菜食動物は其性溫和なりと、最も性惡き野生の水牛や、犀は草食動物に非ずや、奸獰なる南淸地方の海賊は菜食人種ならずや

之を要するに、菜食は人間の生存上最も不至然の方法なり、之に依て繁劇なる生存競爭に堪へしめんさするは到底望むべからず、



詞藻

夜過宮川　市岡杉溪

江天含雨意。黯澹黑雲敷。無月水聲大。有舟燈影孤。
此時人盡絕。何處鳥相呼。
占取靜中趣。長橋按句徂。

梅雨分高青邱韻晴一螢
來句得來

淫雨蕭々入落梅。滿庭樹色
綠於苔。蝸牛不識前途盡。
漫向墻端得意來。

規諷妙甚。宜寫千本。以
散朱門。

與古川嬰水飲五二館席
上賦似

對坐披襟酌綠醪。悠々半日儘遊遨。名區扳地市聲遠。
傑閣接天人語高。眼下無邊引山岳。窓間千里聚波濤。
一詩且欲酬佳景。醉裡支頤心緒勞。

前聯如讀。唐賢慈恩寺浮圖作。

讀新聞紙　松本錦川



孝行車。孝行車。孝子之名轟海內。嘖々嗟賞隨處譁。
自說家在東奧陬。爲人傭作植桑麻。日贏數錢養老母。
辛苦纔倣反哺鴉。老母七十兒五十。不知何以娛生涯。
上國勝區久夢寐。買車奉母辭我家。春風一路三百里。
先入都門賞鶯花。豈料新聞記其事。閭巷觀者皆咨嗟。
或贈酒肉或財物。孝子孝子
令譽加。爲子則孝固其所。
萬口膾炙過浮誇。別有一人
銙嗤笑。指摘美玉求疵瑕。
曰以老母爲奇貨。衒賣孝名
何足嘉。眼前之事猶如此。
千秋史蹟混正邪。紫朱相奪
不可辨。有時鸞鳳爲虺蛇。

聚亭翁已歸道山。此種筆
墨。不可容易獲也。幸有
習人。勉旃々々。

偶興二首　放下菴

十笏春風對客。一甌新茗論詩。日長簷鳥聲滑。坐久庭
花影移。
盧堂客去茶冷。倚柱閑聞暮鐘。庭暝梨花有影。透簾春
月溶々。

梨花春月八字。風致可愛。非粗心濃氣之人所辨也。

小西湖上作

花影酒聲春渺漫。湖光磨鏡蘸前巒。由來世上繁華事。誰解從他靜處看。

春滿東台霞作堆。捲簾湖上幾樓臺。繁華誰悟無常理。鐘梵聲從花際來。

熱鬧場中。從冷處着眼。可知悟道之深。

即事

微雨見無痕。新綠自欲煙。躑躅花依石。暗濕紅如燃。

日暮倚軒坐。一叫飛雲鵬。

巖花紅白分。爛漫映新綠。空庭日如年。曲肱睡方足。

茗茶試上番。閑煮一甌玉。

冲澹幽雅。詩人本色。

寄某詞伯勸入京

奎運休明燦國華。才人何可老桑麻。春風來賦帝都麗。雲繞鳳城渾是花。

五陵年少。驕氣日加。孰若桑麻木訥之仁。

綠陰移榻

應募集、箋三十五、選錄五首

（公） 佐藤豁堂

芭蕉陰蘚苔。萬綠圍天地。移榻臥清風。不容他軒睡。

小々題目。敘以雄渾之語。可謂一莖草現丈六金身。

（侯） 尾形錫峯

槐陰遮赤日。綠霧晝濛濛。睡起移吟榻。微涼不是風。

綠霧東坡。微涼誠齋。融化兩家。殆無痕迹。

（伯） 西田鷗村

涼風何處生。呼僮移竹榻。榻上綠槐低。榻下青苔匝。

古調可誦。

（子） 加藤江村

綠陰深掩門。不聞車馬噪。移榻代梯航。華胥從此到。

着想奇甚。

（男） 關青山

新綠染衣巾。隔墻梧竹並。境幽禪榻安。如踞泰山頂。

結句長城。

前號詞藻の正誤

前田含潤氏春興の中人事無窮限、窮誤りて窺に作り、感懷の題下作者松本錦川の名を脫し、其詩中頹洞、富貴、傾洞富遺に誤まり、柳塘作富岡壽詞中寇公、尊爐、冠公尊爐と誤植あり

詩 課題

夏夜即事（七言絕、六月十五日締切）

銷夏雜詠（五言律、七月十五日締切）

用箋郵便はがき、東京市谷中三崎町十八番地町田柳塘宛投稿

瑞枝集

（風韵社詠草）

○　中西松琴
雨はれて白魚のぼる濱河の瀬よわき水にうめの花浮く

○　佐藤大峨
讀經のこゑしづかなり生垣の木蓮しろきたそがれの寺

○　高柴外象
世の限り戀に泣かじと言ひすてゝ星仰ぐ夜の胸の轟

○　伊藤呉風
古寺の櫻の木陰露ちりて虹あらはれぬあらゝぎの上に

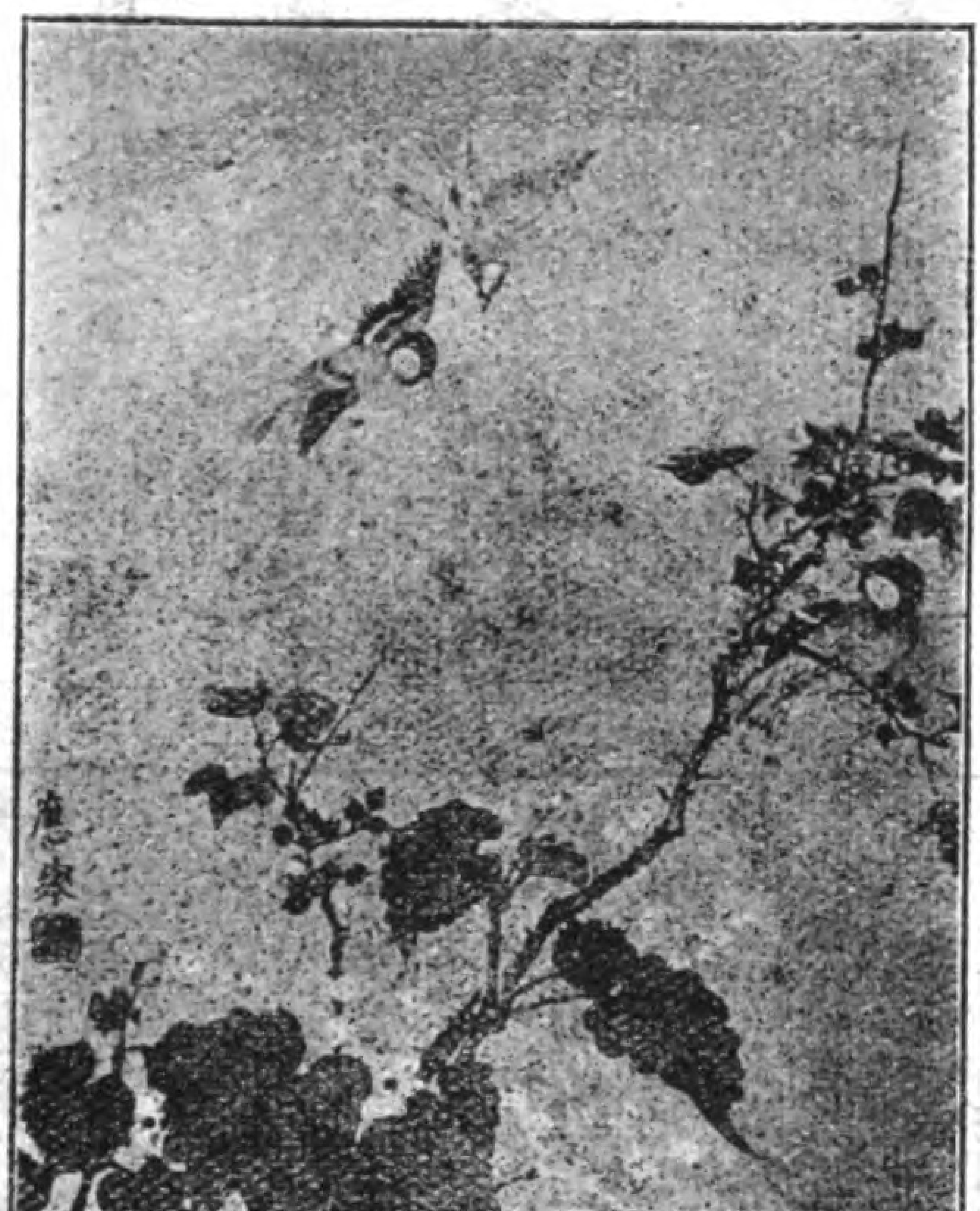
○　臼井學耕
雲ぎれの青空きよしかの奥にわが大神の宮居すらしも

○　小池武俊
猫呼ぶ乙女のゑまひ美くしく夕日の窓に花ちり亂る

○　武田紫山
畑中のちさき御社鳥立ちて菜の花つゞき緋桃はな咲く

○　門野三果
人知れず戀歌添へてまゐらする牡丹一枝花やゝふゝむ

○　五味中津
渡舟うまし乙女子二人乘せて柳の下を漕ぎいづる見ゆ



○　行田弘
奥津城のあしたしづけく雨はれて小鳥さへづる裏山椿

○　都河不老
松おほき谷の下みち露ちりて苔蒸す岩につゝし花咲く

○　齋藤幽佳
春の野に遊べる稚兒の手をとりて霞分行く佐保姫の神

○　二宮野風
何となく胸痛き夜と眉よせて火影にそむく君美くしき

○　今井月湖
辨天のうしろの小田に雉おりて蛇すべり來る菜の花堤

○ 力石知義

少女子の髪のリボンと白百合と孰れ美くし孰れ優しき

頬にあてゝ温めんには白百合の餘り冷き花と知らずや

○ 佐伯菊子

御車の音きかん日も近かりし離宮の櫻はな咲きにけり

○ 中島鏡子

眉しろき法師たゝせる古寺の苔むす庭につばき花ちる

○ 風間光子

幼子を菫の床に這はせおきて乳人も遊ぶ春の野邊かな

○ 山本貞子

杉隠れふくろふ啼きて新墓の卒塔婆すごく月ふけ渡る

○ 渡邊光風

前栽の水仙きりて梅折りて老いたる法師堂にのぼりぬ

籠り坐す書院日長きつれ〴〵に徒然草を編みたる法師

富士かねの岩根くるめき雲あれて龍の大神鬚振立つる

紫の雲まひさがる不二のねに御手取交す神の子ふたり

雲投げて風の御神の息まく日富士の岩むろ霰たばしる

〰〰〰〰〰〰

俳句

粽

四方太選

蓬生の宿に嬉しき粽かな　天來

束にして粽の笹や桶の中　厳子

外郎の粽も喰ふ節句哉　里川

世を安く田舎に住みて粽哉　啞子

女童の解きかてにする粽哉　百八郎

粽結ふ妹が襷や片外し　斗空

天井に粽を吊るす一からげ　耕村

篠笹の露の粽を束ねけり　寒堂

鯉幟立てゝ粽をたうべけり　吐寛

夜をこめて粽作るや長者振り　鬼水

粽する眞菰の露や臺所　仝

糸ながく結びしかざり粽哉　鳥不開

水桶やあすの粽の笹まこも　仝

粽解て笹捨てに出る團扇哉　石峯

笹解て火にあぶりけり餅粽　仝

笹巻の笹の緑や褪せにけり　北岫

端居して粽をとくや庭若葉　仝

色糸の飾粽や玉釧　生巣
粽結ふ笹の玉笹打ち重ね　仝
粽喰ふて外に出て見る袷哉　天風
堅くなりし粽の餅や日を経ぬる　仝
朝晴の五日うれしき粽かな　瓢分
草の香や粽を作くる山の宿　仝
粽解くやあるはこぼるゝ米の粒　一堂
笹巻や今年の笹をとりに行く　仝
板の間に灯かこみて粽かな　笠雨
笹の葉のへばり附たる粽哉　仝
柏餅粽も盆にあまりけり　松濱
菖蒲葺て嬉しき宵や粽結ふ　仝
紅白の餅をつゝみし粽哉　柳家
笹粽木曾の冠者の人となり　仝
ときながら語りながらに粽哉　仝
少しばかり粽もまきぬ新世帯　吾空
下戸の為めに粽うれしや濁酒　仝
桶の水に粽の笹の残りかな　仝
笹巻や鶯も聞く宿うれし　洋々
珍らしの人も来て居て粽哉　仝
衣ぬらす粽の笹の雫かな　仝

青梅　六月十三日マデ
生節　七月十三日マデ

稟告

一、次號より三座當選の作者に本誌半ヶ年分づゝ贈呈す
二、原稿には住所姓名を明記すべし

富士の北麓の初夏

一五坊

十日あまり一日つゞきし雨はれて
　富士の項見ゆるうれしも
富士のねのま黒き雲のひろごりて
　日はかげろいぬ明見小明見
風吹けば寒き雨降るけだしくも
　富士の高嶺は霰なるらんか
桑の芽の二葉枯るやと畑翁
　さはに降りくる霰をいたむ
時じくの霰かしこみつばくらめ
　翼おさめて巣ごもりするも
玉霰降るや渚になだれ咲く
　八重山吹のかつ／＼に散る

露都雜觀（二）

楓堂

一 人種の大混雜

一帝國内六十五の種族有りと聞けは已に他に類無きを知るべし、露人は何種族なりやと問はれて簡單に答ふること中々に面倒なり、一般にスラブ族とは何人も云ふところなれども、精密に觀來れば此國程種族の混雜せるは無きなり、柴比利亞と中央亞細亞を除きて歐洲露亞亞と高加索地方のみにて四十六の種族有り、スラブの三大族則ち大露人小露人白露人を初め、西北の芬蘭土人西部のリツーニア人ポーランド人西南のルーマニア人東部ボルガ河畔のウラロアルタイツク種の各族南東クリミヤのタータール人アゾフ海邊の希臘人及び各部に散在せる猶太人日耳曼人は其重なるものなり、スラブ族中大露人と稱するはスラブ人全躰の三分の二を占め、モスコーを中心として居住し同族中の純血なるもの、露西亞ツ子の生粹なり、プシユキンもレルモントフもトルストイも皆此族中より生れたり、身の丈け見上る計りにて頭髪多く鬚髯は顏の半を埋め深沈優揚の態度風采流石に世界第一の大陸版圖を支配せる人種なりと思はしむ

兩極端の性質

種族此の如く混雜せるを以て一概に律すべからずと雖も、總じて露西亞人は兩極端の性質を有し、内政にも外交にも悉く此性質の顯はれざるなし、世男第一の戰爭國にして同時に世界第一平和の主張者なり、最も機敏なる外交國なると同時に最も愚鈍なる國なり、極端の專政府と極端の社會黨を有し、希臘正敎の本場たると同時に無神論者の巢窟なり、獨り人事のみならず氣候まで柴比利亞のヤクーツク地方冬に攝氏零下六十度に下るかと思へば夏に三十六度（華氏九十四度）に

上る如き兩極端の性を有するなり休むとときは二週間三週間何事もなさずして時間を徒消し、働くときは夜も晝も押ッ通しにて勞働す、三十六時間休み無く働くは露人にては通例の事にて、外國人特に我國人が到底眞似る能はざることなり、酒も女も此筆法にて之を遠け居る時は半年一滴の酒をも口にせざず一度び飲み出せば强烈なるウオッカを朝より晩まで飲みつゝけ、止まるところを知らず、大切なる事業も十年二十年打ちやりて平氣なる代り、一度び其事業にとりかゝれば執念深きこと非常にて如何なる困難にも打勝ち、獨力山をも崩し海をも埋めん計りの根氣を以て爲し遂ぐるなり、

露國に殘酷の遊戲無し

柴比利亞中央亞細亞を漫遊せるものは曰く露人は恐く泥坊なり、世界第一猛惡の性を有する人民なりと、歐洲露西亞を觀光せる旅客は曰く露人程親切にして善良なる種族はなかるべしと、これ又兩極端にして而もいづれも實際なり、本部露西亞の人民が個人にして質朴敦厚なるの證は絕へて殘酷の遊戲無きを以ても知るべし、他の諸國に行ける、鬪雞、鬪牛、鬪犬などは全く見る能はず、拳法、決鬪なども露人のこれを試むるは決して無きことなり

露國に刦盜無し

これも亞細亞露西亞を例外として歐羅巴露西亞の特質とすべきは刦盜の出沒することなき事是なり、柴比利亞に比すれば人煙多しとは云へ、猶五里に一村十里に一驛、到底他の文明國の田舍に比すべくもあらず、此寂しき田舍を旅行するに晝も夜も決して剽盜の心配無しとは又不思議なる國柄ならずや、從て西班牙や伊太利に多きこれに關する犯罪無し、只高加索地方回敎徒の住せるところのみ此危難有り

竊盜猶神を禮して去る

一步露境に入りて直ちに旅客の注意を引くものは人民

の神に對して敬虔なることとなり、老人も小供も、車上の紳士も徒歩の勞働者も、寺院の前を過ぎる時又は街頭に十字架や聖母の像を見るとき恭しく指以て胸に禮印を描きて拜禮する樣、如何にその宗教心に篤きかを知るべし、特に面白きは露國にては、下女下男などの惡事を働けるとき、神の前にて（露國には家々神像有り）之を責むるときは百中の九十九までは白狀すること、竊盜の忍び入りて物を持ち去る時も、其室に神あれば禮拜せずして去るが如きこと決して是れ無き事なり、

露人性質の善良なる源因

第一の源因は信仰にあり、露人は實際印度人と同じく何物をか信ぜずんば生くる能はざる境遇にあり、六個月間は雪に閉ぢられ夏も猶暗澹たる天色を有し、見渡す涯り曠原茫漠、只深林、只黑土、此天と此地の間に專制暴壓の政府を戴き、其裁判の不公平、其奴隷制の現存、果ては意思の自由までも拘束せられて益々たる生活を送る、其幽鬱悲哀なるは素より其處なり、是れに加ふるに露人は終年雪と氷に苦めらるゝ外、火と闘はざるべからず、歐羅巴露西亞は殆んど石無き國なり田舍の家屋は全く木造にて每年大火の爲に失ふ財產は五千万圓に上る、露人か他の歐洲人に比して性質の善良なると共に快活の情を欠き、憂欝なるはかゝる境遇の爲なり、彼等が深沈の態度、辛抱强き性質、宗敎の篤信皆これより來る、

（未完）

萬朝報と二六新報

小觀記者

最近六七年の間吾邦新聞紙中万朝報の如く大なる成効を見たるものあらず、其現今の賣高を聞くに或は五万と稱し、或は八万と稱し、又十万と稱す、勿論これには多少の懸値ある可しと雖も萬朝報の賣れ行く區域太た廣くして都下のみにても上は紳士紳商と稱せらるゝものより下は車夫馬丁の類に至るまで多少の文字ある

ものにして殆んど之を讀まざるものなしと云ふて可也。地方に在ても次第に其領分を延長するは同社地方取次所の多きを見るも知らる可し。されば其賣れ高の實數を算するに少くとも七八万已上に在るべし、吾邦の新聞紙として未曾有の勢力なりと云はざる可らず。吾人をして有躰に白狀せしめば万朝報の始めて世に出づるや實に一種のモグリ新聞也と思ひたり、原稿を種として金錢を强迫する所謂惡新聞の類也と思ひたり、吾人のみならず世人の中には是の如き想像を抱きしものも亦尠からざりしなるべし、徒に想像するのみならず何々家よりは何万圓を取り、何々商店よりは何千圓を「ユスリ」得たりしとの評判をする之れなすものあり、兎に角万朝報の品格未だ揚らず、苟も品位あるものにして万朝報を購讀するはやゝ外聞を憚るの風ありたりしと覺ゆ。而して今や其勢力都下先進の各新聞紙を壓して、世の新聞讀者が殆んど讀まざる可らざる一大新聞と發達し至れる、抑も知らず万朝何等の取る可きものある。

商品は低廉なる處に向て人を吸集す。新聞紙も一個の商品なり、万朝報が今日に成效したる重なる力は云ふ迄もなく其紙價の安直なるに在り、一ヶ月三十枚二十四錢、時に二十錢、十八錢、十五錢を以て鬻きたりしことあり、生計の餘裕なきものも自由に求め得らるゝのみならず、他の大新聞を購讀するものも併せて之を買ふに難からず、万朝報が今日の勢を以て購讀せらるゝ所主として玆に在り。爾れども安價なるもの必ずしも買手を招くの原因に非す、其の今日ある自ら理由なかる可らず、重て問ふ萬朝抑も何の喜ぶ可きものある。万朝報の特色は三面記事に在り、三面記事を取り去らば万朝なしと云ふも可也、故に同社が尤も力を集注するも亦三面記事に在るものゝ如く、其報道の迅速にして記事の詳密なる素より言ふを待たず、其文時あつて深酷人を刺し、時あつて諧謔人を絕倒す、諷刺的文藻として往々天下の逸品を見出すことあり、人の隱私を摘發し、往々にして冤罪を以て人を傷け、若くは殺人强盜若くは花柳淫靡の細故を如何に、誇大に書き立て、世

の劣情を挑發するは万朝の世に蛇蝎せらるゝ所にして、記者涙香氏が自ら「眞小人」を以て居らざる可らざる所以なる可しと雖も、万朝報は獨り人を傷け世を苦めて以て爲にせんとするものに非ず、彼れは一種尤も奇警にして沈痛なる社會觀あり、士人家庭の腐敗を慨し、青年學生の墮落を嘆し、毒を以て制せんとするの意、隱微の間に窺ふ可きものあり、万朝が即ち世の紛々たるモグリ新聞に同しからざる所以見る可き也。

万朝の政治經濟未だ大に世に重せられず、彼が政治的意見としては唯何れの内閣にも反抗するに在るものゝ如し、山縣内閣にも反抗し、伊藤内閣にも反抗す、恐らく如何なる内閣にも是非ともに反抗するなるべし、反抗は一種の活氣を發す、万朝か終始活氣の汪洋たるものあると共に、時に大に偏頗の議論を試むもの亦是が爲なり、已に堂々たる大新聞紙を以て期せんとするものにして、確然たる政見の見る可きなきは太だ物足らぬ心地せらる。

爾れども万朝に於て尤も重寶とす可きは事實の巨細を網羅して、他の新聞紙に在ては十行も二十行も費す可き所を、尤も簡潔に一二行を以て要領を得せしむるか如き是也。時事新報は毎號十二ページ已上の大新聞紙にして吾邦新聞紙界の王也、爾れども其事實の分量に於て或は萬朝の四ページに及はざるものなきや否やを疑ふ、而して又萬朝の趣味の多方面なる文學、科學、小說、詩歌、俳偕より圍棊將棊等に至るまで、殆んど及ばざるものなく、英文欄をすら設けられたり、已に其價格を廉にし、其記事を精撰し且つ其分量を多くし其趣味を博大にし各種の嗜好に投ず、萬朝報が惡德新聞と歌はれ、蛇蝎の如く嫌惡せられ、而も滔々乎として天下を風靡せんとす蓋し偶然に非ざる也。

* * * * *

已にして万朝を睨破し崛然として起り勃然として動き來れる一新聞紙あり、是を二六新報となす

二六新報の發刊は其名の示すか如く明治二十六年の候に在り、當時は格別勢力もなく、唯文學趣味に富みたる一新聞紙なりしと記臆す、其後中絶して其宏壯なる

建築は終日戸を鎖して恰も大通りに於ける化物屋敷の如く殘り居りしが、一朝にして崛起し、ペンキを塗り替へ、扁額を取り替へ、輪奐の美各新聞社中殆んど其比を見ざる程也、而して紙面の活氣の横逸せる、向ふ處敵なかんとす、万朝報は已に十万の讀者を以て吾人を驚かしたりしが、二六は十五万の讀者を有すと稱す、其步調の激進亦瞠然たらさる可けんや。

二六新報も万朝と同しく代價の低廉を以て讀者を引けり、彼は万朝に比して更に大なる安價を以て配達し居る也、或は十五錢、或は十錢、殆んと無代價の觀あり、其販路を見出すに急なる吾人は鐵道馬車にて往還する毎に未だ曾て新聞賣子が、二六と中央とか二六と櫻新聞とかと連呼せるを聞かざるなし、以て如何に二六が賣れ口能く、且つ賣ることに勉强し居るかを見るべし。

二六新報は万朝報に比して記事に於て、躰裁に於て、編輯に於て、總てに於て及ばざる遠し、爾れども二六新報は如何なる新聞紙にも嘗て見る能はざる斬新の意匠を有す、意匠の斬新を以て得意とするもの時事新報の如きあれども、率ね一部分の變更にして二六新報の如く全紙を變轉して大膽なる新意匠を示し、愈出てゝ愈奇なるものは未だ多く其類を見ざる也。即ち二六が一種の異彩を放て世人を喜ばしむる所以と見る可き也。爾れども是のみにて未だ二六の本質を論す可らず、二六には極めて愛す可き意氣あり、彼には萬朝報の如く深酷人を刺し、陰險世を害するが如き邪氣を見ず。大膽放懷打つ可きは則ち打ち、懲す可きは則ち懲し、全紙を擧けて奮闘すと云へども其意一旦解くるに於ては一見アドケなき小兒の如きものあり、要するに彼には强を挫き、弱を救ふ江戸ッ兒的意氣あり、幡隨院長兵衞の俠氣あり、其日本唯一の富豪三井を攻撃して三谷三九郎を救ふたる、娼妓をして始めて自由廢業を爲さしめたる、剛慢不遜なる星亭を論して辯護文を寄せしめたる、悉く皆彼が嘗て撓けずんば已まざる意氣に發せざるものあらず。二六は確かに此意氣あり其記事の不完全なる、其躰裁の不整頓なるにもかゝはらず、

先進萬朝報を壓して雄を都下の讀者界就中、中已下の江戸ッ兒輩に稱せらるゝ所以と云はざる可らず。

爾れども二六は問題の新聞也、二六が今日に至るまで一躍し、兩躍し、社會各人の心膽を驚動し得たりしもの獨り斬新なる意匠のみならず、獨り江戸ッ兒的氣象のみならず、その把握したる問題の力也、即ち三井攻擊の力也、自由廢業の力也、勞働者大懇親會の力也、是の如き問題にして一度去らんか、二六は則ち落莫として花後の東台の如くならんのみ、ナポレオン曰く予にして若し一日を無事に消せんか、巴黎の人心は忽にして離散せんのみと、二六新報は新聞界のナポンオン也彼にして一日無事屏居、依て動く可き問題を見出さゝらんか彼は其日を以て中天の勢力を失墜せざる可らず故に彼は萬朝に比して興るの速かなる割合に衰るも亦速かならんとするの危險あり。

要するに二六の萬朝に於ける如何に其賣高を增殖し、如何に其氣焰を一時に揭け得んも尚是れ數日の後輩と云はざる可らず、爾れども後輩必ずしも先輩を超越し得ざるの理由なし、而して二六が萬朝を其實質に於て飛越し去るは獨り意匠の斬新、意氣の稜々、新問題の把握にのみ依る可らず、其紙面を更に整備し、其記事を更に精良にし紙面自身の價格を上昇するに非ずんば畢竟砂上の大建築たらんのみ、一時のチャンスに依て大に進むるは一時のチャンスに依て大に退くものなるを忘る可らず。

最後に記す可きは萬朝の立論多くは西洋的にして二六は寧ろ東洋的なること也。萬朝は宗敎に於て多く耶蘇敎に傾けども、二六は佛敎就中雲照律師一派のオーソドックス佛敎を贊成するものゝ如し。而して一は勞働者大懇親會を開らき一は民主黨的意見を以て共に勞働者の爲に大に動かんとするものゝ如し。

ローカラリズム

縦横生

粋をがり、通をぶり、三寸の高襟をかゝげて、得々

として新智識をふりまくの陋、豈に敢て今更言ふを須ひんや、特に知らず、生れてから洋服といふものを着たることなく、偶ま着れば、色は黑に限り、襟はゴムに限り、襟飾は蝶形無地に限り、帽子は中折巾廣に限りて、其意外を知らざるローカラー先生の樣子の陋か陋ならざるかを、

ホームといふを耶蘇臭しと嫌ひ、秩序といふを女々しと笑ふ、曰く、大丈夫の事豈に這個屑々の末に在らんやと、鯨飲馬食しては古豪傑の風ありと喜び、蓬頭垢面にしては邊幅を修めざるを誇る。家に在ては一門眷族のもてあましものとなり、外に在ては一世の指彈する所となるも顧みず、以て自ら世に容れらるゝ能はずと稱す、世に容れられざるか、世を容るゝ能はざるか、兎に角、彼は此世を亂臣賊子の巢窟なるかの如く見做し、己獨り其濁流の中に立つて汚れざるの君子人とほざく、眞面目らしき敎育は曾て受けたることなく雜誌と新聞とによりて辛うじて得たる僅少の智識をふりまはして、政治を論じ外交を語り經濟を策す、而かも自ら一身の置き場に困り、四隣の厄介を重ね、常に貧乏して嚢中の甚た空しきを喞つ、

のらくらとして一定の職を求めず、私かに草廬に三顧の客を待つの躰を裝ひ、區々刀筆の事乃公の能はざる所などとすまし。不潔と不規則とを偉人の特質のやうに考へ、一家の事は顧みざるを此上もなき自慢の種と心得、徒に大言し徒に壯語し、他の小心翼々事に從ふものを以て小人物と罵り、やゝ日新の事理を解し得たる者を見て、一言の下にハイカラーとけなしつく、

彼は天下一日も事なき日のなかれかしと祈り、常に騷動の材料となる者に同情を表す、增稅案に對する貴族院問題、伊藤内閣に於ける渡邊國武問題、司法官の同盟運動問題、凡そ斯の如き問題は彼れの益々多からんことを願ふ所にして、一國に及ぼす利害、天下が蒙むるべき得失等の如きは初より眼中に置かず、唯何事にても其平安にして都合よく穩かに進行せんことを是れ嫌ふ、いはゞ騷がせられるだけ騷がせて、以て一時の快を取ることを得は則ち足れりとなすなり、

彼は物の光明なる方面を看ること能はず、乃ち事毎に悲歌慷慨す、彼は物の秩序ある進行を認むること能はず、乃ち事毎に罵詈讒謗す、彼の得意とする所は、酒でも飲みながら、愚にもつかぬ不平談を戰はすに在り、彼の不快とする所は、學者、事務家、金持なんどが何がしの成功をなしたりと聞くに在り、彼は不平と不快とによりて、初めて世間あるとを知るものなればなり、

嗚呼、彼とは誰ぞ、彼とは誰ぞ、

若し夫れ此の如きローカラーズム先生の正體を見屆けんと欲せば、先づ府下の某新聞を讀め、某新聞は是れ實に現時のローカラーズムを代表し唱導し宣傳し居る也、咄々、陋カラー、狠カラー、魯迂カラー、

細君操縦法（計十段）

青柳有美

【第七段】

世の中に「あれは賴もしい男だ」との言の葉あるを聞けど、「あれは賴もしい女」だ、と許し合ひ居る男のありしを聞かず。是れも、畢竟するに女とは、仲々に慾深かにて、凡て俗情の溢るゝほどなるものなる故ぞかし。人の噂にては餘程の賢婦人なる如く持て囃されて、理想崇高、才德絶倫など稱せらるゝやからにても、既に女といふ名のつきし上は、この俗情甚だ盛んにして男共の殆んど意想外に出づるところあるものなり。しかも、此の淺ましき心たるや、處女の間にありては、さして著しと取りわけいふほどならねど、早や人妻の仲間に入りし後となれば、恰も降雨期に遇ひたるナイル河の如く、氾濫又氾濫、殆んと止まるところ知らざるまでに至るものぞ。されば、世の細君を操縦せんとするに心掛けあるものは、豫め用意周到、妻が持つたるこの俗情を滿足せしめ置かざるべからず。然らずんば、不測の災我が身を襲ふに至りて、そのフクレ面の爲にイカミつかるゝに至らんなり。然り而して、その俗情を滿足せしむる如き夫は、これ是れを稱して「痒

きところに手の屆く男」といひ、又一名「腕のある男」などゝも崇められて、女共の間に羨まるゝほどのものなり。借問す、是所に所謂俗情とは何ぞや。曰く、夫を我が專有物として之を弄ばんことなり。この心は、いづれの細君も皆な押しなべてあるものにて、妻は、亭主の、天下の公民にして人類界の一員たるを忘れ、突然我れ獨りの持ちものなるが如くに思ひ爲し、これに依りて樂しみ之れによりて慰まんとするなり。されば妻たるものにして、もし夫の我れに勝り或る何物をか愛し、これに其心力を傾けつゝあるを見ば、必ずや不平不滿の念勃然として起り、或はスネ或はダヾを揑ね、容易く解し難きものあるに至るべし。是に於てか誠に知る、夫の一事に凝ることあるは、妻の望むところに非るを。事業のために凝るも、學術研鑽のために凝るも、決して其悅ぶところに非ず。詩想に凝るも友に凝るも又然かなり。況んや、假令そのことの戀愛執着の故に非ずして、たゞ慈善救濟のためなりとするも、餘所の女に凝り傾きて這れに心を注ぐことをや。細君の御髮、ゴルゴンメデュサの頭毛の如く、擧げて恐ろしき蛇の群たるに至らずんば幸なり。げにこそ妻の欲するところは、我が夫たるものゝ、眞理よりも神よりも將た何物よりも、我れを後生大事にして之を勞り之を慰め、常に我が對手となり居られんことなれ。されば、別にこれといふ用もなきに態々家のうちに止まりて、妻をお客に横なりながら、三文の役にもたゝぬ如き馬鹿口ハタキ、或は時に火鉢を二人の間に圍んで意味もなき世間話に貴重の時間を費しやりなどし、讀書や思索や、之を細君の難有味に比すれば遂に零價に過ぎざるが如くに見せかくれば、其御機嫌の斜ならずして、恭悅至極のものあるや必せり。嗚呼、宗教も犧牲にせよ、文學も犧牲にせよ研究も犧牲にせよ。世間もし此る馬鹿げたる眞似せぬ夫あらば、妻は之を稱して不人情男といひ又薄情男と罵り、何かにつけ不滿足を感じ、玉顏甚だ穩かならざるものあらん。知らずや、女とは古き希伯來にありしモレクの神の如く、犧牲に悅ぶ動物なるを。されば、妻を意のまゝに動かさんと

欲せば、夫たるもの宜しく此の邊の呼吸を呑み浮かべて、時々少し世間眼にはウスノロと思はるまでの痴態を演じ、細君が其胸中に隠くし置くなる秘密の慾望に同情し、その俗情とヴァニテォーの心とを滿足せしめ、充分に御意を得置くべきなり。然らずんば、妻は恰もかの食に飢えたる餓虎の如く、暴くのみなりて、決して夫の命を聽くものに非ず。此ることは差して費用と勞力とのかゝる綿倒至極のものにもあらねば、一週のうち一二日を割て必ず實行すべきものなり。妻の歡心を買ふに當り、これに勝れる方略は仲々見出し難しと知るべし。是に於てか、

時々ウスノロを眞似て俗情を滿足せしむべき事：

とは、これ妻君操縦法の第七義なり。

《第八段》

『なんぢを呪ふものを祝し爾を憎むもの丶ために祈禱せよ』とまでなる古るき聖者の御教さへあるに、人の心は仲々曲れるものにて、敵は愚か、別に何等の利害なき餘所人の噂にまで、兎角、耳そばたてたき思の起りて、願くは百爾こも〴〵其人の身の上を襲へかしなど念ずることゝ世の常の習ひなり。さても淺ましき限りならずや。されど、こは人間といふ温き血の通ひ居る動物の通性にて、六根清浄と世間に囃さるほどの人も、他人の餘りに好評なるを聞きては、流石に面白き心持のするものに非るべく、まいて、女子と小人養ひ難しと下げしめられしほど、生れ持ちし下根の性なる女どもの、他に我れより勝りたる女性のあるを聞かされたる時に於てをや。如何でか永く菩薩の佳相を續けてニコ〳〵然たるを得んや。たゞに内心のみならで外面まで、又夜叉とはなりぬべし。それ生物は皆な生存競爭の性あるものぞと聞く。されば、女仲間に競爭の心ありとて、さして怪むべきことにもあらねど、我れこそは世間第一等のアドミレーション（讃嘆）をと各々自任するが、女性の特徴にて、「おかめ天狗」といふもの、今日此頃始めて岩谷烟草婦人販賣店の看版より現れ出でしものにはあらで、なべての女は皆な昔より天狗なりけり。是に於てか、細君を操縦するに於ても、

又この天狗性の利用に心がくるを最も緊要のことなりとす。されば、夫たらん身は、その妻の前に出でゝ、苟にも冗談にも、餘所の女の噂するを、堅く愼まざるべからず、もし少しにても、某といふ孃はシカ〳〵なり此く〳〵なりなど口の端に上せて賞めそやしなどせば、温顏立ちどころに雲を呼び、風を起し雨を迎へ、怒氣天を衝くとまではゆかずとも、面色忽ち變じて土の如く、胸中何となくムラ〳〵となりて、面フクラシ給ふに至るべし。蓋し何人よりも何物よりも、我れを大事がらせて、男の心のある丈けを献げさせ、式三番の文句ならねど「外へはやらじ」と思ふが、既に第七段のうちにも述べたる如く、是れ女の性情なればなり。故に妻の前にては、殊更に世間の女どもの弱所と缺點とのみを擧げ聞かせ、なにがしの孃樣は意氣地なしの白痴ものなり、それがしといふ人妻は輕薄にして無能なり、どこぞこの娘御は其顏般若に似たりお多福に彷彿たりなど、二束三文に見くびりて、たゞ〳〵芳卿のみが絶世の賢者天下無類の女樣にて、我が身は心の溶くるまで、足駄で首までハマり込んで居る如く妻の心に思はしむる樣、何事につけ力むべし。殊に近頃の女學生あがりの細君どもは、至りて慾深ののにて、福澤先生などにモチヤげられて良い氣になり夫をわがための人身御供にわげたき程の心あるものなれば、夫の餘所の女を讃めるを見ては、恰も姦通の大罪を犯し居る破倫漢の如くに思ひ誤まるなり。されば、かの罪なき無邪氣の稚兒を相手にする如く持ちかけ、何事も『坊ッチヤン！お前はエライよ』とオダて置くべし。然らば『これ！坊はエライだらう』と、大手を披げシコを履み鳴らして恭悅がらるゝこと夢々疑ひなし。暮々も餘所の女を揚げ聞かすべからず。下女の如きをさへ、妻はわがマッチユ（競爭者）と心得居るもの故、この規則は下女をも除外例をなすことなきものなり。また彼のマダム、ステールといふ佛の大女文豪さへ、もし美貌を與ふるものあらば、その有する文才の總てを擧げ、悅んで之れと交換すべしといへるほどまて、容貌は女の最も氣にするところなれば、決して

妻の容貌を惡しざまにケナシ聞かすが如きことあるべからず。之をなすは是れ喧嘩の基ぞかし。豈に愼まざるべけんや。是に於てか

餘所の女を讃め聞かすべからざる事…………

とは、是れ細君操縦法の第八義なり。

（未完）

芸窓偶筆（二）

櫻所居士

△**黒人臭味を厭ふ**　越後の良寛長老は、嘗て人に語りて曰く、貧道か嗜まさるもの三あり、詩人の詩、書家の書、庖人の饌と、而して長老の詩は自然の妙ありて、寒山の詩の如し、書も亦龜田鵬齋をして神品なりと驚歎せしめたり、余も亦良寛長老の如く、人をして驚歎せしむるの技能あるものに非ず、然れども亦嗜まさるものあり、政治屋の演説、説敎者の説敎、小説家の小説この三なり、之を要するに俗にいふ黒人、商買人の臭味あるを厭ふ、言を換へていへは、藝娼妓よりも深閨の處女こそよけれといふが如し、趙雲崧の詩に言あり曰、閨媛或有私、時猶恐人知、娼女郎改行、見客仍笑嬉、由來出身異、意趣自各岐、與聘郤扇妓、寧買破瓜姫と、即ちこの意なり、

△**爾に出る者は爾にかへる**　安永の頃の事なりとか神田邊に頓作滑稽をもて、人の頤を解くを事とする者あり、獨身ものにて酒を嗜み、家豐かなるには非れとも、亦衣食に關る丶ことなかりき、同所にて富有なるともから協議し、伊勢參宮せんとて、旅中のなくさみにこの男を同伴せんと誘ひければ、旅費なしと答ふ、旅費は我等兩人にて如何樣にも賄はんといひける、さらばとて三人打連、品川より神奈川まて、急かぬ旅なれば茲にて一杯かしこにて一樽とかたふけて、神奈川驛に泊りけり、翌朝未明に孰れも神奈川を立んと起出けり、彼男は酒の過けるにや、草臥し故にや、起せとも覺めす、兩人の連ふと思ひつき、彼か睡夢中に出家させなは、よきなくさみならんと、窃かに剃刀を取出し、髮をそり青道心として、日の出るころ猶また起しけれは、漸く起出頭をなて大に驚き、兩人の戯れになしぬらんと怨みけれとも、曾て知らさるよしを答ふ、猶疑ひて種々いひけれとも、聊か覺えなしと陳しける故、今は詮方なく、出家にては函根の關所を通りかたし、これより江戸へ歸り候はんと暇乞けれは、兩人も

詮方なき事と託けれとも、あらさまに云ん樣もなく、旅銀なと與へて歸しけり、彼男熟思ひけるは、斯く我を慰み、情けなくも剃髮させぬることうらめし、この遺恨面白く歸さんと色々工夫して、芝邊にて古き袈裟を調へ、まことの出家の姿となり、四五日も過て彼兩人の家に至りけれは、妻子驚き如何なれは斯る姿とはなり早くも歸りけるやと尋ねけれは、彼男涙を流しかくなる上は推量なしたまへ、道中渡舟にて岩へ乘掛破船いたし、三人とも浮つ沈みつ流れけるに、我は運强く岩に流れかゝりしを、皆々打寄助船にて引揚られ、二人のものは尋ねけれとも生死も知れす、其外乘合行衞なきゆゑ、無常を感し出家して回國に出る心得なれとも、道連の家内へ知らせさるも便なしと立歸しと、涙まじりに語りけれは、妻子共のなけきを見るも痛ましきありさまなり、兩人の妻はあまり絕かたく、黑髮押切回國せんといひけれは、回國の事は兩人菩提のため然るべしと申のへ、拙者は回國に出立すへしといひて、行方なくなりしとかや、兩人の妻菩提寺をたのみ出家し、尼となりてねんごろに菩提を吊ひけれは、心ある親族はあまり早計なりと、まつ彼舟の容子も聞き、飛脚を出すへしと彼これと相談の内、兩人のものは參宮滯りなく仕舞歸りけれは、兩人の妻は新尼となりて、夫を見て大いに驚き、如何なることゝ尋ねけれは、始終の事ども語りけり、よしなきいたつらごとなして、彼男にはかられける事のあさましさと後悔すれと甲斐なし、右新尼還俗してそのかみ四五寸延たりしとき近所のもの來り語て笑ひぬと或人の記せしものに見えたり、是かの曾子の所謂爾に出たるものは爾に反るものなりといふに符合す、人を玩ふものまた其妻の人に欺かれて尼となるに至る、世上往々これに似たることあり、左れは假令滑稽頓智を以て、人の顏色を窺ふ、俗に云幇間如き者なりとも、由なき徒らはせぬ事なり、

△鬼貫　鬼貫は攝州河邊郡伊丹の人にて、芭蕉翁と同時の人なり、俳諧の風調世に賞せらる、其言に曰、末熟の人の俳諧は、春雨のと五文字をいひ出せし時、はるさめ先におくといふは、秋さめとつけかへ侍らんといふこそうたてけれ、春の月はくれ初るより、おぼろたちてもの足ぬけしき、夏の月は燈を遠く置てながめ深し、秋の月は窓に軒に海に川に野に山にながめありて、冬の月は一村の雲の雨こぼし行ひまた照していそがし、春雨は物こもりてさびし、夕立は氣はれて凉し、秋の雨はあはれにてさびしく、冬

の雨はそれよりさびし、聲はきく時鳥侍託るこそ詮なるべけれ、四季折々の草木ひとつ／＼辨ふへし、

又云、俳諧の道は淺きに似て深し、易きに似て傳はりかたし、初心の時は淺きより深きに入り、至て後は深きより淺きに出るとか聞し、昔は初中後を經しかど、今は其修行する人だになし、心みなさきにはしり、いつしか人も許さぬ上手にはなりけらし、之を思ふに俳諧は唯當座わだ口にして根もなきいひ捨艸なりと、輕き事におもへるなるへし、是を又和歌の一體とかきくときは、かりにもあさ／＼しく思へるはほいなき事にて侍る云々、

俳歌者流には無學の徒多し、然れとも彼芭蕉翁の句の如きは、杜律なとの詩句をとりて發句としたる如きありて、言盡て意盡きさるの妙あり、降りて川柳の鄙俚なる語を以てするものすら、往時に於ける柳樽の句は誦すへきもの少なからす、近來新聞紙雜誌等に散見するもの、概ねわだ口たりいひ捨艸たらさるもの無し、俳諧も亦衰へたりと謂ふへし、

△武將の年齡　　頼朝五十三、頼家二十三、實朝二十八、

頼朝は落馬して後病て薨す、頼家は時政に殺され、實朝は公曉に弑せらる、三人共に天壽を以て終りしにあらす、或は云頼朝も北條氏に鴆せられしならんと、

尊氏五十四、義詮三十八、義滿五十一、義持四十三、義量十九、義敎四十八、義勝十、義政五十六、義尚二十五、義稙五十八、義澄三十二、義晴四十、義輝三十、義榮三十一、義昭六十一、

義敎は赤松滿祐に弑せられ、義輝は松永久秀に弑せらる、義勝は落馬して卒す、而して義稙は尊氏の以來の長壽なれとも阿波に客死し、義昭は六十一まて生存せしか、足利の覇業は已に織田氏に移れり、

信長四十九、是は本能寺に於て明智光秀に弑せらる、

秀吉六十二、秀次二十八、秀頼二十三、

此も秀次秀頼は正命にて死せしに非ず、

家康七十五、秀忠五十四、家光四十八、家綱四十、綱吉六十四、家宣五十一、家繼八、吉宗六十八、家重五十一、家治五十、家齊六十九、家慶六十一、家定三十五、家茂二十二、

徳川氏の將軍は割合に長命多し五代(綱吉)八代(吉宗)十一代(家齊)十二代(家慶)は祖家康に及はされともみな耳順を踰たり、

又鎌倉の執權たりし北條氏は如何といふに、時政七十八、義時六十二、泰時六十、時頼三十七、時宗三十四、貞時四十一、高時三十一なり、而して義時は近習に弑せられ、高時は自殺す、代々時政の長壽の如くなるものなし、時頼時宗の如き最も不幸短命といふへし、未た各藩に就て代々の藩主の年齡の統計をなすに暇あらすと雖とも、平均三四十歳ならんか、恐らくは二三十歳なるへし、何となれは富貴に長生し、酒色に沈湎するもの長壽を保つこと稀なれはなり、彼宇和島侯伊達宗城氏の如き、壽一百歳に至りしが如き、蓋し封建ありてより以來比類まれなる長壽にて、或は是まて大名といふ人の中には絶無なりしならんか、



思潮

英雄論

「經世時報」　渡邊國武氏

共同一般的の思想ありて、單獨自立的の意力なく、人之を是と言へば之を是とし、人之を非と言へば之を非とし、泛々然として人と倶に浮沈し飄々乎として世と倶に升降し、社會の桎梏に甘んし、他人の羈紲に安んする者、之を凡人と謂ふ、凡人の世に處る決して事を立て、功を成すこと能はす、醉生夢死、蜉蝣と異ることなし。

單獨自立的の意力ありて、共同一般的の思想なく、人之を是と言ふも以て是と爲さす、人之を非と言ふも以て非と爲さす、奇氣稜々として社會の外に逸し、高情超然として宇宙の表に立ち、輿論の淺薄を嘲笑し、物議の顚倒を罵倒する者、之を畸人と謂ふ、畸人の世に處る、又決して事を立て、功を成すこと能はす、單獨孤昂、悲憤慷慨して以て世を畢ふ。然らは則何をか英雄と謂ふ、單獨自立的の意力と、共同一般的の思想と能く相調和し、以て單獨自立的なるべき時には、以て單獨自立的に、以て共同一般的なるべき時には、以て共同一般的に、宇宙性靈の發動に伴ひて、一世輿論の先鋒となり、世人が言はんと欲して未た言はす、爲さんと欲して未た爲さす、只一世輿論の底裡に鬱滯し、萬人希望の腦裡に存在する者を發揚し、袂を振ふて一呼すれば、萬人響の如く應し、成功立ところに至る者、是れ眞の英雄なり。

兒童と鳥類の保護

「兒童研究」　記　者

米國の或る地方では、學校兒童に命じて、鳥の巢箱を作らしめ、これを各自の家、又は所有の林などの高き木にくゝり付けおき、鳥の來たりて卵をかへすに便せしむるといふことである。兒童は、かれて、先生のいひ付けにより、家にかへつて、鳥の巢を作るに適する小箱を得て、之を一定の日に學校に持つて來るを、先生は、之を檢查して表をつくりおき、時々兒童の家を見舞ひ、鳥が旣に巢を作つたか。又卵をいくつ產んだかを檢し、其の表に書き付けて歸へるのである。そこで、兒童は、其の卵の數を競ひ、其雛の多きを喜び、最も大切に此の巢を保護してやると、いふことである。實に、すべての事に、米人が、よく心を用ゐて居るのは敬服の外はない。我が國の如く、兒童が學校から歸れば、すぐにつかまへて、おもしろくもない學科の復習をいひつけ、否らざるも、遊びの方法をも授けてやらぬ社會とは、雲泥の違ひてある。面白いことには、鳥類の保護は、即ち兒童の保護となるので、すべて、此のやうに、社會を益しつゝ兒童を適當に教養するといふことは、たゞ教育界の責任ばかりではない社會問題として、あらゆる方面の人が、解釋しなければならぬ。

臺灣土人の教育難

「教育實驗界」　石田新太郎氏

△國體　國語學校で內地用の高等小學校本を用ひまして教へて居る間に一つ斯う云ふことがありました。我日本帝國は建國以來外國の凌辱を蒙つたことも無く、從つて一寸の土地も外國人に割讓したり掠したことは決して無い、實に萬世一系の　天皇を戴いて、二千五百餘年の間國威常々として日に榮えて來ると云ふとが書いてありました處を、土人は讀みました後に、夫ならば「樺太はどうしたのであるか」と教員に質問爲ました。教員は立所に答へて、夫は露西亞と交換條約に依つて千島と交換したものである、決して割讓したもので無いと言ひましたが。又元寇の歷史の記事がありました事を讀んで最後に質問を發して言ふに、「伊勢の神風が起らなかつたならば日本は負けたでありませう」とか、或は又日淸戰爭の事柄を讀んだ後に、明かに知れて居るにも拘はらず「遼東には誰が總督になつて居りますか」と云ふ事を知らざるが如くして教員に尋ねるものがある。

△倫理　隨分忠君愛國と云ふ思想を皷舞することも出來る、其思想を皷舞した結果として淡水河を湊川と考へて淸國の爲に義兵を擧げる者が出來ないとも言はれまい（中畧）普通の人の考へます倫理教育の方針は、先づ臺灣人をして日本帝國に附屬したのは甚だ利益があると云ふこと、淸朝に附屬して居るときより甚だ利益があると云ふ觀念を抱かしめるのが善いと斯う云ふのであるが、之は反對に言ふたならば、利益が少なく爲つたらば帝國の附屬を去つて、更にもつと利益の有る國に附屬すべきものであると云ふ事を言現はして居るのではありますまいか。

△仁惠　更に又日本は大變仁惠に富て居る慈愛に富で居る國であると云ふことを話して、以て土人の心を安んじて行くのも一の重要な手段である、併し之も臺灣を占領するときに於て、軍隊其の他の行動が如何に無慘なりしか。彼の戰爭の爲めに財產を失つた者は數多ある、其の際に自分の父母兄弟は殺されて仕舞い、自分の妻や姉妹は强姦せられた例もある。

△品性　夫から又日本國民は優等なる人間であると云ふことも、占領當

時渡臺した人々の不品行なり、官吏の不品行抔を見ては、到底彼等に眞實なりと思はしむることは出來ない。

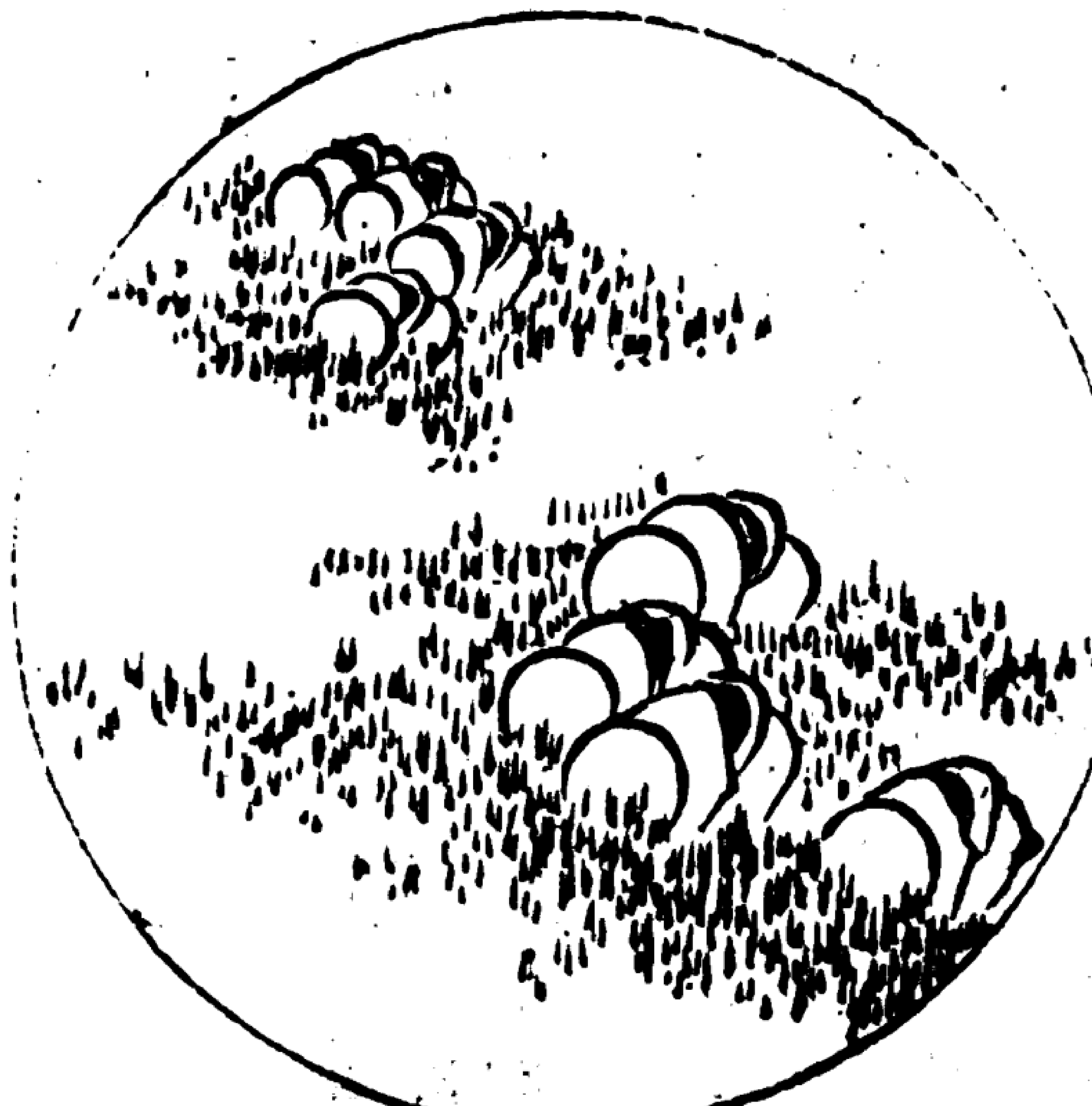
△國語　國語を以て隨分帝國に同情の無い人間を作ることも出來る。則國語を教へつゝ社會主義を持つて居る人間も作れやうし、又共和主義を持つて居る人間も作ることも出來る。國語を教へさへすれば日本人の性格を作ることが出來ると云ふことは無い。であるから國語を教へる上に於ては矢張り前に申した通り、倫理の主義と相俟つて行かねば、言語教授を如何に務めても日本の國民の性格を作ると云ふことは覺束なくはあるまいか。又内地に於て學者が一日も早く標準語の一定を圖つて呉れないと、臺灣に於ては日に々々不都合を感じて居る譯である。昔或る英吉利人が長崎で數年間日本語を學んで、然る後に東京に出た處が、少しも通じなかつた、其處で再び日本語の研究を東京でやりなほしたと云ふやうな話があるが、どうか臺灣人をして斯んな風な事をば爲さしめないやうに爲たいものである。

既に亡國の民たり

「萬朝報」　内村鑑三氏

國が亡るとは其山が崩れるとか、其河が乾上るとか、其土地が落込むとか云ふ事ではない、縱令日本國は亡びても其富士山は今の通りに蒼空に聳え其利根川も木曾川も今通りに流れ、其田畑は今の通りに米麥を産するに極つて居る。

亦國が亡るとは亦必ずしも外國人が其政治家と成ると云ふ事ではない、我々の總理大臣が伊藤侯であらうが、サリスベリー侯であらうが、其事は餘り國の興亡に關係する事ではない、我々は或る場合に於ては外國人を雇ひ來て大臣や官房長の職業を彼等に授ける時があるか乎も知れない、國は土地でもなければ亦官職でもない、國は其國民の精神である、此精神さへあれば其土地は他人の手に落ることがあても其國は亡るものではない、恰も今日の猶太人が其本國は土耳其人の手に在るに關はらず、有力なる國民である如く、又米國人が其洲長又は市長として外來の獨逸人又は愛蘭人を戴くことあるに關はらず立派なる獨立の民であるが如きものである。



國民の精神の失せた時に其國は既に亡びたのである、民に相愛の心なく世人々互に相猜疑し、同胞の成功を見て怒り、其失敗と墮落とを聞て喜び、我一人の幸福のみを意ふて他人の安否を顧みず、富者は貧者を救はんとせず、官吏と商人とは相結托して辜なき援助なき農夫職工等の膏を絞るに至ては、其憲法は如何に立派でも、其軍備如何に完全して居ても、其大臣は如何に賢い人達であつても其教育は如何に高尚でも、斯の如き國民は既に亡國の民であつて只僅に國家の形骸を存して居るまでゝある、

宗教合同論

「精神界」　村上專精氏

例へば同じ松樹にても、其根の別なるものを合して一本をなすことは、出來得べからざることなり。況や松と竹との如く、等しく植物なるも、そ

の天性を殊にするものに於てをや。今夫れ基督教佛教の如き、共に宗教なるも、根本的にその教祖を異にし、また歴史的にその教理を異にす、故にこれを合同せんとすることは出來得べきことゝは思はれざるなり。人あり、佛教も基督教も契合點あり、合同すべき性質のものなりと云ふは盡し發達を後の説に徴するものならん。若夫れ歴史的に開教の本に就て觀察する時は、彼此その此性質を異にして、發生せしものなること、昭々乎たりと云はざるを得ざる者あり故に余は佛基兩教は合同すべきものにあらず、隨ひてこれが合同論を唱ふるは、無益の空論なりと信ず。

我邦基督教の三起點

「東京毎週新誌」記者

我國の基督教の歴史を案するに、三箇の起點あるを見る。一は南方九州の熊本にありて、米人ゼーンス氏が養成したる青年の一隊、二は北方北海道の札幌にありて博士クラーク氏が教導したる學生の團隊三は中央横濱にありて、宣教師ブラオン氏が集めたる青年の團體これなり。此三箇の源泉は其性質に於て多少趣を異にする所なきに非れども、無宗派主義を唱ふるに於ては皆同轍に出でたり。且つ日本福音同盟會の前身なる基督信徒大親睦會なるものは、明治十一年に始めて東京に開きたる者なるが、此會の特質となすべきは無宗派主義にありて、當時の信徒は孰れも已のキリストの教會に屬するを知りて教派にに屬するを知ざるものゝ如くなりき。一致組合兩教會合同の運動も直接此親睦會の結果となすべきものにて、不幸にして此運動は失敗に歸したるも、此運動の精神は、嘗に一致組合の兩教會の合併するに止まらず、其他の教派を悉く合せざれは止まざるの勢なり。



小學兒童の齒牙衛生

「私立衛生會雜誌」記者

抑も齒牙の腐朽することは種々の疾病に關係を有するものにして、殊に小兒に在つては爲に直接の疾病を惹起するものなり。直接とは之に依て來る苦痛を云ひ、間接とは之と相伴ふ、不愉快及兒童の勉學に堪へざる等をいふ。

齒牙の疾病は直ちに身體の部分に影響し、急性の胃病を惹起し、遂に消化作用を鈍ならしめ、從て消化器を弱軟ならしむるものなり、故に小兒の發達に最も必要なる滋養品は之を供給するも、身體に吸收せず、加ふるに齒牙より生ずる腐敗物及有毒細菌を絶えず胃中に送附するが如き、如何して健全の身體を養成し得べき。是れを以て小學校長は、左の諸點を標準として、常に其生徒に訓示すへし。

一、齒牙は少くとも一日一回清潔法を加ふべし。

二、此清潔法を施すは食後を最上とす。

三、之れを爲すには強硬して小形なる「ブラッシユ」を用ひ、縱橫に磨擦すべし。

四、齒牙を粗略に使用すると、たとへば強硬なる核の類を咬むか如きは成るべく避くる事。

以上の諸點に就て平日充分の注意を爲さしむる時は、齒牙の腐朽を防ぎ

且其腐朽せる場合に在て、救治も亦甚難からず、齲牙の腐朽に關し、近來小兒間に此增加は、如何なる因緣に依りて來れるや 疑問は之れを研究すると甚必用なりとす、此疑を解かんは、大體之を公衆並に其父母が食物の撰定及び小兒衞生の事に歸するを得べし、今此症病を生ぜんとするもの丶種類を擧ぐれは左の諸點に歸着するを見る。一、口中衞生の不充分なる事、二、乳汁吸飲器の使用宜しきを得さる事、三、遺傳、四、線維を有する食物及粗硬なる食物の不足なる事、五、甘味の食物を多量に喫し、又は其熱きに過ぎ冷きに過ぐる等の飲料を用ふる事、六、構造不完全。



日本と露國
（外字新聞抄出）

評論

教育時論

教科書

警醒子

教科書といへば、直に、運動、御馳走、賄賂、買收、といふやうな罪惡を聯想する。故に我等は、審査會廢止國定編纂を叫んで、聊かにても罪惡を少からしめやうと努めて居るのである。がしかし、まだ我等の意見の實際に行はるゝに至らないうちに、早くも四月といふ新學年が押寄せて來て、運動、御馳走、賄賂、買收、例によッて例の如く、某々書肆は某々縣に勝ち、某書店の何々は某縣に採用せられたといふことである。また我等の意見の行はれない時、審査會の廢されない時、國定編纂の着手されない時、この時に以上の如き結果を見たのは、蓋し其眞に已むを得ないのである。眞に己むを得ないのであるから、たゞ所々に黄金の花が散ッたと言ふだけの事ならば、我等は一日も早く我等の意見の實行を見むことに精勵するまでゝあるが、彼等

書肆が、たゞ審査委員を抱き込むことにのみ急であッて、採用後の供給の準備を等閑にし付して置くやうなことがあつては、どうしてもこれを大目に見逃す譯にはゆかない。彼等審査委員も、山吹色に目が眩み、御馳走酒に腸を腐らして、幾多の兒女の迷惑をも顧みないといふやうなことがあッては、我等は不幸にしてそれを默ッては居る程の雅量を持ッて居ない。

言ふまでもなく、小中學校の新學年の始業は四月の初旬である。然るに、四月を過ぎ五月も過ぎ、もう六月に手の屆く時になッても、まだ敎科書製本の間に合はないのは決して四ッや五ッでなく、某會社の何、某書店の何、數へ來ッて我れ等はたゞ、呆然たるの外はない、最初から敎科書によらないで敎へ習ふなら、又それでその考もあるが、敎科書について敎へもし習ひもするつもりのところへ、二ヶ月も三ヶ月も敎科書なしでやらされては、敎師生徒の不便迷惑實にお察しものである。イヤ幾旬の日子を費して、收め得るところの敎育の効果、抑もどの位だらうか。

畢竟これ審査員の罪、書肆の罪、若しそれ審査會を廢し國定編纂を爲すに至らば、少くとも、こんな弊害丈は除くことが出來るであらう。

學生の服裝

我等は、自由を尙ぶものである。精神の自由、身躰の自由、我等の最も喜ぶところである。隨ッて師範學校や高等師範學校のやうに、規則責めに逢ッて居る連中が嫌ひである。イヤ我等が嫌ひであるといふばかりでなく、實際彼等の因循、彼等の卑屈を以てしては、たゞ一定の時間、コツ〳〵と働くといふよりは寧ろ動いて居る機械以上の貢献は覺束ないである。束縛の人を毒することの大きいには、たゞ驚くの外はない。

自由、しかし我等の言ふ自由は、不規則といふことでもなければ無規律といふことでもない。隨ッて醫學校や法律學校の生徒のやうに、萬事にだらしのないのを觀ては、どうしても歎ばれない。イヤたゞ獨り醫學生や法學生ばかりでなく、近來此のだらしのない惡自由の風が、高等學校や帝國大學にまで及ンで來たのは、甚だ心外とするところである。看よ、彼等の服裝が、如何に亂雜になッて來たかを。

始めて高等學校に入學したものは、白筋の帽、黑釦の服、威あり光あるやうにも思はれて、絕えず、これをひけらかすのであるが、二年三年と時を經て、大學の

門に近づくに從ッて、黒釦が如何にも見すぼらしく、白筋が何となく厭になッて、羽織袴に鳥打帽といふ打扮となるのである。角帽金釦で威張ッて歩くのも、實は最初の一年丈で、頭の油が帽子の頂へ染み出すやうになると、此須が欲しくなり、折襟の服が着たくなり、縞のズボンが穿きたくなり、中折か山高の帽子が被りたくなッて來るのである。羽織袴に鳥打帽、我等は決してこれを悪いとは言はない、折襟の服もよし、山高の帽子もよい、しかし苟も籍を學校に置く以上は、その學校に定めてある制服を纏ひ、制帽を被って居るのは、その校學生當然の義務ではなからうか。

制服制帽、實は些細なことのやうではあるが、容儀の精神に及ぼす影響といふものは、決して小少でない。言語が粗暴だと自然行も粗暴になるのと同じやうに、だらしのない風躰をして居ると、行動云爲もいつかだらしがなくなッて來る。學生風紀の頽敗といひ、學生の墮落といふも、實はこンなとが第一階段であるかも知れないのである。殊に恐るべきのは、此の悪風が、近來に至ッて、邪氣なき可憐なる少年學生の間にまで波及して來たことである。

冀くは官公私立の諸學校長諸氏、少しく耳を我等の言ふところに供し、制服制帽の定を勵行し、眞の自由は正しき規律の下に於て、始めてこれを得らるゝものであるといふことを、知らせて貰ひたい。

寄宿舎

何遍言ッても、同じことは一ッことである。學生の墮落、これが救濟の生法、監督寄宿舎設立の必要、我等はもう言ひ飽きた。そして學生の墮落はます／＼甚だしく、監督寄宿舎設立の必要はます／＼急を告げて居る我等は、人が我等を目して、徒に空論を唱ふるものとするものゝあるか無いかは知らないが、我等は、我等の意見を實際に行はむがためには、頗る苦心したのである。監督寄宿舎設立の事、三び成らむとして遂に三び敗れてしまッた。我等はもとよりそが監督の任に當るためには、敢て一身を献ずることを辭しないのであるが、僅かな金員のために、我等の希望はかき亂され、我等の言ふところは空論とせられたのである。

ア、天下には、一夜の豪遊に幾千金を惜しまない阿呆はあるが、此の必要缺くことの出來ない監督寄宿舎のために、一滴の涙を注ぐことさへするものゝないといふのは、誠に悲しいことである。

學生愛讀の書

流行ほど奇なものあるまい。『鐵道唱歌』すたれ、『ストライキ節』すたれ。『楠公の歌』またやゝ下火となッて來た。彼も一時、此も一時、もとより深く心を痛めるにはあたるまいといへばそれまでゝあるが、年少子弟の純潔な頭の底へ悪い印象を貼すといふのは、兒童それ自身のためから言ッても、社會全躰のためから言ッても、決して喜ぶべきことではない。この點から、我等は『ストライキ節』を斥けたのである。

ところが、近來やゝ年の長じた學生の樣子を見るに、彼等の間には、一種の流行病があッて、その勢ます〳〵猖獗を極めて居るやうである。とんな流行病であるか、即ち戀愛熱でてある。『明星』や『新聲』は、隨分艶ッポイ雜誌であるが、彼等はこれを愛讀して置かない。『活戀』と言ひ、『婦人の側面』といひ、『戀愛詩評釋』といひ、『戀愛と文學』といひ、『維新豪傑の情事』、『遊仙窟評釋』、『戀のナポレオン』、『多情の豪傑』、アア悉く是れ彼等が愛讀の書である。著者はこれがために青年の間に名を知られ、書肆はこれがために奇利を博す。此くの如きは、もとより我等の關せざることではあるが、たゞこれがために、年少氣鋭の徒を罪悪に導き、これがために社會の風紀を頽敗させるといふのは、甚た以て不都合ではなからうか。

勿論、著者や書肆の不都合は不都合に相違ないが、外圍の誘惑に逢ッて忽ち魔道に踏み込むのは、第一青年自身の意志が微弱であるからでもあるし、第二適當に監督して他の誘惑を斥けてやるものがないからでもある。洵に憤慨に堪へない現象といはねばならぬ。



新文部大臣

何の彼のと言ッて居るうちに、とう〳〵伊藤内閣は瓦解してしまッた。新文部大臣には、誰がなるであらう。

松田文相を迎へてから、まだいか程もたゝぬのに、また新文部大臣を迎へなければならぬことゝなッたのは、誠に煩しいことである。松田文相の去るのは、決

して惜くない。たゞ、由來文部省は、無能無力を以て聞えて居るところであるから、新文部大臣も亦無能無力の伴食先生ではなからうかと思ふと、誠にイヤになるのである。いつでも大臣の交迭する度毎に、幾何かの望をかけて、いつでも失望するのが例であるから、又今度とも思ふと、まだ迎へない前から氣が進まないありていに言へば、我等はもう文部省には愛憎が盡きたのである。

我等の愛憎を盡かした文部省へ、新に大臣として這入ッて來る人は、抑も誰だらう。

小僧と番頭

教育は、學校だけで出來るものでもなく、又僅か三年や四年の義務教育を了ッたからといッて、それで一人前の人間になり得る譯にはゆかないものである。と言ッて、誰も彼も、悉く中學教育や高等教育を受けることの出來ないのは、言ふまでもないことである。そこで我等は、常に商工業者の弟子や、小僧番頭などのために、どうかして、人間として是非心得て居なければならないことの一通りを教へてやりたい、どうか教へる工夫はなからうかと、あれやこれや考へても見たが、主人が勸めて夜學にでも通はさせるか、さもなくば家庭に教師を招聘させるか、但しは適當の讀本でもこしらへて、これを讀ませるかより外に、名案は浮ばなかッた。

近頃竹越與三郎氏は『人民讀本』といふを著はされたが、どんなものかと思ッて讀で見るに、國家人民憲法政務權利義務德義理想といふやうなことを、極めて平易に、極めて穩健に、説明がしてあッて、文章も善く出來て居るから、商工業の子弟や、小僧番頭に讀ませるには、誠にうッてつけである。

こゝで『人民讀本』の提灯を持つ所以はないが、今の主人といふものは、多くその小僧番頭を使役する丈であッて、聊かも彼等が將來のために、計策してやるといふやうな考を持ッて居ない、誠に淺間しいものである。かういふものに向ッて夜學に通はせろ、家庭教師を招聘しろと言ッたところで、到底出來ない相談であるから、せめてはこの『人民讀本』のやうな類のものでも讀ませて、彼等が將來の進路に一道の光明を與へてやる位は、主人たるものが、小僧番頭に對する、當然の義務だらうと思ッたから、一言した譯である。

●ちりづか（明治三十四年四月廿一日から同五月廿四日まで）

●寂寞　此の一月は教育界寂寞の一月であつた。理窟の方面でも、實際の方面でも、一向珍種を見出すことが出來ない。しかし、例に依つて、强ひてこゝに『ちりづか』を築かう。

●文相送迎　伊藤内閣が瓦解したので、松田文相は、當分我等が屬した一切の望を無にして、辭職せられた。無能文相、彼は實に無能にして終つたのである。將に來るべき新内閣の新文相、能く松田氏失敗の後を繼承して、日本將來の教育のために、何等か貢獻するところあらむを冀はざるを得ない。

●高等學校長會議　は、去る四月廿二日から文部省内で、開かれたが、これといふ名案も無かつた丈に、感服する程の決議を見ることも出來なかつた。たゞ入學試驗規則を改正して、（一）總入學者が、その募集人員を超過しない時を除くの外、中學及同等學校卒業生皆撰拔試驗によること。（二）全國各高等學校同時に撰拔試驗を行ひ、その試驗問題も全國同一にして、不公平のないやうにすること。（三）志願者には、寫眞を出させて、代理受驗の弊を防ぐこと。（四）熊本の高等學校へ入學志願のものでも、撰拔試驗は、東京でも京都でも金澤でも仙臺でも、どこでも受驗者の都合によいところで應ずることが出來るといふやうにした。實際の經驗を基にして編み出したものである丈に、無難である。

●商業學校長會議　五月三日から一週間、高等商業學校の内で開かれたさうだが、別段書きたてる程のこともなかつたらしい。

●私立明倫中學校　愛知縣の同校は、四月廿六日、徵兵令第十三條に依つて認定された、

●新文學博士　萩野由之、西村茂樹、那珂通世、松本愛重、小杉榲邨、木村正辭、三宅米吉、三宅雄次郎の八氏は、四月廿六日を以て、文學博士の學位を授與された。

●根本通明翁　は、高齡といふので、御思召を以て、宮中から、金壹萬疋を下賜せられた。翁の榮譽、誠に限りないことである。

●嘉納治五郎氏　澤柳政太郎氏に代つて、高等師範學校長となつた。どうせ長いことはあるまいが、何分しつかりお賴み申したい。

●菊地大麓氏　故外山正一氏を先驅として、加藤弘之、渡邊洪基、濱尾新の三氏、尋いて東京帝國大學名譽教授の名稱を授けられたが、今度現任東京帝國大學總長菊地大麓氏も、また此の名稱を授けられた。

●立花銑三郎氏　學習院教授兼監事であつた同氏は、久しく海外に留學して居られたが、此の程歸朝の途中、遂に死去せられた。誠に惜しむべきことである。

●渡邊洪基氏　貴族院議員正三位勳一等大學名譽教授たる同氏は二十四日逝去されたこれ又哀悼の極みである。

●『教育時論』に、碧翁といふ男が居て、頻りに惡口を叩きたてる。惡口もまあよいとして、胥虛のお講釋などは、チト差控へたがよからう。

●新刊書　教育に關する新刊書は、なか〳〵多い。しかし、主として師範學校などの教科書にしやうといふので編述したものであるだけに、格別評する程のものもない。

●『教育學術界』は、今度大瀨甚太郎氏が指導せる、教育學術研究會の機關となつて、面目を一新して出た。

社會零評

斬　虹

●休止時代

多く世事に染まぬ者は徒らにわせりて遂に有爲の才を四面笑殺の裡に葬り了して、一敗又立つべからず、多く世事に老け大に働かざるべからざるの人々は、自ら危んで猥りに手を下さず、内閣は動揺して外交政策は振はず、商業は萎微して經濟界混亂を極む、我も人も危惧の裡に日一日を過して兀立千尺の岩頭に危座するの感あり、何事も進歩の跡絶へて、こゝ暫時白眼合ひの狀態を呈せり、大風雨の至らんとするまづ風死し氣靜まるの謂か、吾れは遠からずして大變動の來るべきを豫言すると共に、今の狀態を以て休止時代と名けんと欲す、然れども休止終て抑も如何になりゆくべきか、これ今日の大疑問なり、

●頓馬國民

一寸うまい工合ひにゆけば喉を鳴らして喜べども、少し蹉けばぐんなりとして志氣忽ち消沈、よきもあしきも氣は一時にはやれども、十年と不變のこととなし、武士は食はねど高楊子、虎は死しても穏を摘まずなど、えせいばりはすれども、いつも人の踏臺となつて、旨い汁はよそから吸はれても、御本尊一向平氣にておもちやさへ持たしておけば、喜んで騒いで居るなり、これをしも頓馬國民と云はずして何をか頓馬と云ふを得ん、

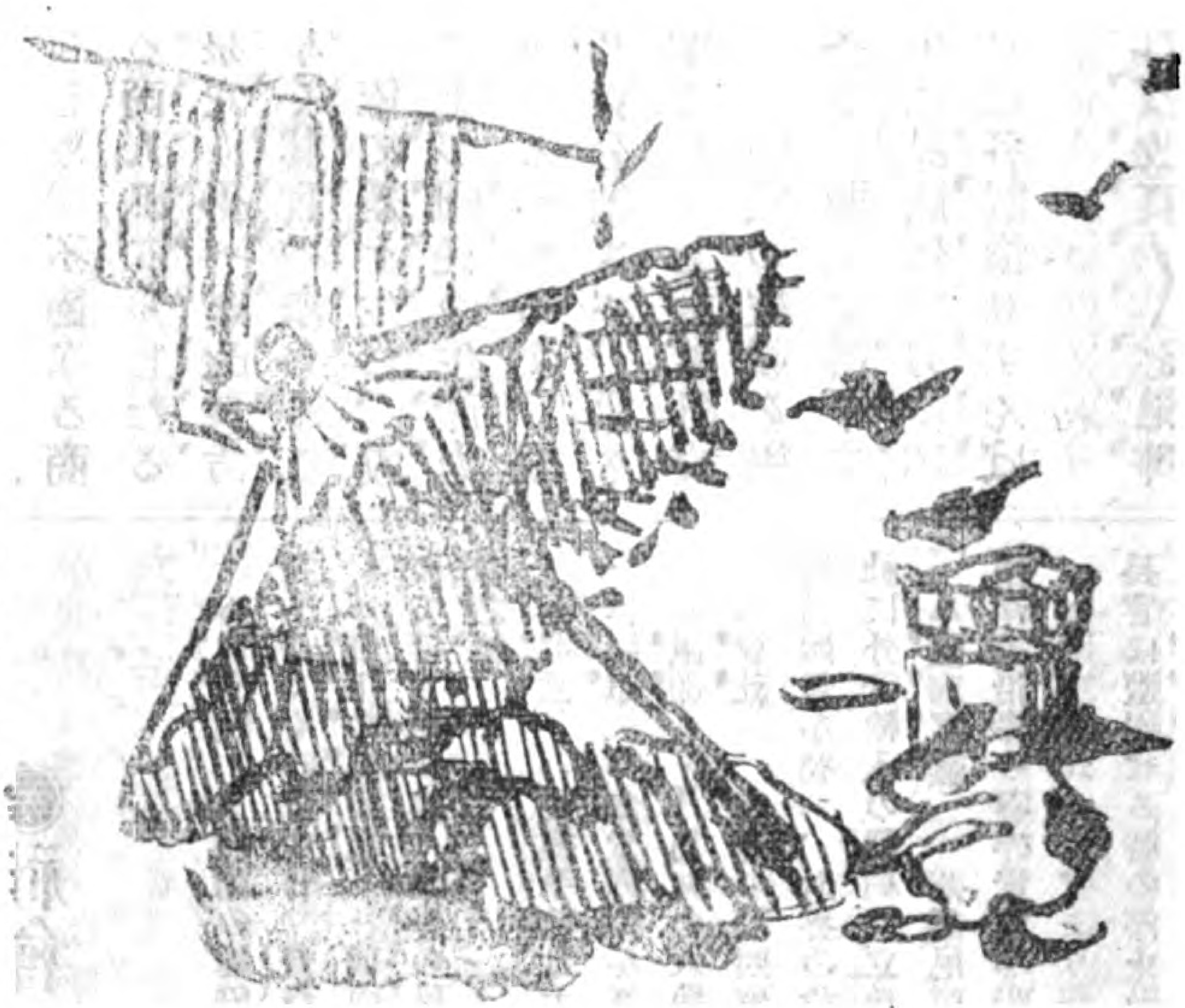
人道の爲めと云ひ、社會公義の爲めと云ふ、尙且つ我等はかくの如き腰の弱き擁護者を望まず、されど我はかく云ひて、これを廟堂の大臣に責めんとするに非ず、寧ろ國民の太平樂を攪破せんと欲するなり、遊びずきの國民、小供のくせに大人振りたがる國民、不經濟なる國民、これ等は皆我國のまさに甘受すべき名稱にして、皆これ頓馬より來れるによるにあらずんばあらずもう少し怜悧にと云ッて振れと云ふには非ず、人と喧嘩せず相手にせず默てうつむいて、せつせと働くことなり、かくの如くして十年脇目もふらずに四千万協心同力して働かんか、少しく以て大日本國として頭を擧ぐるに足るべきか、

●隔離せる二面の習癖

日本の交際社會に於て、隔離したる兩面に於て、奇妙

なる習癖を有せり、一は露骨に過ぎたる無作法なる習癖、一は秘密に過ぎて人の感情を害するの習癖なり、これ頗る隔離せる事實なるにもかゝはらず、日本の國民は此二癖を併せ有せりと云ふは、頗る珍奇なる現象にあらずや、

これを詳言すれば、第一は修飾の足らざることなり、人の悪感情を惹くべき言語動作をも、敢てこれを蔽ひて、なるたけ公衆に悪感情を抱かしめざる様にとは勤めずして、おのがまゝに振舞ふことこれなり、宴會に酔を發して婦女に戯れ、以て耻とせざると、道路を行くに臀部足肢を表はしながら人の面前を來往して耻とせざること、公衆の面前にても遊廓に遊びしことなどを遠慮もなく喋り、甚しきはこれを以て自ら誇ること、尚數ふれば甚多しと雖とも、要するにかくの如く、耻ずべく謹むべきの事を、遠慮もなく人の面前に振舞ふの國民は、他に於て秘すべからず隠すべからざるの事を隠蔽して、相互の交際を破毀しつゝあるは、實に奇なる現象と云はざるべからず、



例すれば己れ其人の奸悪狡猾到底紳士と伍すべからざる、破徳漢なるを知りながら、敢てこれを社會公衆の面前に曝露して、奸悪をして再び犯すの餘地なからしむるに至るが如きことをなし得ざること、親友の間にありながら、自己の缺點を擧げ他の忠告を寛容して、改めんとはせず、人の偶々云ふあらんとするにも、自ら蔽ひ隠して其非を益々募らさんとすること、これ亦數ふれば日も尚ほ足らざるも、畢竟冠履轉倒して而て自ら交際社會を蹂躙して、圓滑なる愉快なる社交の運用を思はず、吾人はこれ實に日本國民の奇なる習癖として其改善を勸告せずんばあらず、

●日本國民の生産力と各種の改良

懶惰なる習癖を改善して、勤勉ならしめ、不徳なる商人根性を除却して、文明的活潑なる商人風ならしむるが如き改善に依て、國利民福の源泉たり得べき改良方策は刻下の急務なると共に一日も早く其實の擧らんことを希望すと雖ども、財力の程度に依て差を生じ、或は富の源とならざるが如きの改良はまづ國民の生産力換言すれば其富の如何に付て一考せざるべからず、政府の威信地に落ちて、廟堂の大臣其責を盡さず、動もすれば至尊の宸襟を悩まし奉ると雖ども、しかも外交の政策常に澁滞に終り、大藏大臣自ら國家の破産を絶叫するが如き、實にこれ其責廟堂各臣の頭上に落下すべきや言を俟ずと雖ども、經濟上の紊亂國民富力の不増は又一に國民が其責を分つて、自己各謹愼せずんばあらざる所なり、

されば一部急激の論者は、動もすれば改良〳〵を絶叫して、悉く舊法を破毀し去らんとすと雖ども、富の力のこれをなすの重きに堪へずして、顛覆するをも尚ほ介意するなく、改良すべきや否や、吾人の所期は唯國民が不抜の精神を以て富力の増殖に一意專心ならんことを希望するものなり、

●社會一覽表

自四月廿四日至五月廿四日

△回向院　内閣の總倒れ、銀行會社の將碁倒し、面白からぬ事のみ打ちつゞく昨日今日、景氣能きは回向院の相撲計りに候

△都下の二問題　回向院の相撲と水道の疑、都下の新聞は此二事件にて持ち切り候、政界の風波も此一個月は相撲と疑に壓せられたるの觀有之候

△電話　交換手前月十日より夜も女子のみに成り候

△汽車　食堂列車を新橋神戸間は本月より直行に限り附屬致し候

△汽船　月島丸の大搜索に着手致し候

△會社　京都の關西貿易會社大破綻、大坂海陸保險會社解散、豐川鐵道悶着を初め、財界の危險いよ〳〵甚たく相成り候、東京電車鐵道會社は外資輸入の契約成立致し候

△臺灣富籤　菲馬尼刺の富籤に同樣の組織にて政府より發令し支那南洋等沿岸の零砕資本を吸收するとの事に候

△陸軍禮式　改まり舊より簡便のものと相成り候、則ち下士卒が上長官に遭過せる時の停止敬禮、捧銃等は廢せられ候

△御仁惠　皇后宮陛下には去月十四日植物園へ行啓の途上、盲啞學校生徒を御覽ぜられ翌生徒一同へ菓子を下賜せられ候、如何に彼等は感涙に咽びしやらんと察せられ申候

△女子會館　毛利公母堂の會長たる帝國女子教育會は、一の女子會

館を設け、倶樂部組織とし遊戯場、圖書館、寄宿舍等を設くることに決し候由、近頃喜ばしき報道に候

△麥酒　大坂、日本、札幌、丸三、東京、明治の各ビール會社は前月十五日より一箱に就き一圓づゝ共同直上げを致し候

△人事　栃木縣に新村文五郎なる高利貸の惡まれ者、行方不明と相成り、大評判に候、東京駒込太田子爵夫人家庭の不和にて家内の泉水に投死致し候

△社會民主黨　前月廿日創立と同時に禁止せられ候、我國にては國家社會主義は唱へ得べきも民主社會主義は到底成立すべからざるものと相信じ申候

△學生の墮落　萬朝紙上時々掲載、美少年との關係、貸本屋洗濯屋との關係、高利貸との關係、下宿屋素人下宿屋料理屋との關係等を細大暴露し來り候

△球突　の名手英國のロバーツなる人來朝致し候　以上

宗教小觀

芝　郊

各宗教の勢力有る方面

寺院、傳道師、信徒の多寡に依て結論すれば、眞言禪天台の如きは我邦有力の宗派に相違なしと雖も、實際信仰上の勢力を以て云へば寺院傳道師の比較的少き日蓮宗の如きもの却て眞言宗禪宗の上にあるを知るべし、此信仰的勢力より試みに我國民を上流中流下流の三階級に分ち觀察すれば大別左の如きを見る、

上流		中流		下流	
佛教	第一	佛教	第一	佛教	第一
神道	第二	基督教	第二	神道	第二
基督教	第三	神道	第三	基督教	第三

之を詳説すれば

上流　所謂貴族中に最も勢力有るは佛教にして、其中日蓮宗最も盛んなり、眞言、禪、眞宗、淨土、之に次ぐ、佛教に次ぐは神道にして別に何派と云へる堅實なるものに非るも習慣上敬神の徒猶多し、基督教に至ては最も微弱なり、蓋し我國貴族今日の思想は種々なる點に於て未だ基督教と合する能はざるに依る、然れども稀れに之を奉ずるものあり新教に屬す

中流　此階級は基督教新教の最も力を致せるところ、數年を出でず殆んど佛教と伯仲の勢力たらん、此階級の佛教は上流と異にして眞宗最も勢力有り、禪、淨土、眞言、日蓮之に次ぐ、基督教は遙に神道の上に有りて特に新教多し、神道の此階級に最も微弱なるは此階級が教育あるものゝ常識に富めるものゝ集りにて神道所説の荒唐なる寧ろ滑稽に近きが爲ならん

下流　國民の大多數を占むる此階級は宗教の勢力上流と同じく佛、神、基の順序なり、然れども宗派よりすれば佛教にては眞宗、日蓮宗、淨土宗、眞言宗、

禪宗の順序にて、特に眞宗は宗教的實力より見て其大部を占むと云ふも可なり、神道は天理、蓮門最も勢力あり、基督教は羅馬教、希臘教盛んにして救世軍、新教各派之に次ぐ、以上一見すれば亂暴なる斷案に似たれども大躰に於て正鵠に近きものたるは保證し得べし

注意すべき三種の傳道

今後の日本を動かし支配せんとするに宗教家として最も注意すべきは中流傳道、學生傳道、婦人傳道の三種なり、神道の如きは如何程盛んになればとて到底今後の宗教界に伍し得らるべき資格あるものにあらず、今後の日本は矢張り佛教と基督教に依て宗教界を占領せん、而して今後を支配すべき勢力扶殖の第一要件たる此三種傳道は今日正しく基督教新教徒の獨占たるが如き觀有り、實業界と云はず政治界と云はず、其中心となりて働ける所謂中等民族の少壯者に向て佛教家の傳道は全く忘れられたるが如し、忘れたるに非るべきも佛教界には此社會を指導し教化するに足る傳道師無し、學生一般に對しては新教徒が或は著書、或は雜誌、或は講演、或は其學校附きの外國人を置く等、十分の力を致せるに反し、佛教徒は一の會堂すら有せざるを以ても彼れの熱是れの冷を知るべし、婦人教育は更に基督教の專賣、私立女學校にて基督教ならざるもの殆んど無し、今後二十年の宗教界日本の社會は確に其中堅たり首腦たる部分を基督教徒に於て占められ得んか

お祭り騷ぎの種切れ

宗教法案の騷ぎ一幕畢りて、佛骨奉迎の幕有り、次で紀念大法要の幕今やふやく畢る、流石に明治宗教舞臺の大立物石川舜台氏なり、一齣毎に其脚色を新たにして看者を倦まざらしむ、而して今や其幕間ひにあり、次に開かるべき幕は如何に花々しき者なるか、とゞ大結切腹の場までは猶幾幕を殘すか、早く看者の知らんと欲するところなり

●毎月通信

自四月二十四日至五月廿四日

▲伯林の釋尊降誕會

四月八日在伯林の本邦有志者文學士姉崎正治、文學士近角常觀、文學士藤代禎輔、文學士芳賀矢一、池山榮吉、東洋語學校教授巖谷季雄、海軍主計少監猪田重一、法學士倉知鐵吉文學博士松本文三郎、農學士松村松年、法學士美濃部達吉、醫學士宮本叔、森孝三、陸軍大佐長岡外史、文學士薗田宗惠、玉井喜作、伯爵津輕英麿、文學士吉田靜致等の人々に依て催ふされたる旨報知有之候、彼地

學者紳士の來り會するもの多く、長岡外史、姉崎正治、鷹谷蓮山人諸君の演說あり、中々の盛會に有之し由に候

▲世界各所の降誕會　伯林のみならず、全國ライプチッヒにても本邦學生の手に依て之を催し有之、北米の桑港、サクラメント、フレスノ、布哇、及び馬來南端の新嘉坡に於ても各々本邦人に依て開會せられ候、特に桑港のは第一の盛會にて「三寶の光輝（ライトオブダルマ）」なる英文佛教雜誌も此日を以て創刊せられ、一百の白人信徒、五百の本邦青年會員熱心に世界の大恩教主を讃美致候

▲シカゴとサクラメント　北米シカゴにて印度大菩提會の支部を開き、サンガミッタ孃開教に着手致し候、同じくカリホルニヤ州の首府サクラメントには本派本願寺の寺院を新築するとの事に御坐候

▲東京に於ける大學傳道　基督新教の人々は首府の中心なる京橋區に全力を傾注して傳道し、前月中旬より近年に無き盛況にて一週間二百四五十人づゝの新信者を得居り候、近來目覺ましき働きと被存候

▲東京に於ける東西本願寺　本派本願寺築地別院の新築落成し本月初めより慶讃式有之、同じく高輪佛教大學の開校式は本月中旬に擧行せらるべく候、大谷派本願寺は女學校を本郷森川町に、圖書館を巢鴨の全派大學に附屬して各新築するとの事に候

▲印度研究會　仙臺にて丹野濟氏主任となり、前年より題目の如き學會を設け、同地高等學校の外人等と共に印度の國情を研究し時々講演を開き居候

▲同志會の演說　濟徒同志會の人々は去月七日芝三田の惟一館は演說を公開し、境野哲、田中治六、杉村縱橫の諸氏新佛教の氣焰を吐き申候

▲支那傳道の再擧　團匪未だ平がざるに芝罘に避難し居りし外國宣教師十六名は再び山東省に入り候、彼等の熱心は實に壯んなるものに御坐候

文藝評論

弱者同情の聲

春湖

現代の物質的及び主義思想に對して、反抗の思想を懷くものあるは、さきに、かつて、これを陳べたり。しかるに、吾人は、このごろに及んで、この思想の一部社會に實現せられたるを見る。社會民主黨の起るが如き、岡山孤兒院の婦人演說會が、錦輝館に開かれしが如き、瀧の川白痴敎育者の慈善會が、歌舞伎座に催されしが如き、實にこれ也。さはれ、これらは、いまだ、以て純乎たる反抗思想の實現といふこと能はず、しかれども、反抗思想が、一部社會を刺激して、この果を結ぶに至らしめたるもの、別言すれば、經世家及び宗敎家が、この思想に衝動せられて、まづ、弱者の方面に向つて、その同情を濺くに至りしものといふを得る也。社會の前頭に立つて、時潮の嚮ふ所を描破するの詩人、何ぞ、この傾向を捕捉して、所謂先言者（セーイアー）たるの

任を盡さゞるや。

評家の評家難

このごろ、批評家を難ずる聲、所在に聞ゆ。而して、こゝに異とすべきは、これを難ずるものゝ、作家なるとゝもに、また、評家なることこれ也、ことに、評家に多きことこれ也。思ふに、作家にして、評家を難ずるは、その所因、決してなしといふこと能はず、しかれども、評家にして、評家を難ずるは、その動機、いづれにあるかを知るに惑はざるを得ず。けだし、今の文壇、批評の筆を執るもの、中には、嘲罵の外、ほとんど鑑識の能なきもの、すこぶる多し。しかれども、これらの徒以外、眞摯の態度を以て、潜心、文壇のために盡すもの、決してなきにあらざる也。評家が、認めて以て難ずる所の評家、如何なる人なるかを知らずとは雖も、吾人は、評家にして、もし、かくの如き評家が、自家以外、別に存するを知らば、何が故に、これに向つて、訓誨の勞を執らざるかを疑はざるを得ず。みだりに、抽象的の言辭をつらねて、いたづらに他を罵るは、己を高ふせんとして、かへつて、その資格なきを表はすものにあらずや。

評論文における雅俗の調和

桂月氏の評論における文致、まゝ俗語、俚諺をまじふるを以て、人、或は、これを貶して、卑しといふものあり。しかれど、吾人の見る所を以てすれば、こは、言語をとりて、文語との調和を、理の文の上に試みんとするもの、すなはち評論的文致における所謂雅俗の折衷也。桂月氏の文、時に、或は、俗語をまじふること、はなはだしきに過ぎて、文品をして卑しからしむることなきにあらず、しかも、これ、試驗時代に於て、また生ずる所の欠點、この欠點を捉へて、氏を貶せんとするは、苗にして、すでに刈らんとするもの、すなはち氏をして功を半途に沒せしむる也。もし、それ、幾歳月の後、評論的文致における雅俗の調和、この文秀才によりて成功せらるゝに至らば、彼等は、これに對して、如何せんとするか。況んや、今の時は、明治の新文躰を創成すべき運に際して、各種の文躰、接踵して出づるの時、氏の如き文躰あるは、もとよりその所、言文一致論者の如き、言文一致の折衷躰に負ふ所多きを知らば、氏の文は、宜しく採つて參稽に資すべ

きにあらずや、しかるに、これを覺らず、氏が現時の不成功を見て、延いて、當來の成功を碍けんとするは、學に忠なるものゝなさざる所にあらずや。氏の文をいふもの、すべからく、心を寛ふして、その試驗を成せしめざるべからず。

◉青葉若葉

◎この前の『新小説』に出た宙外氏の時文は、五月の評論壇、否、近來の文壇に傑出した評論である。未完とあるから、いづれ續稿が出るのであらうが、僕は、これを以て、文壇の諸君は勿論、文壇以外の人にも、一讀を强いたいと思ふ。

◎同じ號に載つて居る風葉氏の『さめたる女』是もやはり未完であるから、いまだ、評を加ふることは出來ないが、西歐文學についていつてある中には、いかゞはしいと思ふ使ひやうがある。どふか、續篇には、かういふ誤かないやうに注意して貰ひたい。

◎國木田獨歩氏の『皈去來』、これもやはり仝號の『新小説』に出て居るが、餘程詩趣に富んだ作である。故郷へ歸つて慰藉を得んとした主人とが、皈つて見ると、之れを得られたいばかりでなく、かへつて苦痛を得たといふ結構、新らしくはあるが、私は、それよりむしろ詩趣の方をとらうと思ふ。

◎或人が、これを評して、二葉亭の「あいびき」を讀むやうだといつたが、成程さういふ感がある。

◎それから結末の「戰鬪！　さうだ、戰鬪には人の運命だ、たゞ夫れ戰鬪それ自身が人の運命だ」といふ句、全篇に深い關係はないが、主人公の性格を現はして、すこぶる佳いと思ふ。

◎鏡花氏の『通夜物語』、氏の作としてはむしろ不成功といふべきものであらう。これについての評は、抱月氏が、月曜文學ですでに說き盡くされたから、私が蛇足を加ふるにも及ばぬが、いさゝか思ひついた所をいふと、氏の作は、すべて部分の美には富んで居るが、全部の美には甚だ欠けて居る。この作なども、局部には、さすがに氏のゼニアスが見えて感ずべき所があるが、全躰になると、ほとんどばら〱で、破裂の原因などは甚だ薄弱である。私は、氏が、も少し統一といふ方に、注意せらるゝやうに願ひたい。

◎水蔭氏の『江の島道』、序文を見ると「平和の郷の大波瀾と、小天地間の滿足とを捕へて描寫して見やうといふのが、作者想構の主眼であつたといつて、「明治廿九年四月より同三十一年二月まで片瀨の漁村に生活したる怒濤庵水蔭」としてある。この目的から見て、この作は、果して、成功したるものであるか、どふか。

◎主人公政吉とお喜代との中で、政吉の方がよく描かれてある、心には思ひながら外へ出して云へぬ、內氣な田舍氣質や、隱居とお喜代の擧動に疑を挿んで、我と我身を墮落する徑行などは、老練な、いかにも首肯される筆致である。ところが、お喜代になると、決して拙いとはいへぬが、その性格が朦げたるを免れない。性格の發揮といふ點よりいふと、お林がもつともよく出來て居る。

◎松露堀の場と、祭禮の場とは脚色が重複して居るやうに思はれる、氏は笛の音を聞かせるために後の場を出したのであらうが、この外に、趣向はなかつたであらうか。

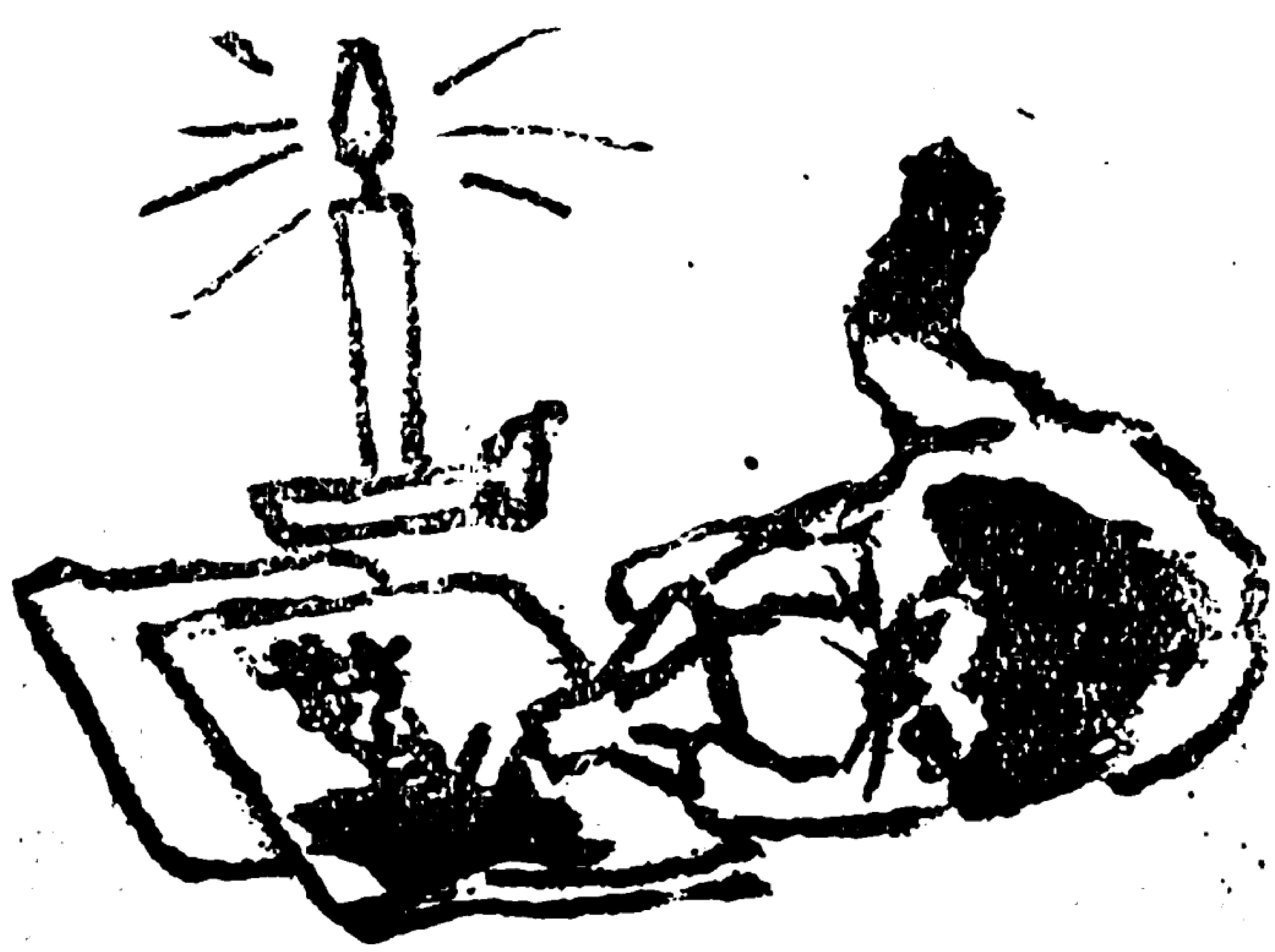
◎それから、氏は大團圓を平和ならしめんがために、人間以上の威力ー

少なくとも、この作にある人物以上の威力をもつた畫手段の婆といふものを採り來つて居る。この婆を出されば、大團圓が目出たくならぬさあれば、氏が所謂「平和の郷」の住人らしくこれを描く必要はなかつたであらうか。これが善い方に威力を振つたからいゝやうなものゝ、もし、惡い方に振つたとすると、或は草雙紙にあるやうな惡婆になりはすまいかと疑はれる。

◎所謂「江の島道」一帶の描寫は、久しく片瀬に寓居された丈けに、なか〱詳かである。しかし惜いかな、それは、名所圖會的記述で、何處に道祖神があるといふに止つて、何處に河があり、風景の描寫に伴ふ詩趣といふものは、甚だ少ない。「平和の郷の大波瀾と小天地間の滿足と」に、ある度までは「報告」されてある。けれども、「村落生活」の「情味」は、この面を缺いたがために、「作者の野心」を果さなかつたではあるまいか。

◎『文庫』の江東といふ人の評に、かういふことがいつてある。「僕が或人に向つて、水蔭に小說家のなり損ねだといつたら、其人が答へて曰くさいや小說家ではない、詩人のなり損ねだと」。言、やゝ嘲笑の意を含んでは居るが、現在の水蔭氏は恐らくばこの評を甘受せねばならぬであらう。私は、詩人派といふ江水社の旗幟に對しても、水蔭氏は、大に奮勵を要すると思ふ。

◎あらゆる惡語を放つて、鐵幹氏を傷けた『文壇照魔鏡』の執筆者は、誰であるか、今に至るまで不明である。あれが、もし、事實だとすると、鐵幹氏は、法に處せられねばならぬ。と、さもに、『照魔鏡』執筆者もまた、刑を受けなければならぬ。さころが、さうならぬばかりでなく、『照魔鏡』は相變らず發賣されて、ある雜誌の如きは、その中の幾節かを抄出して居る。人權が延長したといはるゝ今の世に、何と、奇怪なことではないか。



◎言文一致會の諸氏、言文一致の雜誌『新文』が全會の會員を無斷で贊成員にしたといふので、その理由を質し、正誤文を掲載させやうとして居る『新文』が、無斷で贊成員にしたのは、無論惡いには相違ないが、それだからといつて、謝罪を强ゆるに至つては、大人氣ないと評せざるを得ない言文一致會と『新文』とは、言文一致に關する唯一の會合と雜誌であるのに、こんな詰らないことで、相鬩き合ふといふのは、まことに情けないではないか。お互に讓り合つて、言文一致のために盡すやうにしては如何であらう。

◎言文一致會では、また市内の巡査派出所の前に掲示してある左側通行の掲示文を言文一致に直へるやうに、警視廳へ注意するとのことであるこんなことは、言文一致の弘布上、益がないではなからうが、今の言文一致が、政府の通用文となし得まるでに發達して居るかは、すこぶる疑はしい。私は、こんな運動的形式的の事業に力むるより、むしろ、言文一致の得失を研究する方が勝つて居ると思ふ。三百の會員中、私と意見を同うする方はないかしら……。

◎久しく湘南の客舍に療養中であつた、高山林二郎氏は、病は癒えたが健康が舊に復しないので、海外遊學を見合せ、帝國大學の日本美術史を教授せられることになつた。
◎それから『太陽』の文藝時評も、桂月氏にかはつて、執筆せらるゝことになつて、桂月氏は『太平洋』に時文を草せらるゝさうである。
◎日本美術協會では、來年開かるゝ日本赤十字社美術大會の準備だといふので、大展覽會を開いて居る。種目は、いろ／＼さあるが、格別目をひく程のものは見當らないやうである。
◎『美術時報』、『たのしみ』、『演劇朝報』などが、當地から出るさうで、大坂の金尾文淵堂から、『番草』といふ美術新聞が發刊されるさ。

政界日記

松翁

四月廿三日　帝都の醜辱世人の憤慨しつゝありし收賄九醜漢の公判終結し各々有罪の判決惰落政治家の戒飾
仝　廿四日　無邊侠禪の野狐禪日本財政の内部を暴露し外國の疑惧を招くに至る此日韓國侍疑問頭起り來る
仝　廿五日　内閣會議に於て大藏大臣對五大臣の議論紛々牡丹侯如何とも爲すと能はず内閣破裂の兆を顯す
仝　廿六日　韓國借欵問題は我邦朝野を震駭せしむ滿州問題落着に安心したる連中は血眼と爲つて騒ぎ出す
仝　廿七日　政友會院外有志大會なるものを開く内閣ゴタ／＼事件に關し我利々々決議を爲して總務に迫る
仝　廿八日　事業繰延は一變して事業中止と爲る朝野始めて我邦財政上の危機を知り無邊を攻撃する者多々
仝　廿九日　繰りなす青山の御所に瑞氣立昇り紫雲天上にたなびき此日　皇長孫御降誕遊ばさる天下の慶事
仝　三十日　衆議院の初陣大石入道東海散士等を組伏せたる加藤外相此日内外紳士を招き大園遊會を催ふす
五月一日　政友會總務委員有志大會の決議に基き伊藤總裁を訪ひ談合一時間餘にして歸る院外有志鼻息荒し
仝　二日　駐韓露公使パウロフ恐水病に罹り海を渡りて我邦に來れり此日伊藤首相を官邸に訪ひ會談一時間
仝　三日　内閣會議を開き首相突如辭表を提出したるとを告ぐ各大臣等一同直に辭表を捧ぐ無邊一人頑張る
仝　四日　西園寺侯臨時内閣總理大臣代理に任ぜらる無邊大臣心機不動屹として山の如し朝野其强情を笑ふ
仝　五日　西園寺首相代理無邊を訪ひ諭すに辭すべきを以てす侠禪如何ともせん方なく謹んで辭表を奉れり
仝　六日　横井官房長任官以來二週日小倉官房任官以來二十日内閣瓦解に遇ひキヨロ／＼身の不運を歎息す
仝　七日　政友會總務等黨員鎮定の爲め通知を發す云ふ内閣員財政問題に衝突せり我黨此際愼重なれと怒り
仝　八日　古谷秘書原田秘書任官をアテ込み戀女房と

結婚せんとする際内閣辭職に遇ひ七轉八倒血涙を流す

仝　九日　北京使臣會議今や財源調査を審議せり償金問題に關し小村公使より詳細なる報告來る前途遼遠也

仝　十日　韓國借款問題一頓挫を來せしやの觀あり報じて曰く是れ林公使の手腕に據ると果して然る乎可祝

仝　十一日　内閣善後策に關し山、松、西、井、の四元老會を西郷邸に開く何等の要領を得ずして散會す政界益々暗

仝　十二日　此日西園寺侯首相代理を解かれ更に臨時内閣總理大臣に任ぜらる伊侯首相の印綬を解かれたり

仝　十三日　牡丹侯奥の手を出して逃げ出し園侯大に奔走す元老連中一人の身を挺して難局に當る者なき乎

仝　十四日　政友會代議士有志者聯合大會を開き山縣系内閣、成立に反對すべき事を決議す星亭のサシ金なり

仝　十五日　蓮ヶ池に頑張りたる無邊大臣愈々辭任を發され園侯大藏大臣を兼ぬ園侯病氣三ッ官職も亦三ッ

仝　十六日　回向院の大相撲開始し近衞板垣曾根蜂須賀等の連中政界を飛出して土俵に狂喜す元老相撲不入



仝　十七日　此日元老會を開き井伯大に骨折る處あり西郷内閣成立の風說あるに至る松平内務佐々文部かな

仝　十八日　憲政本黨冷々として機運を待つもの丶如し隈伯火災以來氣焔揚らず時々空砲を放つて人を驚す

仝　十九日　政界ゴタ／＼サッパリ前途の見込立たざるに似たり此日元老會を開き其結果首相の參内となる

仝　廿日　收賄事件の結果議員の資格消滅したる九醜漢の補欠選擧を執行す神田牛込の二區競爭尤も激烈也

仝　廿一日　井伯山侯松伯參内内閣成立に關する御諮詢に奉答する處あり井上内閣成立するならんと噂す

仝　廿二日　伊侯山侯と伴ひ歸京して元老會に臨めり伊は山を推し山は伊を推し井を崇め互に言弄會を開く

仝　廿三日　井上内閣成立せんとし而も澁澤榮一の藏相辭退の爲め一頓挫を來せり權兵衛高明亦逃げんとす

仝　廿四日　伊侯尻に帆揚げて大磯に逃げ政界再び暗黑となる立憲政躰の適否を議し憲政有終を危むに至る

仝　廿五日　井上内閣行き惱み世上桂内閣成立の風評あるに至る大頭敏活の桂子出でるにはマダ／＼早いぞ

前月の出版界

●●●●新刊紹介　（到着順）

◉實業家人物評論

麹町有樂町三　實業の日本社發行

當代の實業家所謂紳商達三十餘名を評論し、兼ねて其經歴性質逸事等を點綴す、其奇矯なるもの温厚なるもの、忠實なるもの機敏なるもの、陋劣平沼專藏の如きもの正確池田謙三の如きもの、面貌風采一々紙面に躍る、青年の讀者に取ては一種の好立志篇なるべし、（定價五十錢）

◉人民讀本

竹越與三郎氏著　京橋彌左衛門町　開拓社發行

我國の教育界と政治界との間に一大溝渠を作りたるは、一種の弊害を救ふ爲めとして素より當然の事なるべし、然れども教師も生徒も國家とは如何なるもの、國民とは如何なるもの、政務とは如何なるものすら之を知らず、立憲國民として根本の知識に欠くるところ多きは今日の大なる欠點なり、况んや現今多數の頑陋たる教育家は立憲國民に有るまじき病的思想を扶殖しつゝあるをや、本書はこれらの欠點弊害を救ふに最も適當たる讀本なり、全篇二十七章、愛國心より說き起こして日本國民の理想に終る、旅路平易所說穩健、今邦のシテヴンリーダーとしては大に目的を遂し得たりと云ふべし、西園寺侯題して曰く「可使知之。不可使由之」（定價三十五錢）

◉佛教倫理概論

花田凌雲氏著　本郷四丁目　文明堂發賣

本書は佛教倫理を世人に紹介せし唯一の著述なり、著者は佛教に關し積研究をなせる人、舊佛教者の著述に多き擬遊、不明瞭、非論理的の弊無きは喜ぶべし、佛教倫理の根本思想を知らんとするものは是非一讀を要す、（四十錢）

◉巽軒論文二集

井上哲次郎氏著　富山房發兌

井上博士の巳に各雜誌に出したる近業數章を集めたるものにして、第一利己主義と功利主義を論ず、第二獨立自尊主義の道德を論ず、第三武士道を論し併せて瘠我慢說に及ぶ、第四認識と實在との關係、第五小品五篇等なり著者の議論文章自ら定評あり、吾人の喋々を要せず、前三章は主として故福澤翁の修身要領等に就て立論したるものにして氏が如何に三田主義と相容れざるかを見るべし、近來此種の册子紛々緞出僅かに文字ある黃口の書生すらシマラなき駁文を再刊して名を賣り併せて金を貪らんとす、吾人の嘔吐に堪へざる所なりと雖も本書の如きはサスがに巽軒氏の言論なり卓然として見るべし吾人の再讀を吝しまざる所以也。

（定價金五十五錢）

◉江の島道

江見水蔭作　春陽堂發行

江の島のほとり片瀨の里に起りしやさしき物語にして政吉、お喜代といふ青年少女の戀を中心とし、是に東京より來りし別莊の隱居、お饒舌のお林と臆病者の門太郎といふ夫婦、政吉が兩親なる貞右衞門、お民等をからませたる罪なく讀んで肩の凝らぬ小說なり此書の評的價値は文藝欄にて評したれば就て見るべし、（定價三十五錢）

◉通夜物語

泉鏡花作　春陽堂發行

嘗て大阪毎日新聞へ掲載せしものゝ更に訂正して出でしなり、丁山といふ娼妓が情人玉川清と共に清の戚族久世友房の邸へ赴きて強請せんとし友房の婿陸軍大佐徐出六平太のために謀られて却つて敗を取り丁山は六平太を刺して自ら亦斃し清は其血液を以て丁山の像を紙襖へ畫くといふの筋、永洗の口繪甚だ艶なり、(定價三十五錢)

◎布教學　滋野井秀雄氏著　文明堂發行

本書は眞宗大谷派の布教師にして多年軍隊に其職を奉せる滋野井秀雄氏が實地宗導の餘暇、其經驗に基き布教に關する利害得失を講究したる者と云ひ兎に角我國に於て布教學を一の科學たらしめんとするものにして三十字詰十三行百六十餘頁の長叙事、布教者に取りては坐右の龜鑑たるへし、(定價三十錢)

◎人道之偉人　東京評論社編纂　中庸堂書店發行

世上英雄と呼ばれ、豪傑と稱せらるゝ者古今其人に乏しからず、然れども人道問題者は社會救濟運動の爲に一身を犧牲に供する者は稀なり、本書はウヰリヤムロイド、ガリソン、ブーカー、ワシントン等近今歐米人道の偉人八氏の詳傳を述べたる者「夫れ偉人の傳記に勝りて人に崇高偉大の感想と發憤とを與ふるものはあらじ」とは該社同人の共序に記する所にして能く其所期に違はず、(定價金參拾錢)

◎眞の人　本郷四丁目　文明堂發賣

曰く學生としての人、曰く教員としての人、曰く政治家として、曰く軍人として、曰く藝人曰く文學者、男としての人、女としての人、私人としての人、公人としての人、有ゆる階級有ゆる種類の人が、人として人らしく立つべき方針を指示したるもの、著者は楠龍造氏其他數人、全篇總傍假名付なり、(三十六錢)

◎福翁百餘話　京橋　時事新報社發行

福翁百話の餘話十九篇を集めて一冊となす、本篇と同じく福翁獨特の見地に立て親切に人生の行路を指導す、福澤宗の信者たるものは勿論、然らざるものも讀んで益するところ多かるへし、(十五錢)

◎丁丑公論及瘠我慢の説　仝社發行

前者は明治十年西南戰爭に就て西郷の心事を述べたるもの、後者は勝安房榎本武揚二氏維新當時の進退に就て評論したるもの、共に福翁の舊稿、今回合して一卷となりて出づ、(十八錢)

◎小學校新教則各科教授要義　和田喜八郎氏著　秋田縣増田町　東海林書店發行

教授學上の理法に依り新舊兩則を比較し、意見を述べたるものなり、新教則を適用し教育の効果を實際に收めんとする人は讀んで參考たるべき良書なり、(三十錢)

◎新舊對照小學校諸法令便覽　比佐祐次郎氏編　仝上書店發行

標題の如く全國小學教員には重寶なる良書なり、(三十錢)

◎青年學生獨立自活法

神　田　内外出版協會發行

本書は大内德亮なる人の著にして學資の餘裕もなく先進知己の援護もなき青年學生の爲に獨立自活の方法を授けんとするものにて一般の訓誡並に職業の指示共從來刊行せる此種の著書に比し頗る懇なれば不遇の境に在る學生の必讀すべきものなり、（定價拾五錢）

◉信仰と智識　加藤玄智氏著　勉強堂書店發行

本書は獨逸ストラスブルヒ大學總長チーヒラー氏の所説を文學士加藤玄智氏が曾て抄譯して本紙に掲載したるものに今回更に多少の増訂を爲し一書に輯めしなり、科學哲學と實際的生活的哲學と宗教信仰と智識との關係等の二十節に分ち信仰と智識即宗教と科學との異同と合離とを詳細に論明したるものなり、（定價拾錢）

雜評

牛門片信

赤城浪客

○伊藤内閣も全く死に切れずゴタ〳〵最中に御座候、小生は伊藤贔負の一人に有之候得共此度にて殆んどヂェロになるまで信仰を醒まし申候、伊藤にして爾り元老はその役に立たぬことと大概相知れ申候、

○此度の元老會議は何といふザマに有之候や、山縣も駄目、井上も駄目、松方も駄目、西郷なほ駄目也、今迄にて有之候ばイヤと申候はホンの表面のみにて内實乃公起たばなどの自惚風も相見候へども今日と成候てはドレもコレもホントゥにイヤと申候より寧ろ出來ぬと安心を極めたらしく彼等も自己を見るの明ありとてめ申す可きか蓋し已むを得ざるに出でたると信候、

○加藤高明といふ人は公使としては隨分評判の善き方なれども左程にエラキ人とも存せず、一躍して外相と成候は伊藤が岩崎の機嫌を取る爲めなどの邪推も相廻はし候へども實際は中々の手腕家にて今日に於ては尤も適役との事に御座候、人は使ふて見ねら分り不申、まして昔の生へたる瑟碌ばかりが人物にも無之陸奥か死んでから外交は頼み少しなど申候は迷信家の云ふことにて取るに足らざる事に御座候、況んや大隈ヤ青木のマヅサ加減を見候ても大概老人は老人らしく引込ませ候か當人の爲にも國家の爲めにも利益と相考候、

○後藤新平が大藏大臣に擬せられたとて大笑を發したる人が有之候へども決して笑ふ可きことゝも存不申候例の若は生へ居候はざれども手腕は確かに可有之よし無之候ても渡邊などよりは遙かにマシと存候、

○近頃器量を下け候ものは渡邊無邊に御座候心機一轉が抑もの病み付きにてトゥトゥ伊藤内閣を殺し申候、野狐禪のふりぞこなひ綠なことは仕出來かし不申候、「世に繫累なく家に青山ある」ものは兎かく出ぬが勝ちに候、

○渡邊なども駄法螺は中々ウマイが法螺のウマキものは大抵實際の手腕は左程にも無之のみならず寧ろ大にマヅキものに有之候、大隈か善き例に御座候、故海舟翁、同しく福澤翁なども實際の手腕は如何にや、それをチヤンと知り居り法螺專門で通したる處福澤翁などのエラキ所と存候、

○末松内相は寛厚の君子との評に有之候へども新刊物の發賣などを無闇に禁止するは人は見掛に依らぬものと申候もの有之候、

○滊車や鐵道馬車にて婦人や老人に席を讓候こと大分ハヤリ掛り申候、些細なことながら結構に存候ソレをハイカラ主義などゝ申して早や冷笑の筆を弄し候記者も有之候、氣の弱きものなとはハイカラと云はるゝが耻かしく切角讓ふと思立候ても見合せ候樣に相成候との事に候、ハイカラにてもなにゝても善き事はドシ／＼ハヤラシ度ものに御座候、

○ハイカラ主義とは淺薄なる西洋主義を嘲りたる稱なる者らしく候、生噛りの西洋主義は與平御免蒙候へども保守主義の奴らは色々の惡名を附して進步の潮流を妨けんと致候間用心す可き事に存候、

○又々文學博士か五六人出來申候、博士も餘り澤山に相成候ては後光の力も薄らき申候、矧んや十把一からげの推撰やゝ、滑稽に覺申候、三宅雪嶺氏なども餘り名譽の事とも考へられぬやに聞及候程にて、別して西村茂樹先生などは學德壽齒共に高くトクに博士の列に入り居られ候筈なるに今頃迄捨て置き候は如何にも手落と存候上に孫にも當らざる人々と共に引出され候こそ氣毒の至に存候、

○此頃惜しき事を致候は遠城謙道と申す老僧の死したる事に御座候、右は元彥根藩の輕卒に有之、掃部頭櫻田門外に横死を遂けられし其日より發心して井伊家の寺なる世田ヶ谷豪德寺にて薙髮し、舊主の墓を掃ふこと茲に四十年、今の世に珍らしき人物に有之候處遂に七十九歲を一期として長逝せられ候、小生も今より十年程已前今は布哇に居られ候友人今村君と共に右豪德寺に遊び、師を訪問致候事有之候、恰も其頃師は寺の後に當りたる竹樹叢生したるの底に一小菴を構へて住

まはれ落葉かき集め澁茶を煮、麥飯又は水漬けの餅など焼き、イト懇ろにもてなし呉れ、漫書なども二三枚貰ふて歸候、茲にをかしきは其水餅が太だ腐り居り、迚も食ふに堪へず、さりとて親切を無にするも本意なければ老僧の餘處に向きたる暇に其餅を袖の下に隠したるに小生等を餅好きと誤解したるか更に多くの餅を焼き始められたるにはチョットまごつきたる事に御座候、コンナことも今は一夢、其人はモハヤ泉下の人と相成候事如何にも悼ましき儀に存候、

○文學者にて正岡子規氏の如き感心なる人また有之間敷候瀕死の大病に呻吟しながら未だ一日も筆硯を廢せざるが如き强壯のもの慰に慙死す可き處と存候「日本」の墨汁一滴眞の一滴に候へども襟を正ふして讀む可きものに存候、

○高楠博士の話に天魔波旬の旬の字は句の字の間違にて原語PAPIA波句なりとの事耳新しく覺申候、コンナ間違は各經文の中にも隨分有之候ことに心細く相成申候、席上島地默雷師が波旬が波句では困る、オレには已に十一頁の韻て波旬字を韻脚として大切の詩が出來てゐるのにと云はれ大笑致候、

○浪客此頃都合により假に赤城山下の一親戚の樓上に身を寄せ居り、人群雜沓車馬の聲、夜半の夢を驚かす處より、樹深く竹密なる地に至り、眞に隔生の感を致候、夜など八九時に至れば已に人聲を聞かず況んや車馬をやに候、時々蛙聲哈々として起るなど殊に妙に御座候、其中杜宇の聲も聞かれ候はんと相樂み居候、

○僻境もサスがに城中也、豆腐うり、豆うり、胡瓜朝顔の苗うり、花賣など參候、

○今朝花賣參り、芍藥、百合の花、夏菊、其他名を知らざる草花種々相見せ候、菊少々相求め申候、

五月念一

漢字難

一妖星

○或る漢學の大家に就て漢作文を習ふ一生、尺牘文の末尾に祀して愈再拜

○嚴めしき肩書を持てる紳士、讀んで云ふ、遞ぎる莫れ家郷遠征を憶ふ

○「讀者の奸評を博したる」「讀者の仁惡に訴ふ」これも活字を漢文で持つ餘弊であろう

○親玉殿下とは畏れ多し

○越前に町の字をヨーローと讀ませ、長野善光寺の坊

名に兄上部と書て、コニコンブと讀ませるところがある、前者は何の事か分らぬが後のは兄上部(コンカミブ)の轉訛であらう

○姓名の六ケ敷ものを算へ立つれば際限が無い、大學の某教授は已に全國より六ケ敷姓計り三千餘を集めたとの事である

○奥州衣川に言語道斷と云ふ姓の家がある言語道斷(テクラダ)と讀ませる

○更に甚しきは釋迦牟尼佛と云ふ姓である、これはニクルベと讀む、テクラダと云ひニクルベと云ふ何の事がサッパリ分らぬ

○ソコデこれらの姓を持てる人が知名の人物となり、地位を得たらばどうであろう、内閣總理大臣釋迦牟尼佛博文侯大藏大臣言語道斷國武子イヤ面白きことである

○女の名に東北又は中國地方に何江何野をつけるもの多く、伊勢には小の字を冠らせて小しん小高などの名が多ひ、竹野子松野子聞て變な心持ちがする、又男子の名にて江の字を附けるは山口縣に多ひ、浪江安江多く男子に見つかる名である、楠の字を附ける米楠熊楠などの名は和歌山縣に多ひ

○防州に福田(フクデン)と云ふ名の眞宗坊サン有り、維新當時新たに姓を附けることゝなり、自分は僧家に生れたればとて淨門(ジヨーモン)と云ふ姓を附けた、いつの間にか淨門福田の姓名は顛倒して福田淨門(フクデンジヨーモン)と人も云ひ自らも言ふ樣になつてしまつた

○穪貌(ミテ)や罣采(ヘナツ)の姓も皆僧侶の維新當時に附けたる愚姓である、罣采は人多くキントリと呼ぶ

○某家の家扶、恭やしく人の間に答へて曰く若樣は此頃英國のウシッツ(牛津)に御在學で、と

讀者の文壇

淨玻璃斷片(一)

軒馬劍客

▲ナニ今度は井上がいよ／＼内閣を組織する事になッたと、井上も老碌連の一人だから一度ぐらゐ總理の椅子に腰を懸けさせても好い、あいつ今迄逝げ廻ッて金ばかり溜め込んで居たが到頭引張り出されたか、

▲一躰老碌共は大概けちな根性を持ッて居るが、あのくらゐけちなやつも少ない、明治十年頃官吏中一番の

金持に井上だと云ふ評判であッたが、それから金を使ふといふ事はしないで溜る一方だから今では中々持ッて居るだらう、

▲僕が或る新聞社に居た時、井上が新聞記者を呼んで何か相談するといふので、僕も彼の邸へ出かけたが、饗食は麥飯に干物と澤庵だけで、彼の云ひ譯が好い、とうも貧乏な國に居ては贅澤が出來ない、おれの家は僕はじめ始終此位な御馳走で、來客にも別段搆はない、其代り果物は庭にあるから、諸君が好きなものを取ッて喰べ玉へと、如何にも儉德を粧ふて、同業者の中にも見ると聞くとは大した相違だと、ひどく感心したのものもあッたが、其實はけちな根性と記者の腹の底をエグる狡猾手段と合併したのであッた、

▲さも無ければなんぼ井上がけちだと云ッて、麥飯に干物で年中押通せるものでは無い、

▲澁澤といふ男も、武州血洗島の土百姓から飛び出して、男爵とまでなッたのだから、並々な人間では無い大藏の三等出仕を勤めて居る時、井上に取り入り、民間に下ッてから、御用大事と心懸けて、紳商の首領株となッた、其腕前は生馬の目を抜くと云ふべしだ、

▲澁澤と同鄕で尾高惇忠といふ男があッた、これは榮一などよりずッと器量の勝れた人物だが、惜しいかな正直一圖で、狡猾な事をしないから、地方の銀行重役ぐらゐで世を送ッてしまッた、

▲彼と同姓の喜作といふ男も、中々の傑物で、維新の際には佐幕家の領袖となり、榎本、大鳥などゝ五稜郭へ立て籠り、淸之助といふ舊名は、官軍に取ッて鬼神の如く恐れられたのが、今では算盤を握ッて蠣殼町に仲買をして居る、

▲此二人に比較すると榮一は何事も劣ッて居るが、運は天に在り牡丹餅は棚にあり、で榮耀榮華を一身に聚め噓にも大藏大臣に擬せらるるとは、何たる果報ぞ、

次號よりは益々斬馬劍を磨して手當次第撫切りにする覺悟なり

布哇の音樂

松椿生

●布哇の土人は音樂を好むの特性を有し、其未た野蠻曚昧なりし時代より既に不完全ながら琴、笛、皷等の樂器を有し、今も尚依然として流行しつゝあるところのフラ又はフラフラと稱する一種固有の跳舞に和して

弄奏せしよしなるが、紀元千八百二十年始めて米國宣教師渡布し、まづ貴族をして文字を學ばしめ、漸次庶民の間にも鋭意教育を施したる結果、教育及び宗教の何物たるとを了知し、歐米の文明人と結婚をすらなすに至りし今日の布哇土人は、不完全なる古代の樂器をば古物陳列所の一隅に名残を留めて、今は歐洲の管弦樂器を用うるに至りたり、就中四弦琴ギターの如きは男女老幼の最能く愛するの樂器とす、されば友の相會して飲食を共にし、或は婚禮に連なり葬儀に列するの際は、必ず音樂と唱歌とを以て興を添へ若くは哀悼の意を表するなり

●布哇の政府即ち今の米國布哇縣廳は、千八百七十二年の頃よりバーカーと云へる師導者を普魯士の軍樂隊より招聘し、四十餘人の土人を以て官立樂隊を組織しホノルル市中數個所の公園に樂堂を設けて歐洲管弦樂を奏せしむ、其の技倆が歐米各國の樂隊に比して劣るところなきは皆人の稱する所たり、布哇の土語は元來母韻に富み子韻少なく音調從つて瀏喨たるを以て唱歌には最も適するなり、故に政府の樂隊には土人中の最も音聲よきもの常に出席して獨唱をなす

●市人は其日〳〵の奏樂順序を各種の新聞紙によりて承知し、自由に樹蔭のベンチに据して傾聽するさま、眞に平素の鬱を散じて胸中一點の光明を認めつゝあるが如し、余は是等來集者の内には亞細亞人種特に日本人の少なきを認めて、日本人は最も音樂趣味に乏しきの國民と思惟せざるを得ざる也

●聞く米國の基督教徒は、布哇に其教を弘むるには土人の音樂好きなるに乘じ、音樂を利用して成効を遂げたるなりと、さればにや何れの教會へ往くも大オルガンの備へ附けなきはあらざるが、特に加特力教會の如きは青年會の一部を以て音樂隊を組織し、時々音樂會を開きて盛に人を迎へ巧に布教をなすを以て、其宗教的事業は非常なる發達をなし、就中普通教育、職工養成、孤兒養育の如き其特色とするところなりと云ふ

●セントラルユンオンチャーチは中流以上の男女が群集する寺院なるが、祈禱、説教の間には數名の男女が音樂壇に立ちて、美聲をオルガンに和して贊美歌を唱ひ、或は來集者の熱心に合唱するさま、眞に云ふ可らざる崇高の念に打たれしものと見るの外なし

●政府には既に官立樂隊あり、教會に亦音樂隊あり、白人及び土人は戸々に相當の樂器を据付けて朝に夕に是を弄しつゝあり、此他に私立樂隊亦數組あれば、是

等の需要に應ぜんためには樂器會社あり、樂器店ありてピアノ、マンドリン、バンヂョ、ギター、オルガン其他の管弦器、及び附屬品を並べ立て實に盛なるものなるが、勿論專門に是を鬻ぐものは五三に過ぎずと雖も、雜貨店にして側ら是を鬻ぐものは數多あり、特にギターの如きは數多の製造所さへあれば、余は一見して布哇の音樂の盛なるを思ふなり

●然るに數弗乃至數百弗の樂器を各自に購求するものなりやと云ふに、或者は無論是を購ふと雖も、暫し此地に滯在するに過ぎざるものは毎月何程かの損料にて借入ることを得、或は資力の是に堪えざるものは、また相當の便利法の設けらるゝあり、即一個百弗の樂器とすれば是を百十弗とし月賦にて是を支拂ふものなり

●音樂敎師亦處々に開業して各自門弟を集め、一時間一弗より二弗位までの時間謝にて敎授しつゝあり、日本に於て一ヶ月に三十錢か五十錢の月謝を高しとするものと大に其趣きを異にす、否彼此生活の程度一般を知るに足るなり

●小學校に於ける唱歌科に於ては、大抵樂器を用ゐずして敎師口づから是を敎授す、生徒亦巧みに合唱し毫も其音調の亂れざるを見ては、余は彼等が先天的に音樂思想を有し居るに感ぜざる能はざるなり

●音樂敎師或は何々博士と稱する人にして音樂の巧みなるもの等が、劇場に入りて平然雜方をなしつゝあるは甚だ奇異とせざるを得ず、余は是を某博士よりも實際に聞き、而して日々の新聞紙上に於て「昨夕の何々音樂會或は何々劇場に於ける某博士の技倆は中々に巧なりき」などの批評を見るは常のことなり

●歩兵の樂隊亦屡々公園のホールに來りて奏樂をなす多くは有名なる行進曲にして、群集者中には是を聞て手拍子をとり足踏みをなすものさへあり、是れ彼のナポレオンの所謂「理論に拘泥せる万卷の倫理書は一曲の愛國歌に及ばず」流の筆法ならんか

●思ふに、布哇の土人は音樂好きの故を以て基督敎を弘布せられ、音樂好きの故を以て其國まで奪はるゝに至りたる也、而して米國は其新領土布哇を奪ふにまづ音樂を以てし、是を慰撫するに音樂を以てし、而して是に愛國の觀念を起さしむるに亦音樂を以てしつゝあるが如し、嗚呼米人亦狡猾なる哉

應募短文　自轉車に就て

▲自轉車百態と題して日刊新聞などに自轉車乘りの痴態を揷畫とせば面白かろう、畫題の一ツ二ツを例に出さうなら、其一ハイカラ先生泥溝の中に鯱鉾立ちの圖、其二女學生おわい屋と衝突の圖、其三遠乘りに機械を壞はし人力車に積んで歸る圖などである。(美術生)

▲時は金なり（タイム、イズ、モニー）)とは實際社會の活劇場裏に立つもの丶外知り得まい、別けて本邦人等の不規則なる、不敏活なる、ノラクラものに迚も譯から う道理はない、見る目も汗する迄キハドイ電氣自動車や鐵道馬車（ホースカアー）の下を、クヾリつ丶猛進する自轉車（バイシクル）は、恐らく平民的唯一の交通機關として、吾人は他に其比を見ない、大口を開きて茫然と之を打眺むる灯提屋の看板然たる本邦人の面の皮へ唐辛の一升を振り掛けて遣りたい事が往々ある。(在ホノルヽ府天籟生)

▲自轉車流行してより之を採用せる官衙、商店其他個人にして戸外奔走に忙しき人が、時間と費用とを省きし利益はタイしたものなる可し、併し是も百圓近くの遊金を有せるもの丶み其恩惠に預ることなれば中以下の者はタマに時借りでもして其乘り工合を知る位に留まらんか、是れ畢竟外國品を輸入するより斯く高價なる可ければ、若し之を我國にて製造することゝせば、價も餘程廉くなりて容易く一般に擴がるに至らん。(H、K)

▲『新小說』の繪はがきに、海老茶式部が自轉車からころがり落ッたのを、腕白ざかりの小學生徒が、うしろから囃したてゝ居たのがあッた。女子の自轉車乘りに對する時代精神か代表して居るさ言ッてもよいやうだ。(迂隈生)

▲僕は飽くまで非自轉車派である。自ら乘り廻ることが不可能なるが故に、人の乘り廻るのが癪に觸るが故に、人力車に乘ッて全速力で飛ばせて居るのに平氣な顏して乘越すが故に、ヤケに華美な風をするので悴がお金を縮み出すが故に、大事な娘がお轉婆ものとなり了ッたが故に。(暴棄翁)

▲自轉車乘りは如何なる種類の人が最も快駛なるべきや、女子は無論男子に及ばざる可し、和服着用者及軍人や電信配達者等窮屈なる制服を着けたるものは到底自轉車專用の洋服を着し靴を穿ちたるものに及ばざる可し、四十歲の者よりも三十歲の者、三十歲の者よりも二十歲の者が一躰巧者に乘り廻すもの丶如くなるが、之を以て見れば、尙ほ彼の大競馬の騎手には十歲より十二三歲十四五歲迄の者が最も適當なる如く、自轉車の乘手も大概同樣の年輩が骨硬まらず能く自轉車をして快轉せしむるに最も適當なるが如し、少年妙手の自轉車にて疾驅する模樣は恰も燕の空中を飛翔するが如く觀る者をして心地よからしむ。(阿蘇山人)

▲米國には七日七夜乘り續けの競爭會あり、五百哩遠距離の競爭會あり、何事にも規摸の大なるは島國人の及ぶところにあらず、不忍の盆池を廻りて得々とし、千葉の如き近地に往ひて遠乘りと稱し揚々たる輩少しく鑑むるところあれ、汝等は運動を辭柄として道樂を盡す一種ニヤケ男の集合のみ。(西村生)

▲もし〳〵壘の蔭を捻りて人の前では言ひ度事も得言はず、其儕隆にて薩摩芋を頬張りて喉につまらせる樣な皆日本のお轉婆連を驅りて自轉車を稽古するまでに進步せれば、日本の今後はとても滿足な人間は生れぬ、脚は太く短くて曲りて居る、頸は躰の前方へ突き出て居る、脊骨は彎曲して居る、日本の婦人は悉く片輪者である、これ皆快活の運動に注意せぬ天罰の然らしむるところ、何と恐ろしいではないか、米國婦人は

概して躰格が丈夫で、特にカリホルニヤ州の女子は平均の身長男子より高いと云ふのも全く躰育の結果である、我國の女學校へ文部省から發令して自轉車、漕舟、乗馬、游泳、テニスなどを必須科とするが目下の急務と考へらるゝ。（芝白金生）

▲僕は去年の夏より初めて自轉車に乗り出して今では輪界チャンピオンの一人である、併し稽古の時代には隨分目覺ましき失敗もやつた、忘れもせぬ去年八月十五日の朝五時頃、マダやう〳〵四辻を出ること丈けを覺えた腕前で、足元覺束なく眞直な街道にくの字を畫きつゝ馳せ出した、駒込の宅から谷中へと志し、三崎町を上りて少く行く曲り角の交番で、ドーシタ機會が中心を取り損れて、交番の便所へ車諸共横捻けにウンと云ふ程ぶッつかッた、スルト程よりけたゝましき聲を發して戸を押し破る樣に飛び出たものがある、見れば交番の巡査で衣袴を脫ひだ儘前に手を當てゝ大地震でも起ッたと思ふて飛び出たのである、先方も僕の狀を見て叱ることも出來ず、僕も先方の躰裁に呆れて暫く謝罪の言葉も出なかつた、此時程氣の毒にも又可笑しかつた事は無ひ。（獨樂生）

▲一見嘔吐を催すが如き婦人の自轉車乗りは宜しく警視廳より嚴禁すべし。（〇△子）

▲碌でもない自轉車なンかといふものが流行ッて來てから、どの小僧も〳〵、滿足にお使をして歸つたことがなくなつた。時間を胡麻化す、お錢をくすれる、誠に沙汰の限りである。（白鼠）



▲十三四五位の女の子が、海老茶の袴がひら〳〵しく、髪も揃ひに結び下げ、暖き春の日を、自轉車並べて楽しげに語り行くを觀た。どうか此の活潑の氣風を、日本の女界に推擴め、卑屈を優美と心得て居るやうな考を根本からぶち壞したい。（高谿薫）

▲十里の長堤、萬朶の櫻雲、明眸の小女が三々五々海老茶袴の裾高く着こなし、黒のストッキング、紐つきの細靴、房々したる黒髪を微風に滚はせて、快輪一蹴匂へる霞をくゞり行く樣エデンに戯る天使の姿もかくやと思はる。（女子嗜輪會の屑持）

▲自轉車を以て道路檢査官が檢査の標準器具とし盛んに道路修繕を骨折るが外國の一般だ、郵便や軍隊又野外散歩自個の衛生運動に必要なりなど云ふは最早陳腐だよ、何とかして日本内地の道路改築に今些し注意して欲しい。（新嘉坡赤道小僧）

▲輕快の服裝を生意氣と嘲り、活潑の行爲を疎放と罵る、我々自轉車黨の誤解さるゝこと久し、世人の多くは未だ自轉車の有趣味を知らずと見ゆ時間の經濟と衛生上の効驗とは云はずもがな滊車滊船其他の交通機關に比して金錢の經濟あり羽織袴をばたつかせ下駄をひきづり奔走するに比して服裝の經濟あり人力車は人權を蹂躙し鐵道馬車は思ふこころに行かず自轉車は實に文明世界交通機關の王なりと云ふべし此需用の多少は直ちは其國の開蠻を示し得之を嗤るものは實に文明の何物たるを解せぬものである。（碧山）

▲肺病に悪るし、子宮病に悪るし、男子も女子も乗るべからざるものは

自轉車なり。（ち、か）

▲『左へ左へ』の注意に、狩立てゝ左側へ飛び退いたさたんに、袂をかすめてかけぬけた自轉車、ハッと思ッて更に一足飛び退いた。叱られて沸いた血が、をかげで一時に冷却した。（赤背子）

▲二人乘りはホッ〳〵見受ける、三人乘四人乘五人乘六人乘の外國にはやる自轉車はマダ流行しない、これに就ても我國道路の不完全は嘆息に堪へぬ事である。（本多生）

▲自轉車の流行も漸々と其區域を擴め、一般青少年商人の外學者軍人官吏の各階級漸次之を用ゆるに至りたるは吾人の窃に喜ふ所なるも、割合に婦女子の乘用者少きは遺憾なることゝもなり、是れ本邦婦人從來の坐作進退服裝に至るまで斯る活潑の技に適せず隨て之を試みんとするの意志も起らざるなる可し、併し女學生袴の風盛んになりたる以來、彼等の步行し運動する樣、如何にも氣兼ねなく活潑に赴きたる模樣なれば、やがて學校其他に通ふにも、或は郊外の運動等輕羅满裝快輪を輾せて男子を驅け拔く女丈夫も出で來ん、斯る塲合には或は妙齡の佳人才子或は新婚の夫婦者等山村河畔徐に胸襟を披くに至らんか、自轉車の流行も玆に至られば、如何にもさびしく物足らぬ心地せらるゝなり。（か、ほ）

▲女子の間に自轉車の盛んならざるは種々の原因もあろうが第一に服裝の罪である、自轉車を見て女服改良を思ふ。（改良論者）

▲和服の自轉車特に尻をからげて毛脛が露はして走るもの、帽子を脊けずして走るもの、婦人の丸髷姿にて乘れるもの、いづれも醜きことの極みである。（A、B）

課題

女服の改良に就て　六月十五日まで

我邦の家屋に就て　七月十五日まで

彙報

社會雜報

◎御養育主任　皇孫裕仁親王の御養育は、皇太子殿下より川村純義伯爵に御沙汰ありて、主任を仰せ付けられたりさ承る。

◎郵便貯金の現況　一時三千萬圓に垂んとせし郵便貯金二千萬圓を下り遞信省は種々勸誘の方法を講じたる結果一昨年來世間は益〻不景氣なるに貯金は漸次增加し前年との比較に於て左の如き大差を見るに至れりさ

	人員	金額
三十三年		
三月	五四、六八三	一、一三三、五六一圓
四月	六五、八六四	一、〇三七、三三七
三十四年		
三月	八九、三三九	一、五四〇、四八九
四月	八四、八七八	一、四二六、九三〇

●新東洋航路開始　米國トレントンに資本金一百萬圓を以て設立せしクロープ、ナビゲーション、コンパニーは今回東洋に向つて航路を開き約三千噸の汽船三隻にて太平洋沿岸、アラスカ、布哇濠洲、日本及び支那等の各地に寄港すべしと

●北清各國兵の健康　北京駐在軍の報告に據れば昨年十二月中に於ける各國兵の入院患者は一千人に付英國は二人二八、米國は一人六六、獨逸は一人四四、日本は〇、〇八なり以て我兵の健康を知るに足る

●日比谷公園　日比谷公園には周圍に大個の門を造る設計にて夜間十一時若くは十二時に閉鎖することと爲すべき由而して霞ヶ關より入るものを霞門と稱し山下見付より入るものを日比谷門と稱し舊日比谷見付より入るものを有樂門、其四方より入るものを櫻門と稱し幸橋內より入るものを幸門と稱し議長官舍横手より入るものを西幸門と稱す

●世界一週切符　日本郵船會社の歐米兩線連絡切符價格左の如し

(甲) 世界一週切符 (蘇士及紐育經由) 九百二十圓或は九十二磅

(乙) 世界一週切符 (蘇士及セントローレンス經由) 八百九十圓或は八十九磅

●ペルリ上陸紀念碑　米友協會の主唱に係るペルリ上陸紀念碑は伊藤侯の揮毫にて「北米合衆國水師提督伯理上陸紀念碑」碑石は仙臺石にして長さ一丈八尺幅八尺礎石三段にして高さ七尺以上

●出獄人保護事業　原胤昭氏の主管に係る出獄人保護事業は明治三十年一月創立以來收容したる總人員四百五十三人內遷善して一戸を爲し既に妻子家族のあるもの東京に百七十餘人地方に百九十八人保護會に引取られたる後再び犯罪せるもの三十餘名逃亡者二十五名所在不明者三十餘名なり原氏が大數以前より手掛けたる一切の出獄者を合するときは前後通じて八百餘名に上る由目下同會に寄宿して其の保護の下にある現人員は五十三名にして是等の出獄者は各自治自炊實費の外は之を貯蓄せしむる法を立て半年乃至一年を經過し相當の資金を貯へ得れば一家を爲さしむるなり現在寄宿者の職業別は大工三飾職一左官五はんぺん賣一氷屋一土掘五高人足九賄夫一掃除夫一電話工夫三其他土方日雇等にして最下等のもの一日賃金平均三十錢より四十五錢大工左官等は六七十錢より上等のものは八十錢位を得るものあり而して彼等の生活費は一人一日十二錢五厘居住費二錢五厘合計十五錢以上消費せしめず嚴格なる法則に依りて殘餘を貯蓄せしむるが故に保護の結果頗る良好にして十中の六分强は確かに改善の効を奏すと云ふ

●東京市部火災調査表　警視廳消防本署にて調査せし火災調査表は左の如し (但し本年一月より四月までと昨年一月より四月までの比較なり)

△出火度數月別比較

月別	本年出火度數	昨年出火度數	昨年に比し増
一月	二七	二二	五
二月	四六	二九	一七
三月	四〇	三六	四
四月	二〇	一七	二
計	一三三	一〇四	二九
內消止	七九	六四	一五

△燒失戸數月別比較

月別	本年燒失戸數	昨年燒失戸數	昨年に比し増	減
一月	九一	一八	七三	:
二月	三九	七二	:	三三
三月	六八	四六	二二	:
四月	二四	一八	六	:
計	二二二	一五四	六	:
內半燒	一一四	八六	六	:

△發火原因

稱別	度數	種別	度數
風呂	二	摺付木	九
竈	四	火消竈	二
炬燵	一〇	吹殻	一三
洋燈	一六	其他	二三
火鉢	五	放火	三〇
灰	一	原因不明	五
焚火	七	計	一三三
燈火	二		

△放火度數月別比較

月別	本年度數	昨年度數	昨年に比し增
一月	一〇	四	六
二月	一〇	三	七
三月	七	四	三
四月	三	二	一
計	三〇	一三	一七

●東京留學々生の費用　萬朝の報に依れば左の如し

下宿料（三等に分ち六疊を最上とし四疊半を普通とす）

一等	食料七圓	室代二圓五十錢	計九圓五十錢
二等	同　六圓	同　一圓八十錢	同七圓八十錢
三等	同五圓五十錢	同　一圓五十錢	同七圓．

以上の三等に分たるれど學生の十の七八は二等以下に住するもの丶如し最も疊の多少素人下宿屋等に依り多少の相違あれど概するに食料室代ともに合計八圓とすれば大差なかるべし之に學校の授業料二圓（中學、法、醫等大差なし官立學校には月々ならずして半期のものもあり）紙、筆、墨其他炭、油、湯錢、髮錢等を合して五圓とすれば決して不自由を感ずることなく寧ろ裕なる部ならん今或る書生の先月分下宿屋書出しを記載して參考に供せんに即ち左の如し

一日	一錢	茶
同	十錢	菓子
二日	廿四錢五厘	蕎麥七ッ
六日	九錢五厘	洗濯四品
同	一錢	マッチ
八日	五錢四厘	玉子二
十日	十八錢	石油
十一日	二錢七厘	玉子一
十二日	廿二錢	蕎麥
十五日	一錢	ランプしん
十六日	九錢	洗濯四品
十七日	八錢	下駄齒入
十九日	一錢	茶
同	十錢	ビスケット
廿日	五錢二厘	玉子二
廿五日	二錢六厘	同一
廿六日	五錢二厘	同二
廿九日	二錢七厘	同一
卅日	十二錢	炭
同	十八錢	そば
	六圓	食料
	一圓十錢	座敷料
	二十五錢	新聞代

計金九圓三錢八厘

右の計算に依れば父兄より毎月十五圓の送金あれば何の不足なく書籍をも買ひ得らるる豫算なりと

教育宗教

伯林の花祭（ブルーメンフエスト）

在獨　狹陽生　報

○釋尊降誕會○

四月八日前二日咄嗟の間に歐洲未曾有の佛陀誕生會を當地伯林にて執行仕候、本派本願寺留學文學士薗田宗惠氏同大谷派本願寺の留學文學士近角常觀氏の二氏より、二三の人に交捗され候處、直ちに多くの發起者を得、種々の準備整頓し多くの招待狀は出され申候、同日は宛も基督復活祭と同日に當り候事とて大に諸方の注意を引き、午後八時の定刻來會者は二百八十餘に達し候、會場はホテルの廣間にて天上天下を指せる小佛像を安置し、周圍に種々の花を飾り、如何にも立派に出來上り候、初めに長岡大佐（外史）立ちて開會の辭を述べプロスト判事（和獨會長）之を獨譯し、次に姉崎文學士（正治）は降誕會の歷史より說き起して佛陀出生の年代を明にし更に其聖日に就て佛耶兩祖の間に於ける契合點を演べ

得意の梵語を混じて縷々辯する所あり、巖谷小波氏繼で出で自作の新メールヘンを讀み申候、其脚色は、昔躑躅及び椿の兩者各盛春の季に相會談し吾等今幸ひに美麗なる花を開けるも知らず來春又此の如くなるを得るや否やと云ふを序言とし之に對して椿の云ふやう印度に釋迦てふ聖人あり彼に詣でゝ願ふ所あらば來年も來々年も永劫に花を咲かすを得べしさて兩者相携へて行く、佛陀所願を聞き諭すに吾今裸體にして行を修す若し爾等吾に衣を惠まば吾爾等をして長へに其花を持たしむべしさの事を以てすと云ふに在也、此詩的說話終りてドクトルブラン氏の演說あり最後に藤代文學士（禎輔）は貴婦人に對する一場の挨拶を爲して大喝采を博せり、氏は先づ花祭と云ふ事に就て我國の光景を敘べ春の日本は野も山も賤が伏屋も破ぶれたる垣根も皆花を以て滿ち自ら天然の花祭を成せり當國に在ては即ち然する能はずとて當日裝飾の不十分なるを謝し更に轉してシルラーの詩を引用し來り、實に彼の云ひけん如く婦人は造物者が此人生に下し賜へる生きたる薔薇の花なり吾等は今此會に於て斯くも光榮優美なる生きたる花の香に接するを得たるは眞に感謝に堪へざるなりと結び巧妙の辭、流暢の辯、婉曲の語、殆と獨逸人をして顏色なからしめ候

藤代氏の挨拶後一同舞蹈室に移り、歡を極め翌日の午前三時半に散會致し候新聞雜誌記者多く來りて寫眞を撮り翌日の伯林ターゲブラットには二段に亘る長篇の記事を揭け口を極めて賞讃し姉崎氏の比較宗敎上の演說に次で巖谷氏の詩的作物を黜け、別けて藤代氏のダーメンに對する婉麗の辯舌に至りては未だ曾て聞き得たることなしさまで嘆美致し候其他衆目を惹くこと最も大なりしは園田近角兩氏が眞宗の僧服を着し居りたる事、各辯士が皆日本服に袴を穿ちし事（演說は皆獨逸語）等にして其中の特志者には英文大乘佛教大意（淨土宗黑田眞洞師著同宗學生英譯）一冊宛を施與し又佛像を飾れる花は皆手折りて來會者に頒ち候、尙此日の佛陀降誕會は啻に伯林のみならずストラスブルグにては渡邊海旭（淨土宗）萩原雲來（同上）の兩氏又之を修しライプチッヒにも亦同樣なる營み有之候

●東京府私立佛敎高等中學　前月高輪の本願寺同校は徵兵令第十三條に依り認定（但し認定の効力は第二部生に及ばす）の旨文部省より告示あり

●教育會の土人學校設立　帝國敎育內に設置しある北海道土人救育會にては北海道廳に於て既に土人學校設立の計畫あれは敎育會の分とは別個の事業さする事に決し設立の場所は差當り釧路國川上さ石狩國札幌さの二ヶ所に豫定して豫算編製に着手委員さして塚本道遠、湯本武比古、福岡秀猪の三氏を擧げたり

●築地本願寺落成式　本月二日三日四日の三日間執行

●東西兩大學收容人員　本年度は東京九百七十六名京都百八十五名を收容する旨兩大學より文部省に通知し甚だ少數なるにより更に增員すへきを命じたり工科大學は最も志望者多きに付本年も競爭試驗を行ふに至るべしといふ

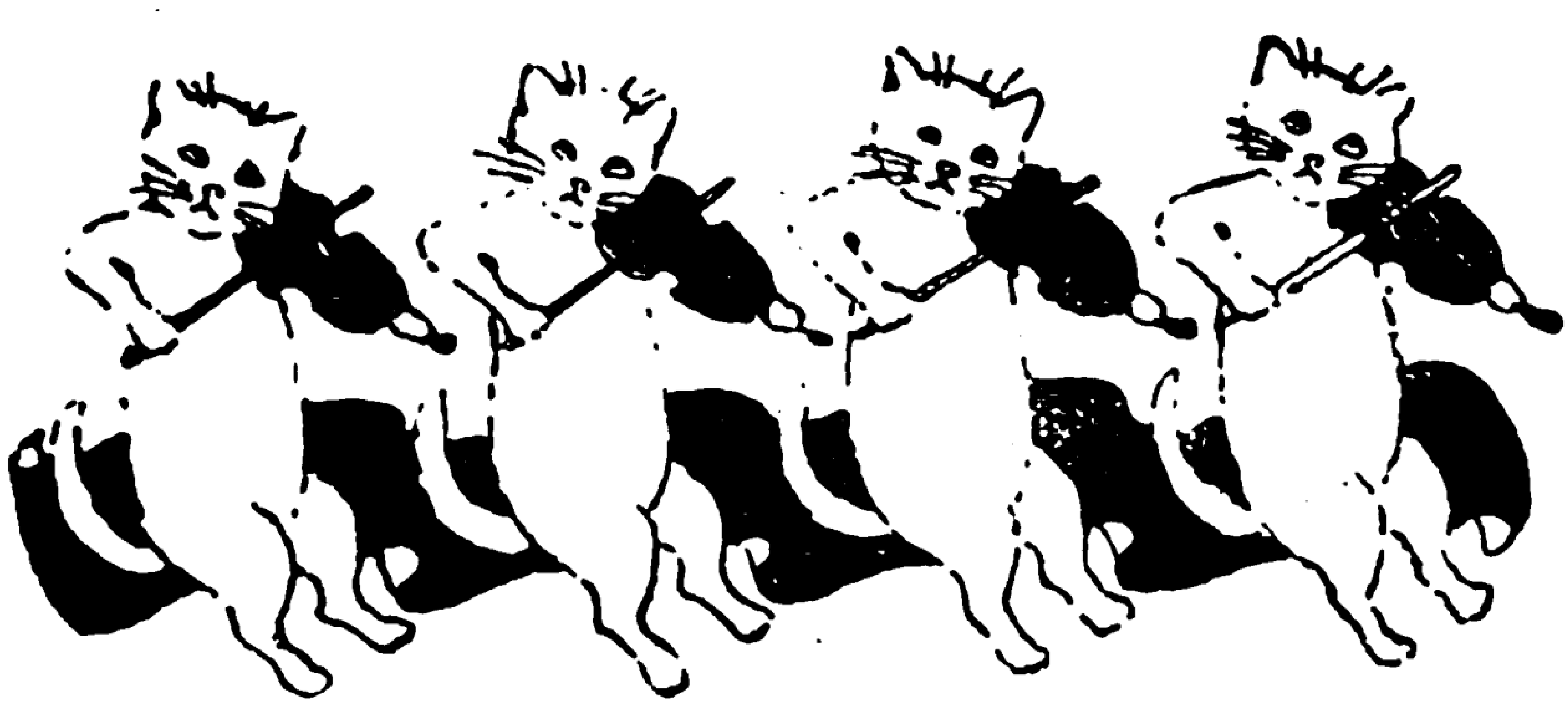
●日本女子大學　開校日尙ほ淺きも地方より續々入學を申込む者多く既に豫定の學生も入學せしめたる今日如何さもなし難く一々拒絕し居る由なるが入學生の總數は四百六十名餘に達し內大學部學生は百五十名にて寄宿舍の如き二棟の設備あれど既に滿員にて二百有餘名の學生を通學せしめ居る有樣にて寄宿舍增築の內議中なりさ

●清國杭州本邦人教育　○武備學堂　明治卅二年の創立にして目下刺統森氏總辦として我陸軍大尉一名特務曹長二名を聘し專ら生徒を日本的に訓練しつゝあり生徒の數は七十二名之れを青年初年の二科に區別し成績頗る良好○蠶學堂　去る明治卅年知府林啓の眞識に基き開校せしものにして本邦人前島某氏教頭として數名の支那助教師を以て教授の任に當り現に五十名の生徒を有し昨卅三年六月第一期卒業生十一名を出したるが是れ等は皆地方の各州縣に派し試育所を設立し將來望みありき○本願寺所屬東文學堂　附屬事業なるも反て本業たる布教よりも盛大にして目下青年科四十餘名幼年科二十餘名の生徒を有し重に普通學を教授し又特志者の爲め英語課の設けもあり

●高等師範學校長の任命　伊澤氏去つて以來、澤柳局長の兼任を以て、久しく專任校長を缺きたる高等師範學校は、嘉納治五郎氏、いよ〱去月九日を以て、任ぜらる

●高等學校長會議　同會議は四月二十九日開會五月五日を以て結了

●馬翁の遺書悉く日本に來る　比較宗教學の開祖比較言語學の泰斗として名高きマクス、ミユラー氏の遺書はその數一萬五千册に近く實に偉大の文庫にして、十九世紀の著述中言語、宗教、文學、歷史に關する樞要の書籍を包含し殊に東洋に關するもの夥しく比類稀なるものなるの同博士の歿後その遺言を附して賣却せんとし獨逸の二三大學に於て購得の企ありしが、未亡人は之を日本に賣らんとを望み亡博士の本意にも叶ふべしと云ひ、且つかゝる當代思想の大家の所有にして歷史あり實益ある文庫は我國學術の進運に關する所多く、世界に於ける我大學の名譽ともなればとて、東京帝國大學にてその購求を希望し、諸般計畫する所ありしも豫算の不足にて成就せず、遺憾とする所なりしが今回岩崎男爵に於て全文庫を購求し、諸税運賃を合して約三萬六千圓を支拂ひ、到着の上は之を東京帝國大學に寄贈する筈なるが、加藤外相も大に斡旋の勞を取れりと云ふ近來の美擧とすべし



帝國東洋學會趣意

本會は、東洋諸國に於ける言語、文學、宗教、哲學、歴史、地理、神話、俗話、工藝、美術等に關する史實を現存の古文書に依りて研究するを目的とす、

現存の文書中、その材料最豐富にして、曾て學術的講究を經ざるものを一切藏經とす、その卷帙の夥しき實に八千五百三十四卷、加ふるに藏外の諸書を以てすれば、殆萬餘に達せんとす、殊に我國には、本邦選述大藏經の外、宋、元、明、清、麗の各完本の現存するありて、佛教典籍の完備殆世界無比と稱すべし、抑漢譯藏經の含蓄せる所は、他國現存の諸藏と稍その趣を異にし、獨宗教、哲學のみならず、諸般の學藝に關する材料を網羅して餘さず、學術攻究に資する所亦實に大なり東洋の一大古學叢書と稱するも、亦過言にあらざるなり、而して之が對照研鑽の用に供すべき諸國異譯の經典も亦その數多く、南方佛教諸國の經藏は、既に印行流布する所となり、暹羅藏藏經全部、及龍動巴利書出版會社にて發行せるものも既に我國に入り、北方佛教の典籍たる西藏藏經も、近時既にこれを得るの機に達せり、印度ニポール現存の大乘諸典は、曩に歐洲にて出版せるもの、外、現に露西亞帝國大學內大乘書出版部、及印度カルカッタ府佛教出版會社に於て修成せるものも多く、蒙古滿州亦夥多の譯書を有す、此等の諸書を對校し、その材料を自由に運用し、攻究討尋の結果を世界の學術界に貢獻し得るの地に在るもの、獨我國學者あるのみ、故に我黨自ら揣ず、大方諸君の贊同を得て、玆に本會を組織し、內、藏經の內容を攻究し、諸般の材料を査定類聚し、外、異譯の諸聖典と對照考覈し、その結果を編纂大成し、本會の目的を達する第一段となさんと欲す、

本會は藏經調査の事業終るを竢ちて、漸次他の文書の攻究に及ぶものとす、

帝國東洋學會規則

一、名稱

第一條　本會を帝國東洋學會と稱す、

二、目的

第二條　本會は東洋諸國に於ける言語、文學、宗教、哲學、歴史、地理、神話、俗話、工藝、美術等に關する事項を現存の古文によりて研究するを目的とす、

三、事業

第三條　本會は第一着手として左の如き事業の成効を期す

イ 印度學藝叢書編纂
ロ 東洋各國佛教史編纂
ハ 辭書編纂
ニ 原本調査
ホ 典籍出版
ヘ 原譯比較研究
ト 質疑應答

（右の外機關雜誌を發行することあるべし）

四、會員

第四條 本會々員を分ちて會員、贊助會員、名譽會員の三種とす、

第五條 本會と目的を同うしその平素の研究によりて直接間接に本會の事業に貢獻するものを會員とす、但會員は評議員の決議に依り之を定む

第六條 團躰若くは個人にして金圓を寄附し以て本會の事業を助くるものあるときは評議員の決議を經て贊助會員となす、

第七條 名譽會員は評議員の推擧によるものとす、

第八條 各會員は本會の編纂にかゝる叢書、辭書その他の出版物を實費にて購求することを得

五、役員

第九條 本會に左の役員を置く、

會長 一名、 副會長 一名、
編輯員 若干名、 書記 若干名、
評議員 十八名、 幹事 三名、

役員職制は別に之を定む

六、雜則

第十條 臨時學術講演若くは懇話會を催し會務の進行を報告し又は會員相互の親睦を計るべし

第十一條 會計に關する規則は別に之を定む、

第十二條 本會規則は評議員の決議を經るにあらざれば變更することを得ず、

會長 常磐井堯猷

評議員 渡邊國武 渡邊龍聖 高楠順次郎 坪井九馬三 南條文雄
村上專精 上田萬年 井上圓了 大内靑巒 前田慧雲
松本源太郎 藤島了穩 澤柳政太郎 三宅雄次郎 三上參次
島地默雷 島田蕃根

東京市本郷四丁目五番地
帝國東洋學會假事務所